marantz®

Model SR7001 取扱説明書

AV Surround Amplifier

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保管してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの株式会社マランツコンシューマー マーケティング各営業所にお問い合わせください。

本機の主な特長

本機には、以下のような最新のデジタル・サラウンド・サウンド・デコーディング・テクノロジーが搭載されています。詳細は、「サラウンドモード」（36ページ）を参照ください。

- Dolby Digital、Dolby Digital EX、
- DTS、DTS ES、DTS Neo:6、DTS 96/24
- MPEG-2 AAC
- Dolby Pro-Logic Ⅱx
- Circle Surround Ⅱ
- THX SURROUND EX
- THX Select 2. THX Surround EX

Audyssey MultEQ オートセットアップシステム
付属のAudyssey社製高性能マイクを使い、視聴エリア内の6ヶ所の視聴位置でスピーカーの特性とリスニングルームの特性を測定したデータを、高性能DSPにて分析、演算処理を行いリスニングルーム全体を複数のリスナーに対し、最適な視聴環境になるように周波数特性を補正するオートセットアップ機能を搭載しました。

電流帰還（カレントフィードバック）7チャンネルディスクリートパワーアンプ
マランツ ピュアオーディオアンプで定評の電流帰還型回路をパワーアンプ部に採用し、全7チャンネル同一パフォーマンスのハイパワー・ワイドレンジ・ディスクリート・パワーアンプを搭載しました。

THX Select2対応
映画館の音響効果をご家庭に提供するのはもちろん、全チャンネル同時フル出力での再生も保証するなど、アンプとしての基礎体力にも厳格な「THX SELECT2」に対応しました。

HDMI端子の搭載
最新のVer1.2に対応したシリコンイメージ社製HDMI用ICの搭載により、映像信号や従来のDVDオーディオのマルチチャンネル信号の伝送は勿論、Super Audio CDのDSD（Direct Stream Digital）再生にも対応しました。

ビデオコンバーター搭載
フルデジタル処理による映像信号のアップコンバーター（コンポジット → S-ビデオ / コンポーネント /HDMI、S-ビデオ → コンポーネント /HDMI、コンポーネント → HDMI）とダウンコンバーター（コンポーネント → S-ビデオ / コンポジット、S-ビデオ → コンポジット）を設けました。
ANALOG DEVICES社製のビデオデコーダーICを使用して、画質の劣化を最小限に抑えた変換を行います。

I/Pコンバーター機能
ビデオ回路に高性能I/P（インターレース / プログレッシブ）コンバーターを搭載しました。
SR7001に入力される480iのコンポジット、S-ビデオ、コンポーネントビデオ信号を高速で正確なI/P変換を行い、コンポーネント又はHDMIの映像出力端子へ高品質でスムーズな480p映像を出力します。

広帯域コンポーネントビデオセレクター
コンポーネントビデオ信号に対して入力を4系統、出力を2 系統設けました。ハイビジョン信号等の広帯域（80MHz（－1dB））な映像信号に対応します。

DCトリガー出力
電動スクリーンや電動カーテンなど、12V（ボルト）DCトリガーで動作する機器の操作が2系統まで行えます。

RS-232Cコントロール端子搭載
クレストロン等を利用したカスタムインストールに対応します。

マルチゾーンシステム
マルチゾーン用の出力として映像・音声出力端子を装備しました。

サブスピーカーターミナル
SR7001を5.1ch再生で使われるユーザーのために、使用しないサラウンドバックチャンネル用のアンプをマルチルーム用のアンプとしてつかえる、マルチスピーカー機能を装備しました。
また、マルチスピーカー用のスピーカーターミナルをサブスピーカーターミナルとして装備したので、ユーザーはスピーカーの接続を変えることなく、7.1ch再生と5.1ch再生＋マルチルームスピーカーの両方をMENU SYSTEMで切り替えて使うことが可能となりました。

その他の特徴

- 32bit 最新DSPを搭載。
- 192kHz/24bit DAコンバータを全チャンネルに採用。
- 192kHz/24bit ADコンバータをアナログ入力用に採用。
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオ オフモード。
- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を有効活用できるAUX2入力。
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめる バーチャルサラウンド機能。
- ゲーム機やポータブル機器の接続に便利なフロント光デジタル入力端子。
- 広帯域コンポーネント ビデオセレクター。
- 他の部屋でもステレオ再生が可能な マルチルーム機能。
- TV信号入力で電源をON/OFFする TVオートパワー機能。
- 各種設定をOSD画面にておこなえるOSDメニューシステム。
- 確実なスピーカー結線が可能な 全チャンネル大型スクリュー式スピーカーターミナル。
- L/Rスピーカーを選択可能な スピーカーA、B切り替え。
- LCD搭載、マクロ機能付きラーニングリモコン。
- 環境に配慮したスタンバイ消費電力低減モード。
- フロントパネルにカーソルボタンを搭載しました。
- ヘッドフォンで優れた頭外定位感を実現するドルビーヘッドフォンを搭載
- 電源供給能力に優れたシールド付大型EIトランス搭載
- CDプレーヤーやDVDプレーヤーとデジタル接続でHDCDソフトが再生出来るHDCDデコーダーを搭載。
- HDCDの再生機能を搭載

安全上のご注意

ご使用の前に､この「取扱説明書」をよくお読みになり､正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。

- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 風呂場等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があります。次のような使い方はしないでください。

  この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

- この機器を設置する場合は、壁から 20cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から 20cm 以上、背面から 20cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて､火災･感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

警告

- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。

- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

注意

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス＋とマイナスーの向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ご不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示（条例）に従って処理してください。

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス＋端子とマイナスー端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

- 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

注 意

- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。

- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

AAC（Advanced Audio Coding）

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CHステレオ音声に加え、5.1CHサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5848391	5,291,557	5,451,954	5 400 433	5,222,189
5,357,594	5 752 225	5,394,473	5,583,962	5,274,740
5,633,981	5 297 236	4,914,701	5,235,671	07/640,550
5,579,430	08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874
98/03036	5,227,788	5,285,498	5,481,614	5,592,584
5,781,888	08/039,478	08/211,547	5,703,999	08/557,046
08/894,844	5,299,238	5,299,239	5,299,240	5,197,087
5,490,170	5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654
5,548,574	5,717,821	08/937,950	05-183,988	08/506,729
08/576,495	08/392,756			

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logicおよびダブル D記号および“AAC”ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

THXとTHXロゴはTHXの登録商標です。サラウンドEXはTHXとドルビーラボラトリーズの共同開発による技術で、ドルビーラボラトリーズの商標です。不許複製。許可のもとに使用されています。

THX SURROUND EX

DTSおよびDTS Digital Surroundは、Digital Theater System, Inc.の登録商標です。

Circle Surround II、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
Circle Surround II 技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

HDCD®, HDCD®, High Definition Compatible Digital®およびMicrosoft®は、米国内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCDシステムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の1つ以上の特許によって保護されています。
米国内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。
オーストラリア国内：669114。
その他の特許は出願中。

“HDMI” “HDMI” および “High-Definition Multimedia Interface” はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

HDMIについて

HDMIとは従来のDVI（Digital Visual Interface）規格をさらに発展させた新しい規格です。映像信号に加えてオーディオ信号をデジタルで伝送する機能が追加されています。音声/映像用に複数のケーブルが必要だったものがHDMIケーブル1本で接続ができます。
本機のHDMI入力端子はVer.1.2に出力端子はVer.1.1に対応しています。DVDオーディオのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。
※HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

著作権保護について
本機はHDCP（High-band width Digital Content Protection）に対応しています。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション（著作権保護）技術です。デジタル映像コンテンツの保護を目的にしており、本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。HDCPに対応しているテレビ/モニターなどと接続してください。また接続する機器の取扱説明書をご確認のうえご使用ください。

AUDYSSEY MULTEQ

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような要因がいくつかあります。リスニングルームの音響特性による音質への影響を正しく補正することは、測定器や専用装置、ならびに熟練を必要とします。
音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用であり、例えば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などがこれにあたります。
この程度は、聴取環境により様々です。特に、複数のリスナーが同時に視聴を楽しむ機会が多いホームシアター環境においては、個人個人のリスニングポイントにおいて生じる部屋の音響特性による音質への影響が異なり、250Hz以下の周波数域では、隣り合った2つの座席で10dBもの音量の違いを呈する場合もあります。このことは、従来のピンポイント的な補正では、リスナーすべてが均質なシアター体験ができないという問題を含んでいます。
この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後、各スピーカーの周波数特性を補正してリスニングルーム全体の音響特性を改善することですが、その変動の程度は座席ごとによって大きく異なりますので、各スピーカーの再生音をリスニングポイントを包括する数ヵ所で正しく測定することが非常に重要となります。1ポイントだけの測定結果だけでは、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合もあるためです。ですからこの数ヵ所での測定は、リスナーが一人だけであっても、効果的です。Audyssey MultEQは、リスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集されたテストデータを総合的に分析し、心理音響学に基づいて、リスニングエリア全体の音質を向上するイコライジング処理をおこないます。

AUDYSSEY MULTEQ

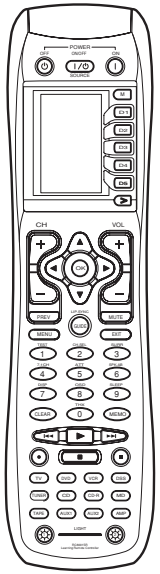
Audyssey MultEQはAudysseyラボラトリーズの商標です。
米国と国内特許出願の20030235318および10/700,220の下で許可されます。米国共同で外国特許審議中。MultEQおよびAudyssey MultEQロゴはAudysseyラボラトリーズ社の商標です。版権所有。

付属品の確認

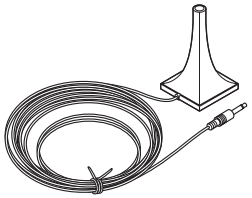
下記の付属品が揃っていることを確認してください。

もし、不足している物がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

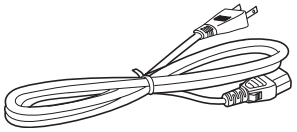
リモコン(RC8001SR)1台



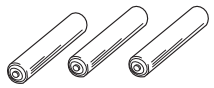
マイク1個



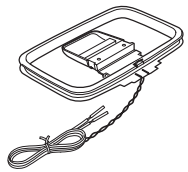
電源ケーブル　1本



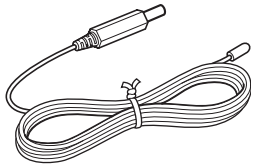
単4形乾電池　3本



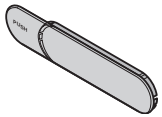
AMループアンテナ　1個



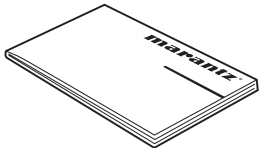
FMアンテナ　1本



フロントAUXジャック・カバー　1個



取扱説明書(本書) 1冊



保証書(外箱に貼り付け) 1部

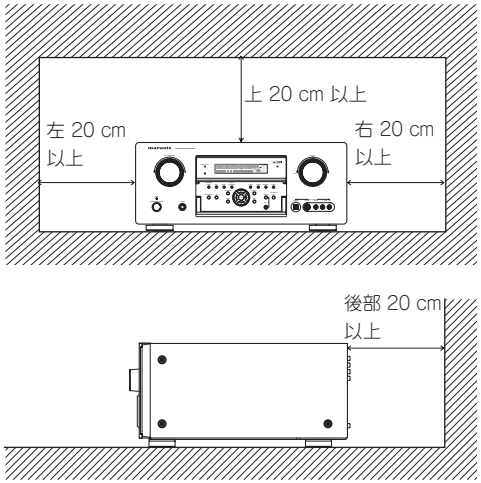
愛用者カード　1枚

ご注意

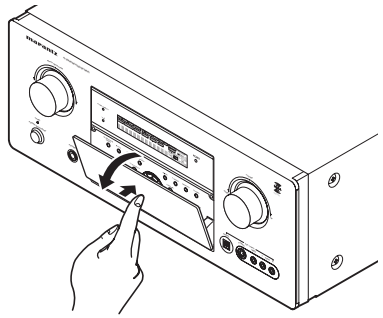
次のような場所には設置しないでください。

長い間お使いいただくためには、次のような場所に本機を設置しないでください。

- 直射日光の当たる場所
- ヒーターなどの熱機器の近く
- 湿度の高い場所や換気の悪い環境
- ほこりの多い場所
- 機械等の振動を受けやすい場所
- ぐらつく面、傾斜のある面など不安定な場所
- 狭いオーディオラックなど、熱の放射が妨げられるような場所
  熱を適切に放射するため、壁や他の機器から以下のとおり間隔を空けてください。



フロントパネルドアの開閉



フロントパネルドアの内部にあるボタンで操作したい場合、パネルの下側を押してパネルドアを開けてください。ボタンを使用しない時は、パネルドアを閉めておいてください。

ご注意

- パネルドアとパネルの間に指を挟まないように注意してください。

目　次

各部の名称とはたらき 1
フロントパネル 1
表示部 2
リアパネル 3

リモコン RC8001SR 4
名称と機能 4
表示部の表示 6
設定モード時の表示と機能 6
リモコンの動作範囲 7
リモコンに電池を装着 7
電池の交換時期について 7
時計の合わせかた 7
リモコンでSR7001を操作する 8

各機器との接続 9
スピーカーの配置 9
スピーカーの接続 9
音声機器との接続 10
映像機器との接続 12
その他機器の接続 13
リモートコントロール接続 13
アンテナの接続 14
マルチルーム接続 15
マルチルーム 15
その他 16

システムセットアップ 17
オンスクリーン・ディスプレイ・メニューシステム（OSDメニューシステム） 17
1 INPUT SETUP 19
2 SPKR（スピーカー）SETUP 22
3 SURROUND SETUP 28
4 VIDEO SETUP 30
5 PREFERENCE（便利機能の動作設定） 31
6 ACOUSTIC EQ 33

基本操作 34
入力ファンクションの選択 34
サラウンドモードの選択 34
音量を調整する 34
ナイトモード 34
トーンコントロール 34
ダイアログ・ノーマライゼーション・メッセージについて 34
VIDEOコンバート機能 35
I/Pコンバート機能 35
ミュート機能 35
スリープタイマーを使う 35

サラウンドモード 36
サラウンド 36
SOURCE DIRECT（ソースダイレクト） 36
PURE DIRECT（ピュア ダイレクト） 36

その他の機能 40
テレビオート機能（TV-AUTO） 40
アッテネート機能 40
ヘッドホンで聞く 40
ドルビーヘッドホン・モード 40
V-OFF（ビデオ出力OFF）機能 40
ディスプレイモード 41
入力モード切り替え 41
録音・録画をする 41
スピーカー A/B 切り替え 42
7.1CH INPUT 42
AUX2入力 42
LIP.SYNC（リップ・シンク）機能 42

基本操作（チューナー） 43
チューナー（FM/AM）を聴く 43
プリセットメモリ 44

マルチルームシステム 46
マルチルーム出力端子を使用したマルチルーム再生 46
MULTI SPK端子を使用したマルチルーム再生 46
別室からのマルチルーム出力の操作 47

リモコン操作 48
マランツ製機器のリモコン操作 48
基本動作説明 50
マクロのプログラム 53
クローンモード 55
セットアップ 56

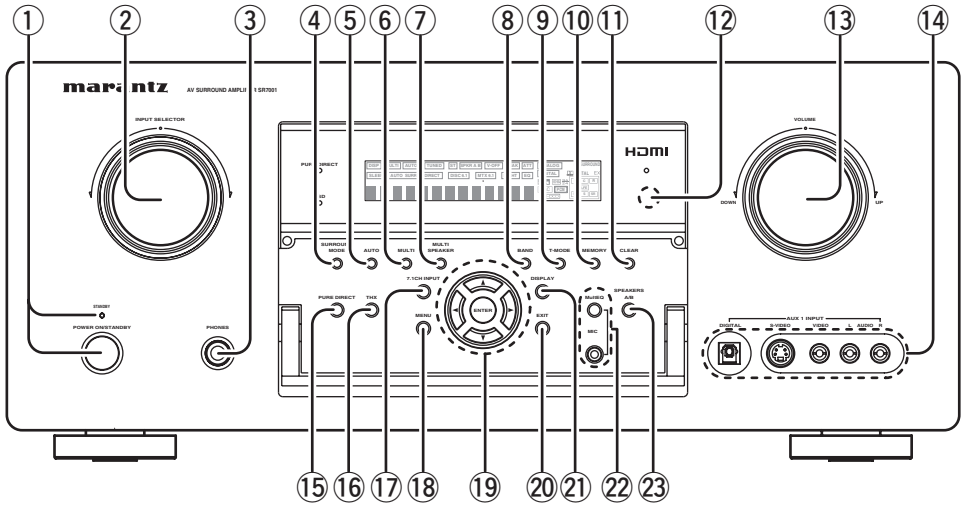
故障かな？と思ったときは ..57
HDMI 58

異常動作のときは 59
メモリバックアップについて 59
初期状態に戻すには（リセット） 59

ステレオ音のエチケット 59
保証・アフターサービス 59
仕　様 60
外観寸法図 60
セットアップコード i
ダイレクトボタン機能 vi

各部の名称とはたらき

フロントパネル



① POWER(主電源)“入／切”スイッチ・STANDBY(スタンバイ)表示インジケーター

このスイッチを押すと、本機の主電源が入ります。もう一度押すと主電源が切れます。主電源が入っている状態にてリモコンによるパワーオン／スタンバイの切り替えが可能です。本機が電源スタンバイ状態の時にSTANDBYインジケーターが点灯します。

② INPUT SELECTOR(入力ファンクション切り替え)つまみ(音声／映像)

入力ソース機器を選択するときに使います。
音声機能ソース(TUNER)は映像ソースと別々に選択することができます。「入力ファンクション機器の選択」(34ページ)を参照してください。

③ PHONES端子(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォン用の接続端子です。この端子にヘッドフォンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。

④ SURROUND MODE(サラウンドモード)切り替えボタン

サラウンドモードを選択するときに使います。(34ページ参照)

⑤ AUTO(オートサラウンド)ボタン

このボタンを押すと、オートサラウンドモードになります。このモードを選択すると、本機は入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択します。(34ページ参照)

⑥ MULTI(マルチルーム)ボタン

このボタンを押すと、マルチルーム機能の設定ができます。「**MULTI**」インジケーターが表示部に点灯します。(46ページ参照)

⑦ MULTI SPEAKER(マルチルームスピーカー)ボタン

このボタンを押すと、マルチルーム・スピーカー機能の設定ができます。(46ページ参照)

⑧ BAND(バンド)ボタン

チューナーのFMとAMを切り替えるときに押します。

⑨ T-MODE(チューナー・モード)ボタン

FMバンドを選択していて、オート・ステレオ・モードまたはモノ・モードを選択するときに押します。
オート・ステレオ・モードのときは「**AUTO**」インジケーターが点灯します。(43ページ参照)

⑩ MEMORY(メモリー)ボタン

チューナーに周波数をプリセットするとき、または放送局名を入力するときに押します。(44ページ参照)

⑪ CLEAR(クリア)ボタン

放送局メモリ設定、あるいはプリセット・スキャンをキャンセルするときに押します。(45ページ参照)

⑫ リモコン受光部

リモコンの赤外線信号を受信します。

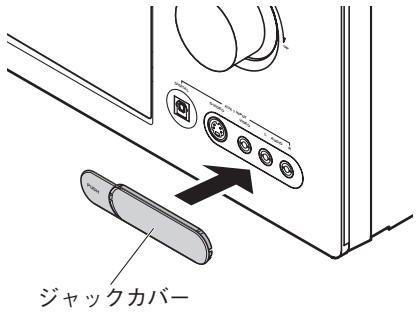
⑬ VOLUME(音量調節)つまみ

全体的な音量を調整します。このコントロールを右に回すと音量が大きくなります。

⑭ AUX1 INPUT 端子

ビデオカメラ、ゲーム機等の接続に使用できます。使用しないときは付属のジャックカバーを取り付けることができます。

フロントAUXジャック・カバーの取り付け方



⑮ PURE DIRECT(ピュア ダイレクト)ボタン

このボタンを押すとソースダイレクトになり、表示部に「**SOURCE DIRECT**」と表示されます。
もう一度押すとピュアダイレクトになり、「**PURE DIRECT**」と表示されPURE DIRECTインジケーターが点灯します。2秒後、表示部が消えます。ソースダイレクト/ピュアダイレクトモードでは、トーンコントロール回路とバス・マネージメント機能がバイパスされます。(36ページ参照)

ご注意

- ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
- 各スピーカーのサイズは自動的に以下のように設定されます。

  フロントスピーカー = LARGE
  センタースピーカー = LARGE
  サラウンドスピーカー = LARGE
  サラウンドバックスピーカー = LARGE
  サブウーファー = YES
- この設定はソースダイレクト/ピュアダイレクトが機能しているときの一時的な処理なのでSPEAKER SETUP MENUには反映されません。

⑯ THXボタン・インジケーター

サラウンドモードをTHXモードにするときに押します。

⑰ 7.1CH INPUTボタン

マルチチャンネル入力(7.1CH IN端子)を選択するときに押します。

⑱ MENU(メニュー)ボタン

OSDメニューシステムを起動するときに押します。

⑲ カーソルボタン(◀/▶/▲/▼)/ENTERボタン

OSDメニューシステムおよびAM／FMチューナーを操作するときに押します。

⑳ EXIT(イクジット)ボタン

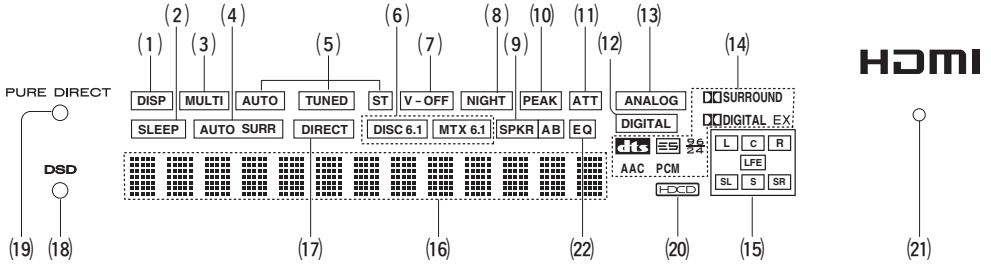
OSDメニューシステムを終了するときに押します。

㉑ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン
表示部のディスプレイモードを切り替えます。詳細は「ディスプレイモード」（41ページ）を参照してください。

㉒ MultEQ（マルチイーキュー）ボタン／MIC（マイク）ジャック
付属のマイクで自動的にスピーカー特性を測定するときに押します。（23ページ参照）

㉓ SPEAKERS A/B ボタン
スピーカー・システムAとB、Aのみ、Bのみ、OFFを選択するときに押します。

表示部



(1) DISP（ディスプレーOFF）表示
表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。（41ページ参照）

(2) SLEEP（スリープタイマー）表示
スリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。（35ページ参照）

(3) MULTI（マルチルーム）表示部
マルチルーム機能が動作している場合に点灯します。（46ページ参照）

(4) AUTO SURROUND（オート・サラウンドモード）表示
AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが使用されているときに点灯します。

(5) TUNER（チューナー）モード表示
AUTO
チューナーがオートモードのときに点灯します。
TUNED
放送を受信しているときに点灯します。
ST（ステレオ）
FM放送をステレオで受信しているときに点灯します。

(6) DTS-ES デコードモード表示
DTS-ESデコード動作モード（Discrete-6.1かMatrix-6.1）を表示します。

(7) V-OFF（ビデオ オフ）表示
ビデオオフ機能が動作している場合に点灯します。（40ページ参照）

(8) NIGHT（ナイトモード）表示
NIGHT モードを機能させた場合に点灯します。（34ページ参照）

(9) SPKR（スピーカー）AB表示
選択しているスピーカーシステム（AまたはB）を表示します。
スピーカー オフ時はA、Bとも消えます。（42ページ参照）

(10) PEAK（ピーク）表示
アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルの場合点灯します。この場合、アッテネーター機能を働かせてください。（40ページ参照）

(11) ATT（アッテネーション）表示
アッテネーション機能が働いているときに点灯します。（40ページ参照）

(12) DIGITAL（デジタル）入力表示
デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(13) ANALOG（アナログ）入力表示
アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(14) デジタル信号フォーマット表示部
デジタル入力を選択している場合に、入力されている信号のフォーマットを点灯表示します。
DIGITAL：ドルビーデジタル信号が入力されている場合に点灯します。
SURROUND：入力信号がドルビーデジタル信号で、かつサラウンド処理をされている場合に点灯します。
dts：dts信号が入力されている場合に点灯します。
ES：dts-ES処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
96/24：dts-96/24処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
PCM：PCM信号が入力されている場合に点灯します。
AAC：MPEG2－AAC信号が入力されている場合に点灯します。

(15) プログラムチャンネル表示
デジタル入力信号を再生時、入力信号の記録チャンネル数を表示します。
5.1ch信号入力時は **L**、**C**、**R**、**SL**、**SR**、**LFE** が点灯します。
2ch信号が入力された場合は **L**、**R**が点灯します。
詳細は、38ページの「使用するサラウンドモードと入力信号について」をご覧ください。

(16) 選択入力、サラウンドモード表示部
選択した入力ファンクションや、サラウンドモード等を表示します。

(17) DIRECT（ダイレクト）表示
SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）または、PURE DIRECT（ピュアダイレクト）機能を使用しているときに点灯します。

(18) DSD 表示
スーパーオーディオCDのDSD（Direct Stream Digital）の音声信号を再生している時に点灯します。

⑲ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）インジケーター
ピュアダイレクトモードを選択したときに点灯します。

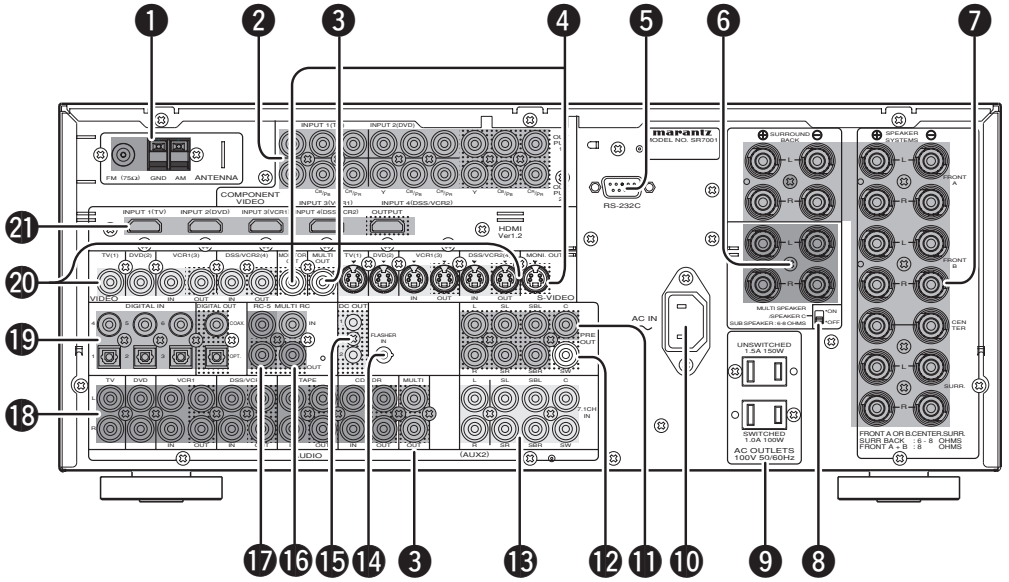
⑳ HDCD表示
デジタル入力でHDCD信号が入力されたときに点灯します。

㉑ HDMI表示
SR7001がHDMI入出力を行っているときに点灯します。

㉒ EQ表示
AudysseyのEQモード選択時に点灯します。

リアパネル

「各機器との接続」（9～16ページ）の接続例を参照しながらご利用ください。



❶ FM アンテナ端子（75 Ω）
付属のFMアンテナケーブルを接続します。
電波の弱い地域は市販のFMアンテナをご使用ください。

AM アンテナ端子およびアース端子
付属のAMループアンテナを接続します。受信状態が最良になる位置にループアンテナを置いてください。

❷ コンポーネントビデオ入出力端子
DVD プレーヤーまたはその他の機器にコンポーネントビデオ端子が装備されている場合は、本機のコンポーネントビデオ端子（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）と接続してください。
コンポーネントビデオ入力コネクター4系統と、ディスプレイ機器用にコンポーネントビデオ出力コネクターが2系統あります。

❸ マルチルームシステム用出力端子（ビデオ＆オーディオ）
マルチルームシステム（別室）側のTVのビデオ信号入力端子、アンプ等 のアナログオーディオ信号入力端子へ接続します。（15ページ参照）

❹ モニター用映像出力端子（ビデオ信号出力、S-Video信号出力）
テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各1系統装備しています。（12ページ参照）

❺ RS232C端子
将来に向けてソフトウェアのアップグレードや外部コントロールシステムの接続用に使用します。

❻ サブスピーカー出力端子（マルチ・スピーカー／SPEAKER C）
サラウンドバックをご使用にならないときは、マルチルームのフロントL/Rとして使用できます。またスピーカーCとしてバイアンプ接続することも可能です。この場合は「SPEAKER C」切り替えスイッチを「ON」にして使用します。

❼ スピーカー出力端子
各チャンネル（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）のスピーカーに接続します。

❽ SPEAKER C スイッチ
サラウンドバックまたはマルチルームスピーカーとして使用するときは「OFF」に、SPEAKER Cとして使用するときは「ON」にします。（15ページ参照）

❾ AC アウトレット（SWICHED/UNSWICHED）
本機のACアウトレットから他のAV機器に電源を供給できます。本機はSWITCHEDとUNSWITCHEDのACアウトレットを装備しています。

SWITCHED（スイッチド：連動）
本機の電源ON／スタンバイに連動し、電源供給をON／OFFします。
消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

UNSWITCHED（アンスイッチド：非連動）
本機の電源ON／スタンバイに関係なく、電源供給をします。消費電力が最大150Wまでの機器を接続できます。

> ⚠ 警 告
> **絶対許容電力以上の機器を接続しないでください。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。**

❿ ACケーブル接続端子
付属の電源コードを接続し、家庭用交流100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを差し込みます。

> **万一の事故防止のため、本機からACケーブルが外せる配置にしてください。**

⓫ プリアンプ出力端子（L, R, SL, SR, SBL, SBR, C）

L（フロント左）、R（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）の端子と外部アンプを接続します。

⓬ サブウーファー用出力端子

アンプ内蔵のサブウーファーまたはサブウーファー・アンプ入力端子に接続します。
アンプ内蔵のサブウーファーまたはサブウーファー・アンプのいずれかを2個使用する場合は、「Y」コネクターをサブウーファー出力端子に接続し、それぞれのサブウーファー・アンプへ接続します。

⓭ 7.1 ch音声入力端子（AUX2音声入力端子）

DVDオーディオプレーヤー、スーパーオーディオCDマルチチャンネル・プレーヤー、またはマルチチャンネル出力のある機器を接続し、5.1ch または 7.1ch 出力の音声を再生することができます。

⓮ FLASHER IN（フラッシャー入力）端子

これらの端子は、キーパッドなどを用いて各部屋から機器をコントロールする際に使用します。

⓯ DC トリガー 出力端子

この端子は他の機器を制御するためのDCトリガー信号を出します。（スクリーン、電源等）
OSDメニューシステムでこれらの端子を作動させる条件を決定します。（32ページ参照）

ご注意

- この出力電圧はステータスコントロール用です。駆動用としては十分ではありません。

⓰ マルチルームシステム用コントロール入出力端子

IN： マルチルーム・リモートコントロール機器に接続します。
OUT： マルチルーム接続時、リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたMarantz機器と接続します。

⓱ リモートコントロール入出力端子

リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたMarantz機器と接続します。

⓲ オーディオ信号用端子（TV, DVD, VCR1, DSS/VCR2, TAPE, CD/CDR）

アナログ音声端子には6系統の音声入力端子と4系統の音声出力端子があります。

⓳ デジタル入力端子1－6、出力端子（光入出力＆同軸入出力）

デジタル入力端子には、同軸入力端子が3系統、光入力端子が3系統あります。
デジタル入力端子は CD、DVD、デジタルチューナーなどのデジタルソース機器と接続します。
デジタル出力端子には、同軸出力端子が1系統、光出力端子が1系統あります。
デジタル出力端子はMDレコーダー、CD レコーダー、DAT デッキ等の機器に接続することができます。

⓴ 映像信号用端子（TV, DVD, VCR1, DSS/VCR2）

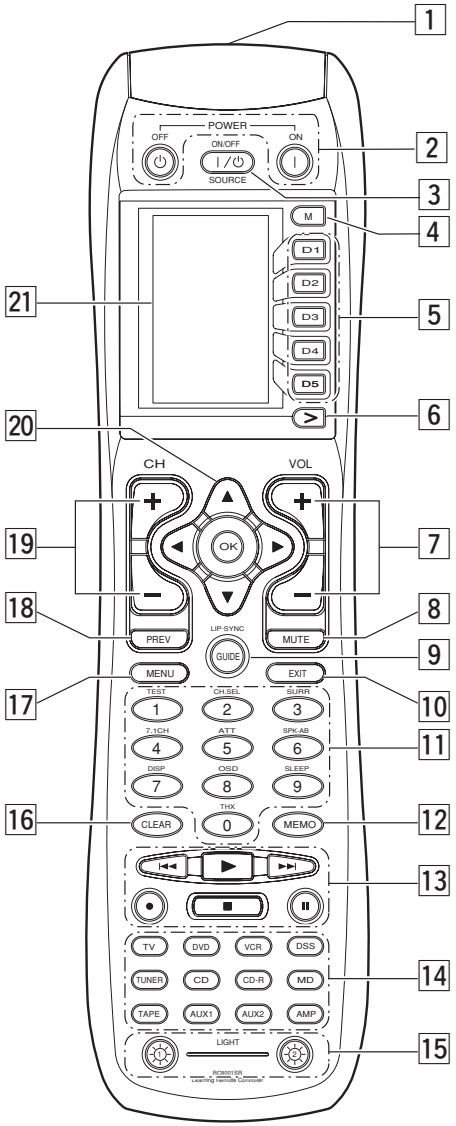
映像端子には入力端子が4系統、出力端子が2系統あります。それぞれ、ビデオおよびS-ビデオ用の端子があります。
ビデオデッキ、DVD プレーヤー、その他の映像機器を映像入力（IN）端子に接続します。
録画に使用するときは映像出力（OUT）端子へ接続します。

㉑ HDMI入出力端子

HDMI 入力端子が4系統と HDMI出力端子が1系統あります。

リモコンRC8001SR

名称と機能



ご注意

- リモコンのコード設定については、「リモコン操作の基本動作説明」（50ページ）を参照してください。

1 送信／学習用赤外線受光部
ここから赤外線が発射されます。アンプなどの赤外線受光窓に向けてボタンを押してください。他のリモコンから学習するときにも、ここに向けて行います。

2 POWER ON OFF ボタン
（アンプモード選択時）
SR7001の電源をON/OFF するときに使います。

3 SOURCE ON/OFF ボタン
DVDプレーヤー等のソースの電源をON/OFF するときに使います。

4 M（モード）ボタン
MACROのプログラムやリモコンの設定をするときに使います。ボタンを押すごとに通常モード、MACROモードに切り替わります。
ページの移動は、>ボタンを押します。最大20個（4ページ分）のプログラムができます。
Mボタンを3秒以上押すと設定モードに切り替わり、表示部に設定メニューが表示されます。
設定メニューは4ページ分あり、ページの移動は、>ボタンを押します。
PAGE4から>ボタンを押すとPAGE1に戻ります。

5 D1-D5（ダイレクト）ボタン
DVD、テレビ、アンプなどの12のソースボタン毎に5種類のダイレクト操作ができます。
ページの切り替えができますので、1ソースに対し4ページ×5種類＝20通りの操作ができます。
表示文字の変更もできます。

6 >（ページ）ボタン
ダイレクトボタンのページを切り替えるときに使います。現在のページは、表示部に表示されます。

7 VOL（ボリューム）ボタン
アンプやテレビ等のボリュームを調節するときに使います。

ご注意

- このボタンは、RC8001SR をアンプモードにしてからご使用ください。

8 MUTE（ミュート）ボタン
アンプやテレビ等の音声をミュート（消音）するときに使います。

ご注意

- このボタンは、RC8001SR をアンプモードにしてからご使用ください。

9 GUIDE（ガイド）／
LIP.SYNC（リップ・シンク）ボタン
アンプモードでリップ・シンク機能を使うときに使用します。
またアンプモード以外で使用する場合は、DVDプレーヤーやDSS（衛星放送チューナー）等のメニューを出すときに使います。

10 EXIT（イクジット）ボタン
セットアップの設定途中で、中止するときに使います。

11 数字ボタン
各ソースの0～9を切り替える時に使います。
アンプモードで使用しているときには、ボタン上部の表示に対応した操作ができます。

（アンプモード選択時）

(1)TESTボタン
各スピーカー間の出力レベル（音量）を調整するときに使用します。

(2)CH SEL.（channel select）ボタン
各出力チャンネルのレベル調整をしたい時に使用します。SURROUND（サラウンド）セットアップメニューを呼び出します。

(3)SURR（surround）ボタン
サラウンドモードの切り替えができます。

(4)7.1CH INボタン
7.1CH入力の選択および解除に使用します。

(5)ATTボタン
アナログ入力時に入力レベルを減衰させる場合に使用します。
前面ディスプレー内のPEAK、インジケーターが点灯する場合、本機能を使用してください。.

ご注意

- このボタンは、デジタル入力が選択されているときは機能しません。

(6)SPK-ABボタン
フロントスピーカA、B切り替えに使用します。フロントスピーカーは、次のように切り替わります。
A → B → A＋B → off

(7)DISP.ボタン
前面ディスプレイの表示モードの切り替えに使用します。

(8)OSDボタン
SR7001の基本状態をOSDインフォメーションにて確認したい場合使用します。
他のモード状態では、MENUなどの表示に使用します。

(9)SLEEP（sleep timer）ボタン
「スリープタイマー」の設定に使用します。

(0)THXボタン
THXモードを選択するときに使います。

12 MEMO（メモ）ボタン
各ソース機器のメモリーやプログラム機能を操作するときに使います。

13 CONTROL（コントロール）ボタン
各ソース機器のPLAY、STOP、PAUSE機能を操作するときに使います。

ご注意

- SR7001には、このボタンで操作する機能はありません。

14 SOURCE（ソース）ボタン
RC8001SRは12種類のソース機器を操作することができます。
ソースボタンでRC8001SRを操作したい機器のモードに切り替えます。

またSR7001の入力ソースを切り替えるときには、ボタンを2秒以内に2回押してください。2回目でSR7001の入力ファンクションが切り替わります。

ご注意

- SR7001の操作を行う際は、ソースとしてアンプを選択してからご使用ください（アンプモード）。
- 「MD」のボタンはSR7001ではご使用になれません。

15 LIGHT（ライト）1、2ボタン
このボタンを押すと、表示部ディスプレイ、ボタンが照光します。照光時間はRC8001SRのセットアップで変更することができます。（56ページ参照）
照光時間を0秒に設定した場合はこのボタンを押している間だけバックライトが点灯します。
LIGHT1、2の動作は同じです。

16 CLEAR（クリアー）ボタン
各ソース機器のメモリーやプログラムを消去するとき等に使います。

17 MENU（メニュー）ボタン
（アンプモード選択時）
セットアップのメニューをモニター上に表示するときに使います。

18 PREV（プレビアス）ボタン
リモコンで切り替えた直前のテレビなどのチャンネルを呼び出します。

ご注意

- SR7001では、このボタンはご使用になれません。

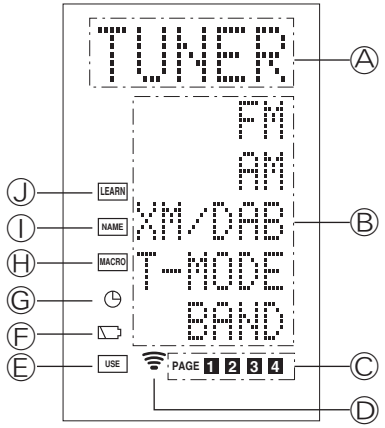
19 CH（チャンネル）ボタン
テレビのチャンネル等の切り替えをします。

20 CURSOR（カーソル）ボタン
SR7001やDVD等のカーソルコントロールをするときに使います。

21 表示部
各ソース名やモード名などのメッセージがこの表示部に表示されます。

表示部の表示

現在選ばれているソース名やダイレクトコード名などのメッセージがこのディスプレイに表示されます。



Ⓐ ソース名表示
選択されているDVD、テレビなどのソース名を表示します。（最大5文字）

Ⓑ ダイレクトボタン名表示
ソース毎に20種類のボタン名の表示をします。（最大6文字）

Ⓒ ページ表示
現在のページ位置を表示します。

Ⓓ 送信表示
リモコンコードを送信している間、この表示が点灯します。

Ⓔ USE表示
通常は、この状態で使用します。

Ⓕ 電池残量表示
電池の残量が少なくなってきた時に表示します。

Ⓖ TIMER表示
マクロタイマーが設定されているときに表示します。

Ⓗ MACRO表示
リモコンがマクロのプログラム状態になっているときに表示します。

Ⓘ NAME表示
リモコンが名前の変更モードになっているときに表示します。

Ⓙ LEARN表示
リモコンが学習状態になっているときに表示します。

設定モード時の表示と機能

Mボタンを3秒以上押すと各種の設定ができます。
ページの切り替えは>ボタンを押します。

PAGE1 MENU
プリセットコードの設定、コードの学習、名前の書き換え、マクロのプログラム、コードの消去の設定をします。

D1 PRESET:
各メーカーのAV機器を使用する場合の設定に使用します。
マランツのTVとDVDコードの選択時にも使用します。

D2 LEARN:
別のリモコンからコードを学習するときに使用します。

D3 NAME:
表示部に表示する文字を変更するときに使用します。

D4 MACRO:
マクロをプログラムするときや、プログラムを修正するときに使用します。

D5 ERASE:
学習したリモコンコードや書き換えた名前などを消去するときに使用します。
消去後は工場出荷状態に戻ります。

PAGE2 SETUP
バックライトの照光時間、マクロのインターバル時間、表示部のコントラスト、時間設定など特殊な設定をします。

D1 LIGHT:
表示部やボタンのバックライト点灯時間を変更するときに使用します。
0秒から60秒の間で、カーソルボタンを使って設定します。

D2 I-TIME:
マクロプログラムの送信間隔（インターバル時間）を設定するときに使用します。
0.5秒から5秒の間で、カーソルボタンを使って設定します。

D3 CONT:
表示部のコントラストを変更するときに使用します。10段階の間でカーソルボタンを使って設定します。

D4 CLOCK:
現在の時刻を設定するときに使用します。

PAGE3 TIMER
マクロタイマーの設定をします。

D1 DAILY?:
タイマー機能を使ってマクロを実行するときに使用します。毎日同じ時間にプログラムを実行する場合にDAILYを使用します。

D2 ONCE?:
タイマー機能を使ってマクロを実行するときに使用します。一回だけプログラムを実行する場合にONCEを使用します。

D5 CANCEL:
設定したタイマーを取り消すときに使用します。

PAGE4 CLONE
クローンモードの設定をします。

D1 RX:
別のリモコン（RC8001SRまたはRC1400）の学習した内容を丸ごとコピーするときに受信側（スレーブ）として使用します。

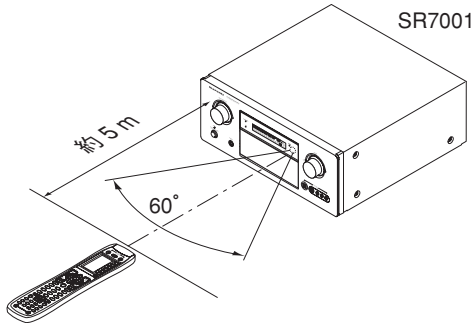
D2 RX-S:
別のリモコン（RC8001SRまたはRC1400）の学習した内容をソースごとにコピーするときに受信側（スレーブ）として使用します。

D3 TX:
別のリモコン（RC8001SRまたはRC1400）へ内容をコピーするときに送信側（マスター）として使用します。

リモコンの動作範囲

本機 SR7001と付属リモコンRC8001SRによる操作可能範囲は下図のように約5m以内です。
リモコンの操作はSR7001のリモコン受光部に向けて行ってください。また、リモコンとSR7001の間に障害物がある場合、正常な動作ができない場合があります。

リモコンの動作範囲

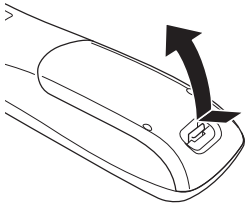


リモコン（RC8001SR）

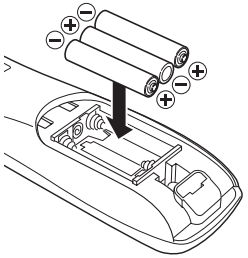
リモコンに電池を装着

付属リモコンをご使用になる前に、単四乾電池3本をリモコンに装着してください。
付属の乾電池はリモコンの初期動作確認用です。

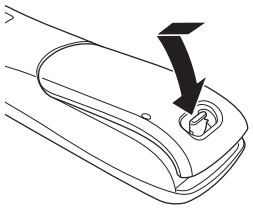
1. リモコン背面の電池カバーを矢印方向に押しながら外します。



2. 新しい単四乾電池3本を、極性表示（⊕：プラスと ⊖：マイナス）に注意し、表示通りに正しく装着します。



3. 電池カバーを以下のように元に戻します。



⚠ 注意

- 古い電池と新しい電池をいっしょに使用しないでください。腐食・液漏れの原因となることがあります。
- 付属のマンガン電池は、動作の確認用です。ご使用の際にはアルカリ電池をおすすめします。
- 電池を廃棄する時は、お住まいの市区町村の条例または指示にしたがってください。電池は火に投げ入れないでください。

電池の交換時期について

通常の使用状態では、アルカリ乾電池の場合約4ヶ月もちます。電池が消耗した場合、表示部に電池マークが表示されます。
電池マークが、表示中でもリモコンの使用はできますが、ボタンを押して送信するときに表示部がちらつくようになると信号の送信や学習ができなくなりますので早めに電池を交換してください。

- 本機には不揮発性メモリーを使用しているので、電池を抜いても学習したコードやマクロプログラムは消滅しません。

電池を交換したら時計を合わせてください。

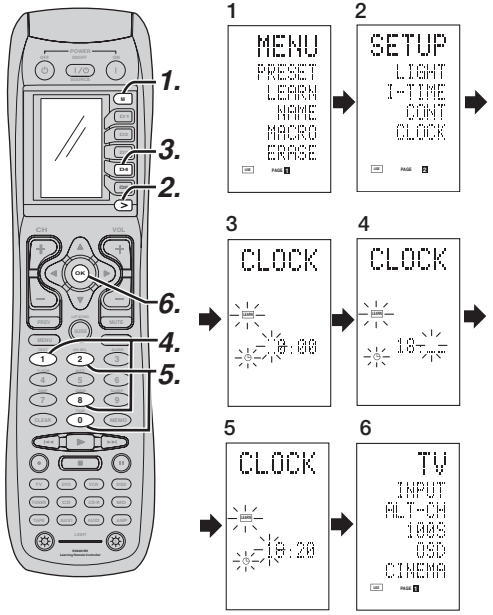
電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため下記のことを必ずお守りください。

- 長時間放置すると乾電池の液漏れやまた腐食することがあります。
- リモコンの乾電池の＋と－の位置をまちがえてお使いにならないでください。
- 乾電池を充電したり、暖めたり、また分解などしないでください。乾電池を火の中に投げ入れないでください。
- 古い乾電池、また使い切った乾電池はリモコンの中に入れてお使いにならないでください。
- 異なったタイプの乾電池を使用したり、また古い乾電池と新しい乾電池をいっしょにお使いにならないでください。
- リモコンが正常に作動しない場合は、乾電池を新しいものと入れ替えてください。
- 乾電池の液が漏れた場合は、漏れた液体をきれいに拭き取り、新しい乾電池と入れ替えてください。

時計の合わせかた

（例）午後6時20分（18時20分）に合わせる場合



ご購入後付属リモコンに 初めて電池を入れる場合は、手順の4の操作より始まります。手順の1～3は、省略されます。

1. *M*ボタンを3秒以上押します。
MENUが表示されます。

2. ＞ボタンを1回押します。
ページ2（SETUP）にします。

3. *ダイレクトボタンのD4ボタン（CLOCK）*を押します。
「時」表示部の「::」が点滅します。

4. *数字*ボタンの1と8を押します。
「時」表示部に18が表示されます。
「分」表示部の「__」が点滅します。

5. *数字*ボタンの2と0を押します。
「分」表示部に20が表示されます。
「時」表示部が点滅します。

6. *カーソル*ボタンのOKを押し、時計をスタートさせます。
時計は、設定した時刻の0秒からスタートし、通常（USE）モードに戻ります。

電池を交換した際は、時計は00：00を表示します。再度時刻設定を行ってください。（時刻設定のバックアップはしていません）

時刻を確認する

時刻を確認するときには＞ボタンを3秒押します。5秒間現在の時刻を表示します。

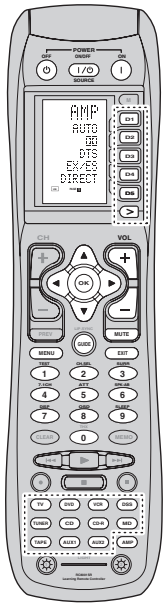
ご注意

- 時計はクオーツですが、お使いになっている間に時刻がずれる場合があります。時々正しい時刻に修正してください。

リモコンでSR7001を操作する

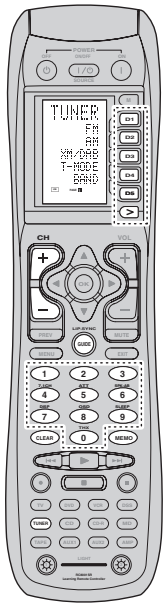
付属リモコンRC8001SRを使用してSR7001を操作するには、入力切り替え／ファンクションボタンでAMP（アンプ）を選びます。
AMP（アンプ）モードの詳細については以下を参照してください。

AMPモード



SOURCE ON/OFF	SR7001の電源オン/スタンバイの切り替え
POWER ON	SR7001の電源オン
POWER OFF	SR7001のスタンバイ
D1～D5/＞（Page）	（巻末のviページをご覧ください。）
VOL ＋/-	全チャンネルの音量調整
MUTE	一時的に音声出力停止、および解除
カーソル	セットアップメニューにおいて設定のためのカーソル移動
OK	セットアップメニューの呼び出し
	セットアップメニューでの設定確定
MENU	現状の動作状態をOSDに表示させる
EXIT	セットアップメニューから出てもとに戻る
TEST（1）	テストトーンメニューの選択
CH.SEL（2）	7.1CH入力レベルの調整メニューの呼び出し
SURR（3）	サラウンドモードの選択
7.1CH（4）	7.1CH入力のオン／オフの切り替え
ATT（5）	アナログ入力信号レベルの減衰
SPK-AB（6）	フロントスピーカーA、Bの選択
DISP（7）	SR7001の表示モードの切り替え
OSD（8）	動作状態のOSD表示
SLEEP（9）	スリープタイマー機能を設定
THX（0）	THXモードの選択
入力ファンクション	入力機器の選択

TUNERモード



D1 - D5 / ＞（Page）	（Refer to page vi）
CH ＋/-	Selects a preset station up and down
GUIDE	Selects the “Frequency direct input”
0–9	Input the numeric
MEMO	Enter the tuner preset memory numbers
CLEAR	Clears the inputting
TUNER	Selects a frequency band

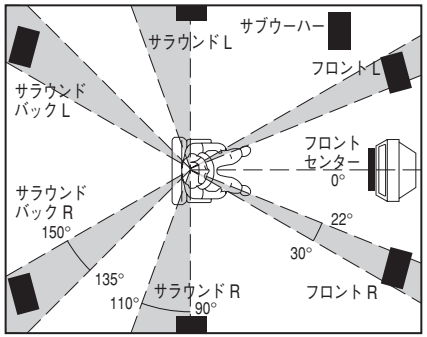
各機器との接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファーの合計8チャンネルです。
しかし、サラウンド再生に最低限必要なスピカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rです。この場合ドルビーデジタルEXやDTS-ESの再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（22ページ：「SPKR（スピーカー）SETUP」の項参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。



フロントL/Rスピーカー
リスニングポジションから見てLとRのスピーカーが 45度～60度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー
フロントL/R スピーカーと前面を揃えるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

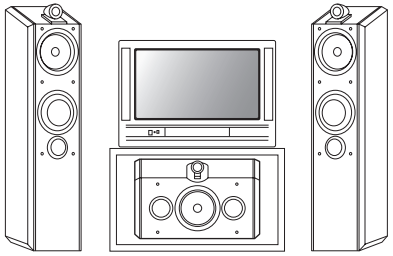
サラウンドL/Rスピーカー
サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サラウンドバックL/Rスピーカー
7.1chサラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

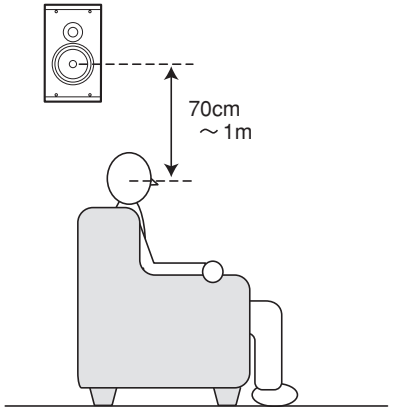
サブウーファー
低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱うため、部屋の中であればどこに配置しても大丈夫です。

スピーカー配置の高さ

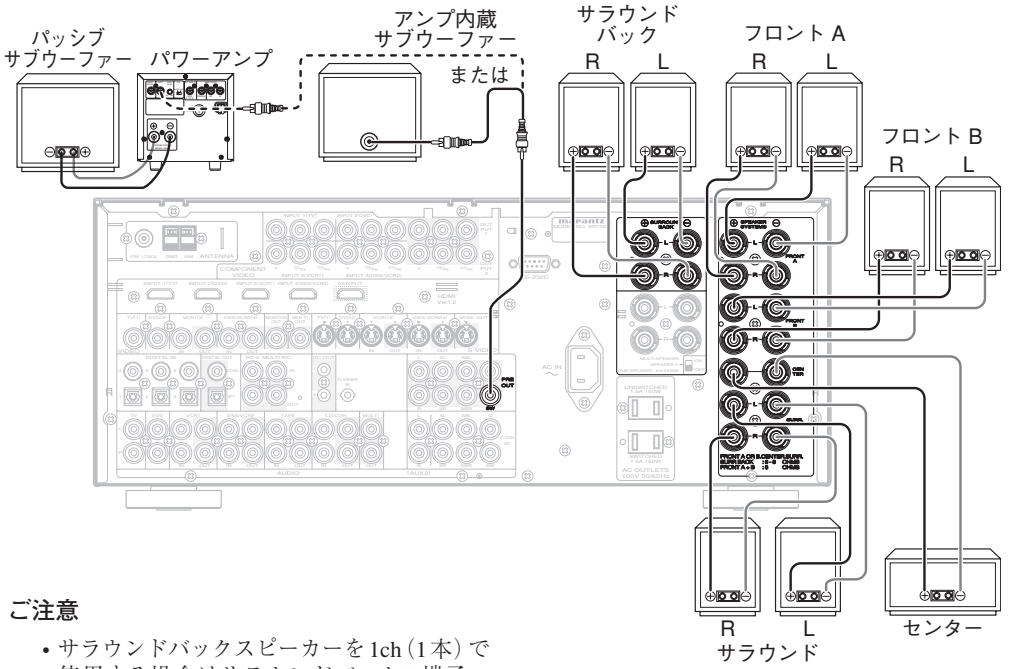
フロントスピーカー（L、R、センター）
3つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。これは、センタースピーカーをテレビセットの真上、または真下に設置することを意味します。
このような場合、防磁型のセンタースピーカーを使う必要があります。



サラウンドL/R、サラウンドバックスピーカー
場所が許す限り、リスナーより70センチから1メートル程上方に設置します。この位置で設置することにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。



スピーカーの接続

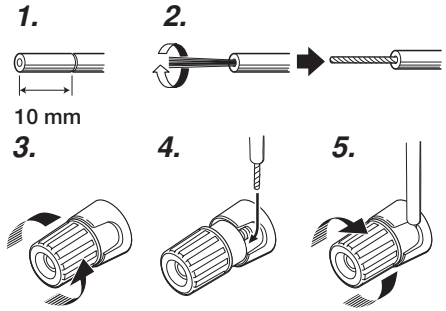


ご注意

- サラウンドバックスピーカーを1ch（1本）で使用する場合はサラウンドバックL端子へ接続してください。

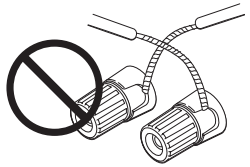
スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの皮膜を約 10mm 取り除きます。
2. ショート防止のためコードの裸部分をきつくよじってください。
3. スピーカー端子を左方向に回して、端子をゆるめるます。
4. スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの裸部分を挿入すます。
5. スピーカー端子を右方向に回して、端子を締めます。



ご注意

- 本機背面に表記されているインピーダンス仕様のスピーカーを必ずご使用ください。
- 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

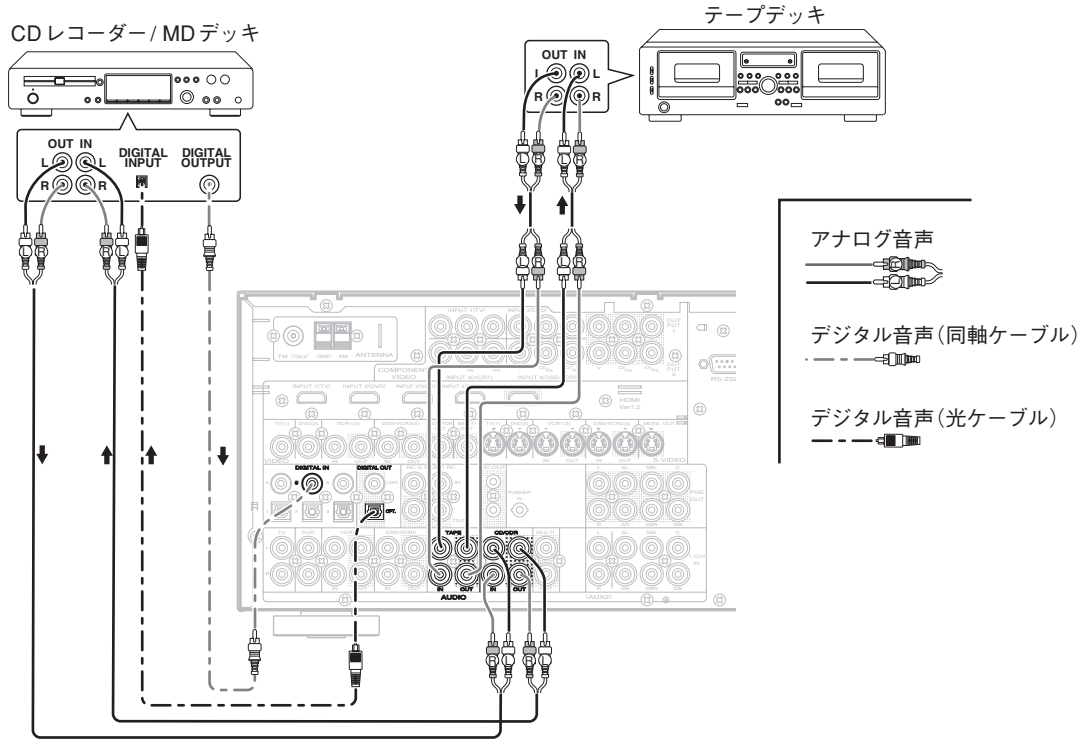


- 感電の恐れがあるので、電源がONのときはスピーカー端子に触れないでください。
- 1つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。本機に損害を与える恐れがあります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

サブウーファーの接続

パワード（パワーアンプ内蔵）サブウーファーとの接続は、本機のサブウーファー用音声出力端子を使用してください。
パッシブタイプのサブウーファーをご使用の場合は、本機のサブウーファー用音声出力端子とモノラルパワーアンプを接続し、そのモノラルパワーアンプとパッシブタイプのサブウーファーを接続してください。
詳細な接続は、ご使用のサブウーファーの取扱説明書をお読みください。

音声機器との接続



TAPE出力端子とCD/CDR出力端子からの音声出力信号は、録音用の出力です。現在選択されている音声ソースが出力されます。

ご注意

- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR（右）チャンネル、白い端子はL（左）チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続するそれぞれの機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。
- 音声／映像接続ケーブルと電源コードやスピーカーコードは束ねないでください。束ねると、結果としてハムやその他の雑音を発生します。

デジタル音声機器との接続

- 本機の背面には、同軸端子3系統と光端子3系統、計6系統のデジタル入力があります。
- これらの端子を使用して、CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのデジタル音声機器からPCM信号、Dolby Digital信号、DTSビットストリーム信号、AACビットストリーム信号を入力できます。
- 本機の背面には、同軸端子1系統と光端子1系統、計2系統のデジタル出力があります。これらの端子は、CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器との接続ができます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2および3の入力端子には光ケーブルをご使用ください。DIG-4、5および6の入力端子にはデジタル音声用または映像用の75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
- お手持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子に対して入力を指定することができます。（20ページ参照）

ご注意

- 本機はDolby Digital用RF入力端子を装備していません。ビデオディスクプレーヤーのDolby Digital RF出力を使用する場合は、外付けのRFデモジュレーターをご使用ください。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

HDMI 端子

本機には HDMI 入力端子が4系統、HDMI 出力端子が1系統あります。この端子はDVDやその他のソースから直接ディスプレイ機器にデジタル映像および音声信号を送ります。そのためアナログ変換による信号の劣化を最小限に抑えることができるので、高品質の映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- HDCP* に対応していないモニター機器に HDMI 出力を接続しても信号は出力されません。HDMIの映像を見るには、HDCPに対応したディスプレイ機器に接続してください。
- HDMI端子の詳細については、本機に接続するTVまたはディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

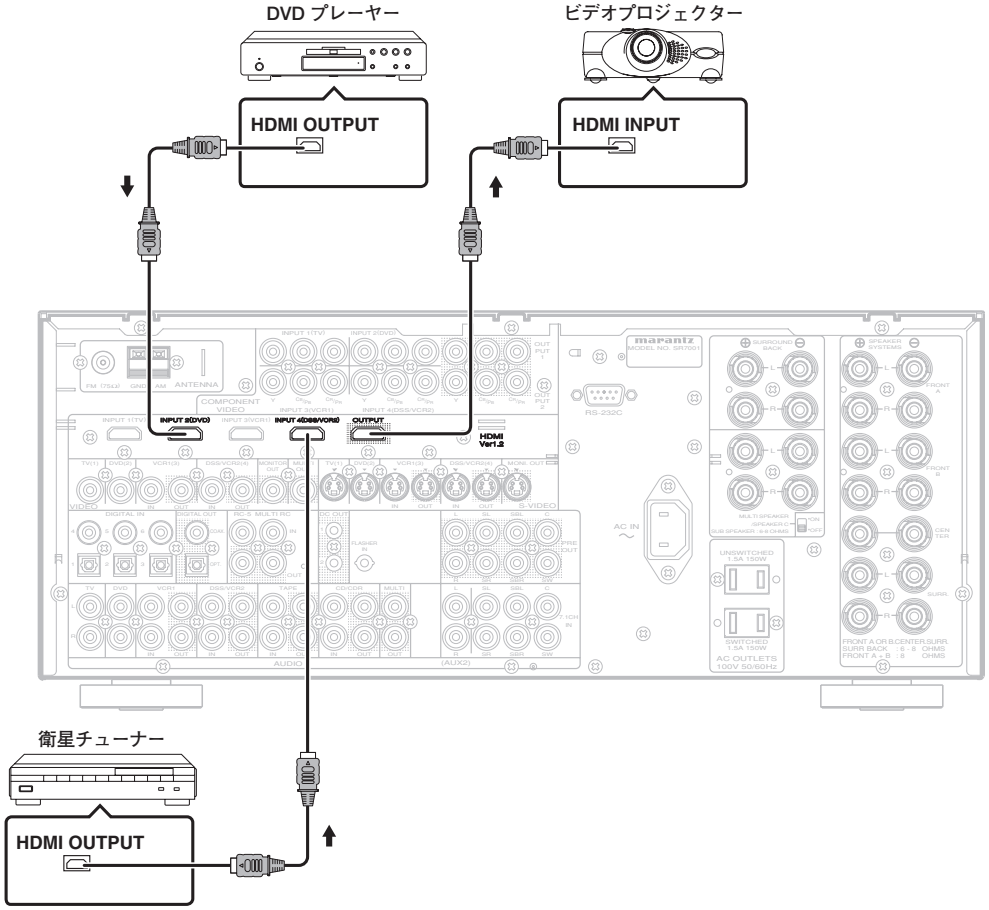
* HDCP: 高帯域デジタルコンテンツ・プロテクション

HDMI対応機器の接続

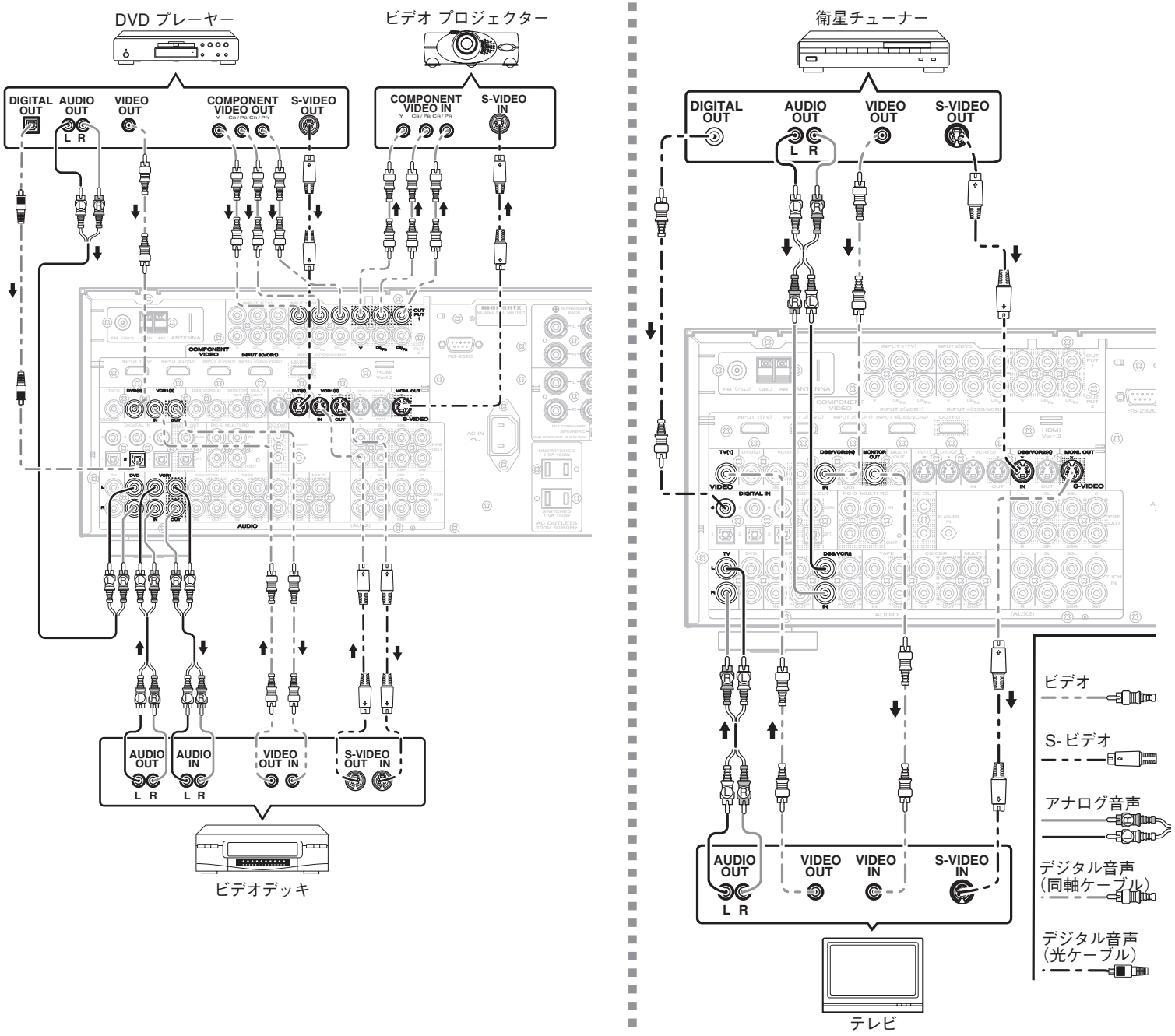
接続する際、市販のHDMIケーブルを使用して本機のHDMI端子とDVD/TV/プロジェクターなどのHDMI端子と接続します。
HDMI端子のマルチチャンネルオーディオ伝送には、対応したプレーヤーが必要です。
HDMIの映像信号はDVIと基本的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するには市販のHDMI/DVI変換ケーブルまたはプラグを用いて可能です。ただし、組み合わせによっては使用出来ないこともあります。DVI端子と接続する場合は音声信号を別途接続してください。

ご注意

- HDMI対応機器の中には、HDMI端子経由で他の機器を制御できる機器がありますが、本機をHDMI端子経由で他の機器から操作することはできません。
- 市販のDVI変換ケーブルには24ピンのものと29ピンのものがあります。本機では24ピン DVI-Dケーブルに対応しており、29ピンDVIケーブルは接続できません。
- DVDプレーヤーなどのソース機器の中にはHDMIリピーター動作に対応しない機器があります。このときTVまたはプロジェクターなどのモニター機器には出力されません。
- 複数の機器を接続したときは、お互いの干渉を防ぐため、使わない機器の電源を切ってください。
- 電源が入った状態でケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。電源を切った状態でケーブルの抜き差しを行ってください。
- DVDオーディオディスクの中には、ダウンミックスを禁止したものがあります。このようなディスクを再生した場合、フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーすべてが接続されていないと正しく再生出来ないことがあります。
- HDMI 1.1に対応していないDVDプレーヤーを接続した場合、DVDオーディオディスクを再生してもマルチチャンネルPCM再生はできません。
- DVI出力付きのDVDプレーヤーなどを接続した場合、他に音声ケーブル(同軸、光、アナログ)を接続する必要があります。この場合、FUNCTION INPUT SETUP(20ページ参照)で接続した音声入力を選択してください。
- HDMI端子から入力された音声信号でマルチチャンネルPCMおよび64kHz以上の信号はDIGITAL OUT端子から出力されません。
- HDMI信号は、使用するケーブルの品質によってノイズの影響を受けることがあります。
- HDMI 1.2に対応していないスーパーオーディオCDプレーヤーを接続した場合、スーパーオーディオCDのDSD再生を行うことはできません。



映像機器との接続



ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント端子

リアパネルには3つのタイプのビデオ（映像）端子があります。

ビデオ端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合映像信号です。

S-ビデオ端子

S-ビデオ端子用の映像信号は、輝度信号（Y）と色信号（C）に分離しています。S-ビデオ信号は高品質の色再現を可能にします。ご使用の映像機器がS-ビデオ出力を装備しているのであれば、S-ビデオ出力の使用をお勧めします。本機のS-ビデオ入力端子とご使用の映像機器のS-ビデオ出力端子を接続してください。

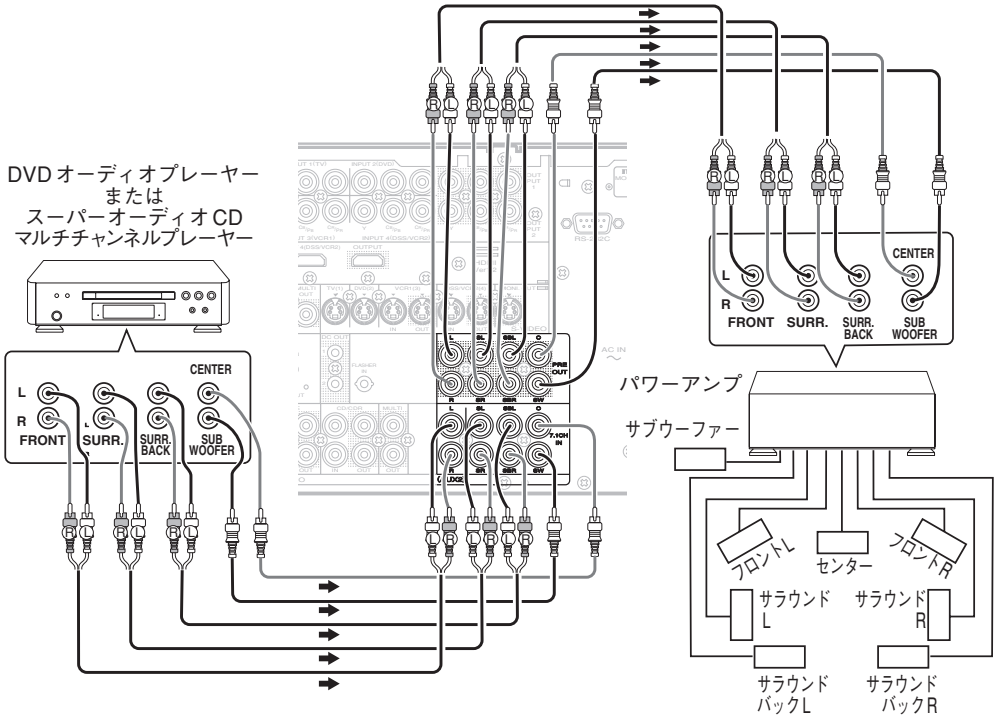
コンポーネントビデオ（色差ビデオ）端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号（Y）緑、色差信号（PB）青、色差信号（PR）赤の3本から構成されており、より高品質な映像再生を可能にしております。

ご注意

- 音声チャンネルのL（左）R（右）を正しく接続してください。赤いコネクターはR（右）チャンネル用、白いコネクターはL（左）チャンネル用です。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- ビデオおよびS-ビデオそれぞれの映像端子は独立しています。ビデオ端子とS-ビデオ端子に入力された信号は、対応するビデオ端子とS-ビデオ端子にそれぞれ出力されます。
- 本機は「VIDEOコンバート機能」があります。映像の入出力については35ページを参照してください。
- お手持ちのDVDプレーヤーなどデジタルソース機器のデジタル音声出力形式を設定しなければならない場合があります。デジタル入力用端子に接続した各機器の取扱説明書を参照してください。
- Dolby Digital RF 入力端子はありません。ビデオディスク・プレーヤーの Dolby Digital RF 出力端子をデジタル入力端子に接続する場合は、Dolby Digital デコーダー内蔵の外部RFデモジュレーターを使用してください。
- COMPONENT VIDEO出力1および2の端子から出力される映像信号は同じなので、どちらの端子でも接続できます。

その他機器の接続



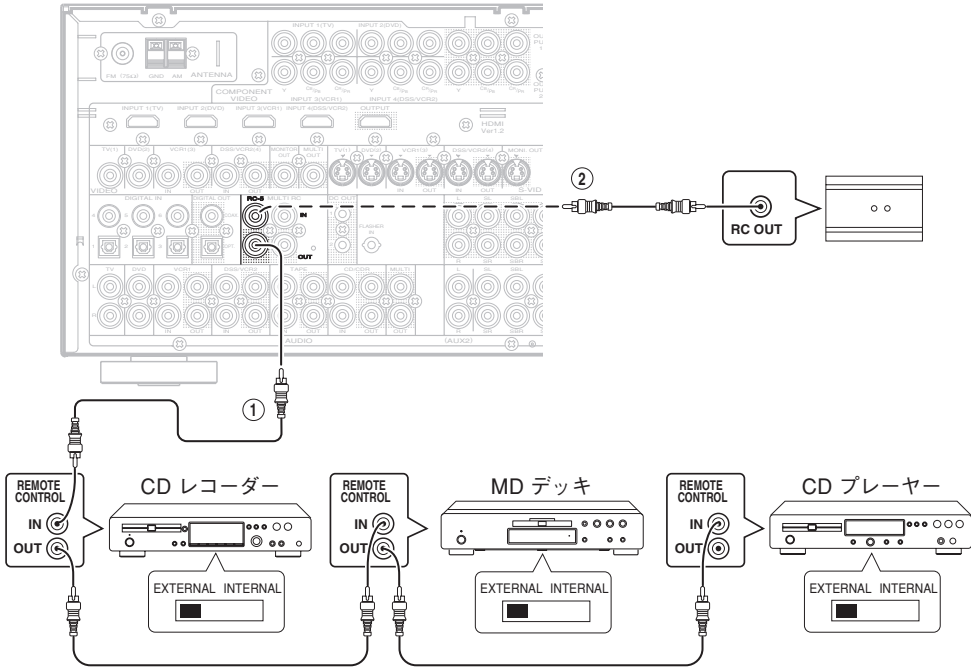
マルチチャンネルオーディオ機器との接続

7.1CH 音声入力端子は、スーパーオーディオCDマルチチャンネルプレーヤー、DVDオーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUTに切替え、セットアップメニューを使用して、7.1CH入力レベルを設定してください。

単体パワーアンプとの接続

単体パワーアンプをシステムに追加することで、更にホームシアターの臨場感を高めることができます。
プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

リモートコントロール接続



①

- 他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。
- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続を行う場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXT. に設定してください。

②

本機のRC-5 IN端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

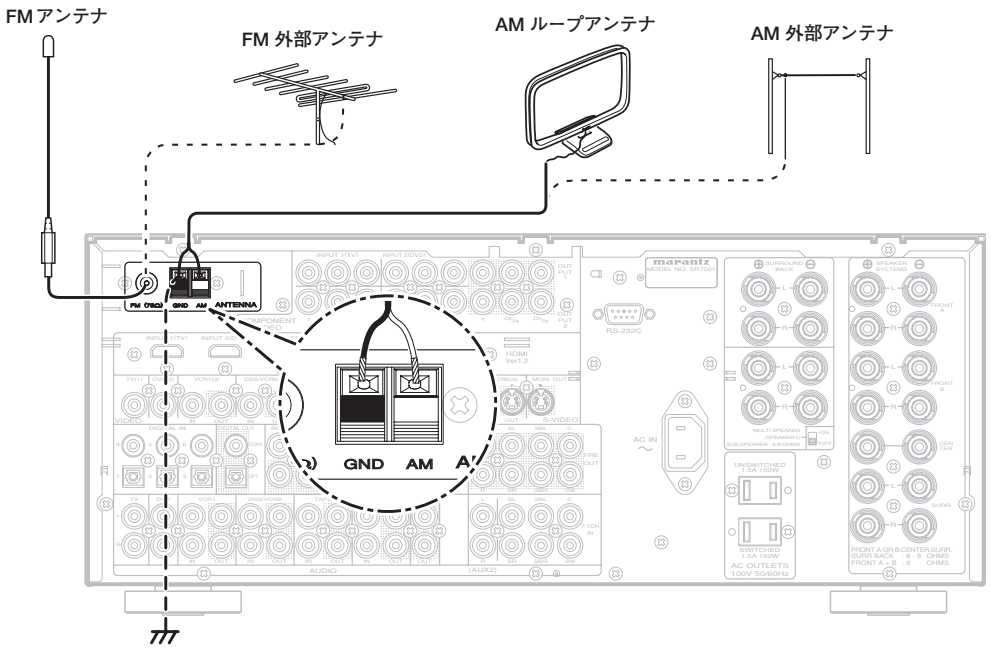
1. **本体フロントパネルの*MULTI*ボタンと*MENU*ボタンを同時に5秒間押し続けます。**
   本体前面表示部に「IR=ENABLE」と表示されます。
2. **本体フロントパネルの*カーソル*ボタン（◀または▶）を押すと、「IR=DISABLE」に変わります。**
3. **本体フロントパネルの*ENTER*ボタンを押します。**
   本機の赤外受光部の動作は無効となり、リモコンでの操作ができなくなります。

ご注意

- 外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「IR=ENABLE」に設定してください。「IR=DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

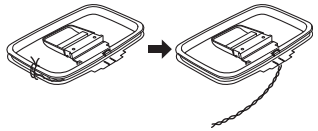
4. **元の設定に戻すには、手順*1.*から*3.*を行い「IR=ENABLE」に設定します。**

アンテナの接続



AMループアンテナの組み立て

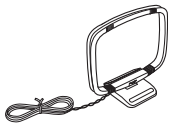
1. 接続線を取り出します。



2. 台座部分を反対側に折り曲げます。

3. ループの底にあるフックを台座部分の溝に入れます。

4. 安定した面にアンテナを設置します。



付属アンテナの接続

付属 FM アンテナの接続

付属 FM アンテナは室内で使用してください。
使用時は、アンテナを伸ばしてクリアに受信できるまで様々な方向に移動させてください。
雑音が最も少ない場所に押しピンなどを使ってアンテナを固定します。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを設置すると受信状態が良くなることがあります。

付属 AM ループアンテナの接続

付属のAM ループアンテナは室内で使用してください。
クリアに受信できる方向および位置にアンテナを設置します。
本機、TV、スピーカー、電源コードからできるだけ離して置いてください。
受信状態が悪い場合は、屋外アンテナを取り付けると受信状態が良くなることがあります。

1. AMアンテナ端子のレバーを押下げます。

2. 裸線をアンテナ端子に差し込みます。

3. レバーを離します。

ご注意

- シールド線のGND線（黒）をAMアンテナ端子のGND側に接続します。

FM 屋外アンテナの接続

ご注意

- アンテナはノイズ源（ネオンサイン、交通量の多い道路など）から離して設置してください。
- アンテナを送電線や変圧器などから離して設置してください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

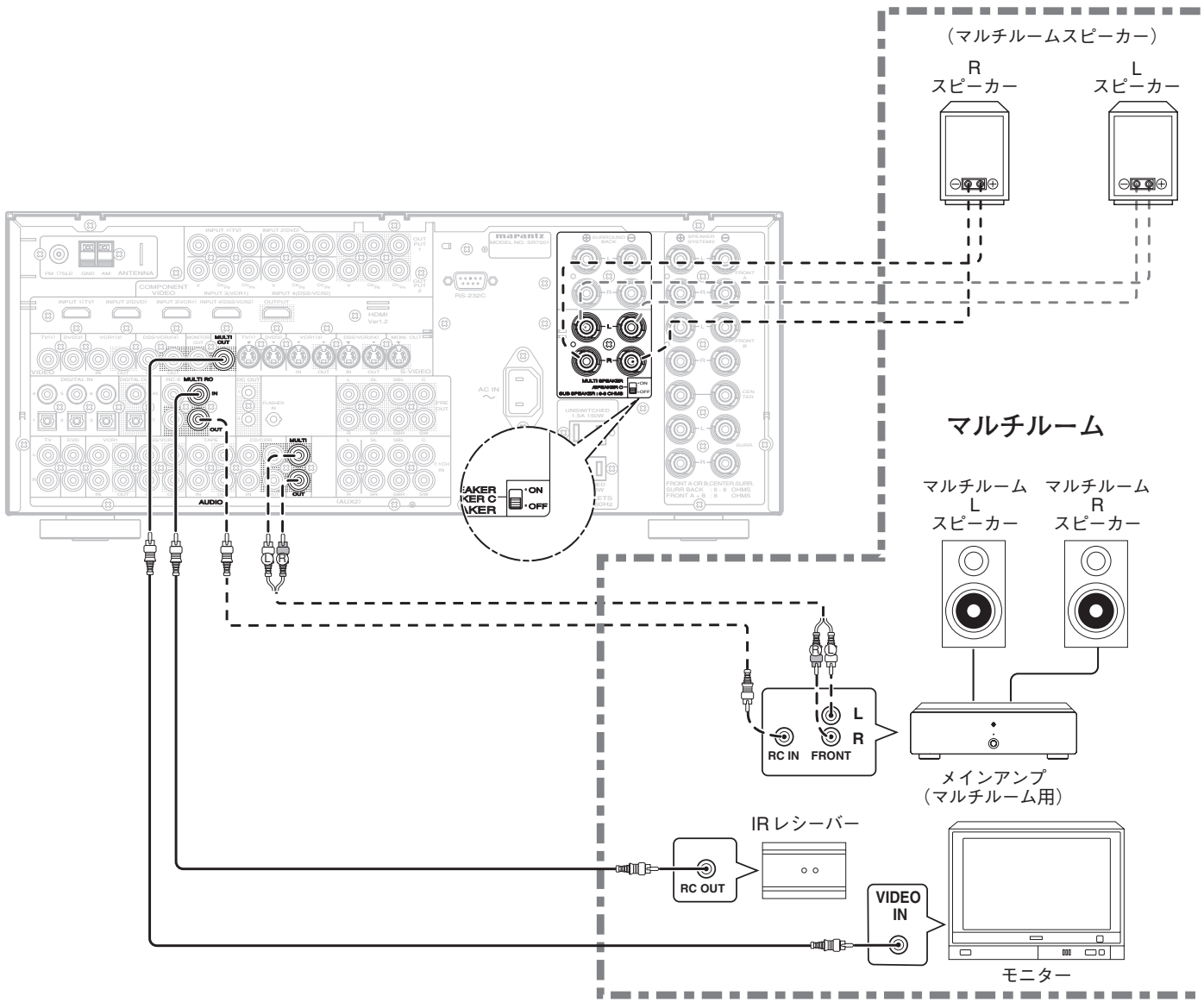
AM 屋外アンテナの接続

ご注意

- AMループアンテナは取り外さないでください。
- 落雷や感電を防ぐため、必ず接地を行ってください。

マルチルーム接続

図のようにマランツ製などのアンプと組み合せることによって別室にて本機に接続された再生機器を使って音楽や映画鑑賞をすることができます。



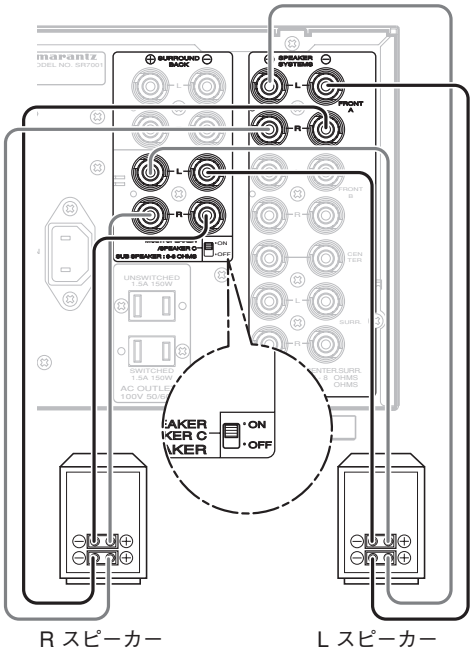
SPEAKER C機能を使用した接続例

バイアンプ接続

2組の入力（高音用 & 低音用）があるスピーカーに、バイアンプ接続が出来ます。
これは低音用と高音用のユニットを別々のチャンネルのアンプでドライブ出来ることを意味しています。従来のAVアンプでは難しかった低能率のスピーカーもバイアンプドライブで、より高音質が楽しめます。
接続は図を参照してください。リアパネルのSPEAKER C切り替えスイッチをONにします。

ご注意

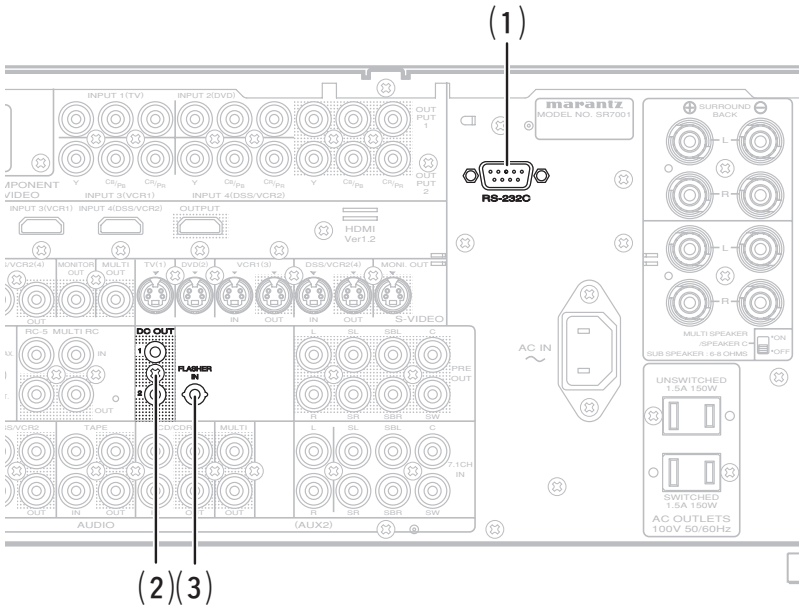
- 接続を間違えると本機の保護回路がはたらきスタンバイ状態になります（スタンバイインジケーターが点滅します）。このような状態になったときはスピーカーと本機の接続を再確認してください。



ご注意

- マルチルームスピーカーおよびSPEAKER Cは、本機のSURROUND BACK用のパワーアンプを使用します。したがって、この機能をご使用になる場合はSURROUND BACKの出力はできなくなります。

その他



(1) RS232C

外部コントロール機器と接続します。（接続の際はストレートケーブルを用います。また、メンテナンス用にも用います。

(2) DC OUT（DC トリガー）

DC TRIGGER 出力（12V）を外部機器と接続することによって外部機器をコントロールします。

(3) FLASHER IN

コントロールBOX等を接続することにより本機をコントロールできます。

システムセットアップ

すべての機器の接続が終了した後、OSDメニューシステムを用いて各種設定を行なってください。

オンスクリーン・ディスプレイ・メニューシステム（OSDメニューシステム）

SR7001にはOSDメニューシステムが搭載されています。このシステムを、リモコンまたはフロントパネルの**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶と**OK/ENTER**ボタンを用いて様々な設定を行います。

ご注意

- 「システムセットアップ」は全てOSDメニューを見ながら設定をします。OSDメニューシステムを見るためには、お手持ちのTVまたはプロジェクターのビデオ入力をSR7001のリアパネルのMONITOR OUT端子に接続してください。（12ページ参照）

1. **リモコンの*MENU*ボタンまたはフロントパネルの*MENU*ボタンを押します。**
2. **モニターにOSDメニューシステムの「MAIN MENU」が表示されます。**
   MAIN MENUには6つの設定項目があります。（設定項目については18ページ参照）
3. ***カーソル*ボタン▲/▼で希望するサブメニューを選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。選択したサブメニューが表示されます。**

アドバイス

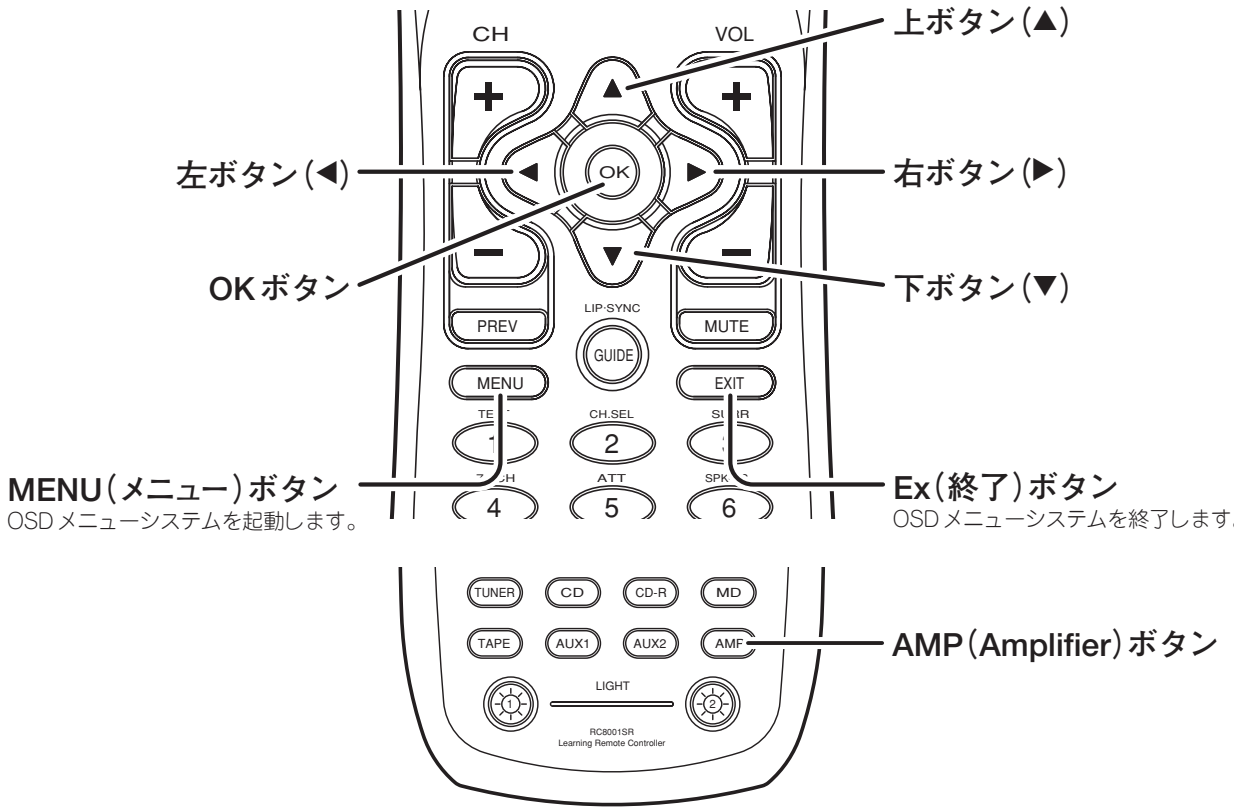
- SR7001には設定した項目を安易に変更出来なくするためにLOCK機能が用意されています。

  サブメニューを変更する場合は、変更したいサブメニューを「UNLOCK」に設定してください。
- LOCKEDは、MAIN MENU1~6の各項目ごとに設定することができます。

＜LOCKEDの設定手順＞

（1）MAIN MENUを表示させて設定したい項目を**カーソル**ボタン▲ / ▼で選択します。
（2）**カーソル**ボタン◀ / ▶を押して、「LOCKED」の左側に「●」マークを移動させます。
（3）全ての項目に対して設定が終わったら、**カーソル**ボタン▲ / ▼でカーソルを「EXIT」に移動させて**OK/ENTER**ボタンを押して設定を終了します。

RC8001SRボタン・レイアウト

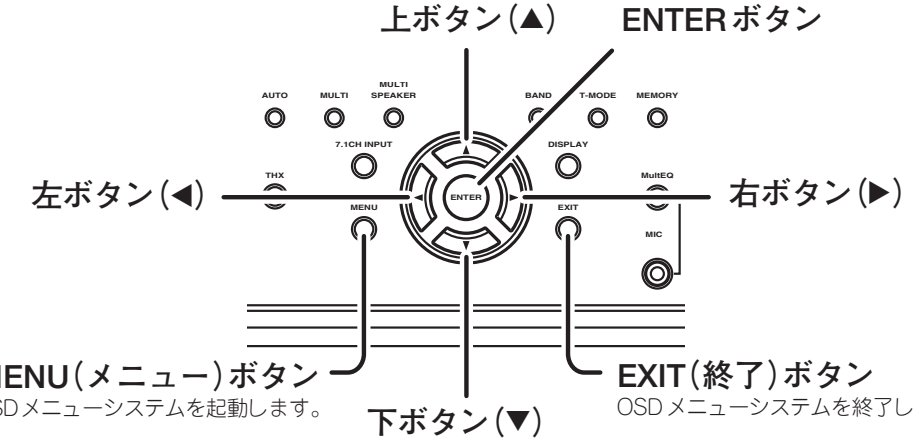


MENU（メニュー）ボタン
OSDメニューシステムを起動します。

Ex（終了）ボタン
OSDメニューシステムを終了します。

AMP（Amplifier）ボタン

SR7001 フロントボタン・レイアウト



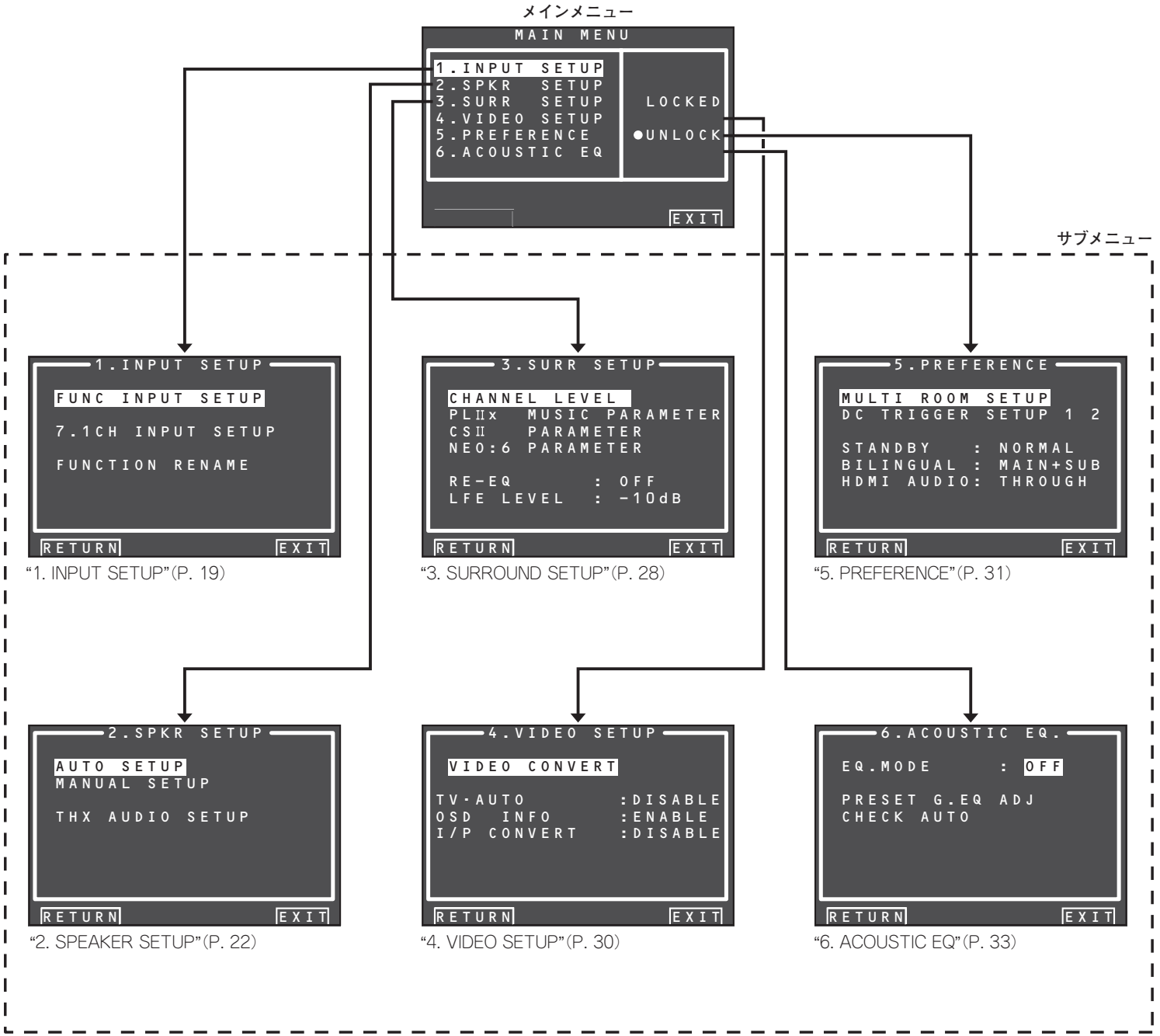
MENU（メニュー）ボタン
OSDメニューシステムを起動します。

下ボタン（▼）

EXIT（終了）ボタン
OSDメニューシステムを終了します。

アドバイス

- サブメニューの設定が終了した後、カーソルボタン▲/▼/◄/►でカーソルを「RETURN」に移動し、OK/ENTERボタンを押してメインメニューに戻ります。
- 他のサブメニューへ進むには、一旦メインメニューに戻るか、もしくはEXITで終了させ、再度OSDメニューシステムを起動させてください。

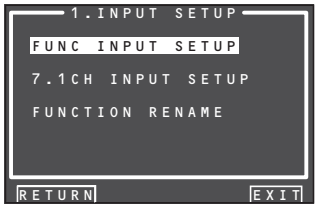


1 INPUT SETUP

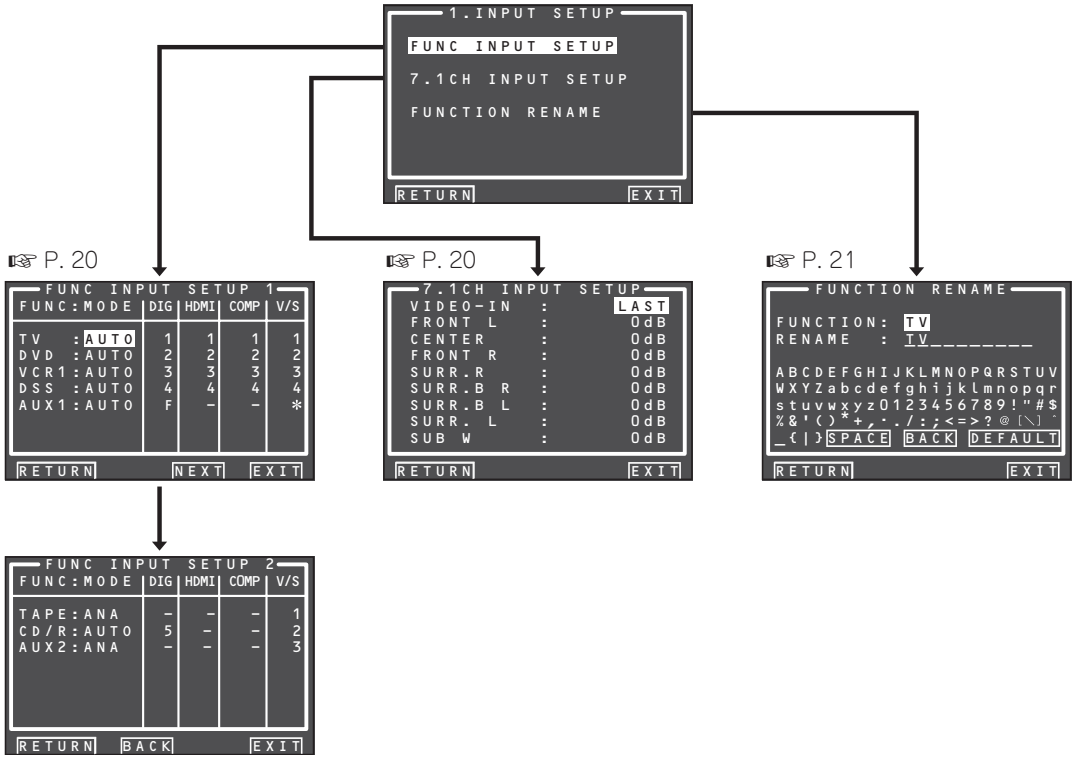
接続するオーディオビデオ機器の出力と本機の各入力端子の関係を設定します。

- **FUNC INPUT SETUP :**
  「1-1 FUNC INPUT SETUP」(20ページ参照)
- **7.1 CH INPUT SETUP :**
  「1-2 7.1 CH INPUT SETUP」(20ページ参照)
- **FUNCTION RENAME :**
  「1-3 FUNCTION RENAME」(21ページ参照)

1. **MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「1. INPUT SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



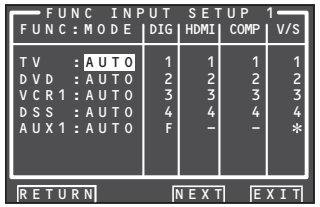
2. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で設定するサブメニューを選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



1-1 FUNCTION INPUT SETUP

FUNCTION INPUT SETUPの設定でSR7001のリアパネル上のDigital入力(DIG)、HDMI入力(HDMI)、コンポーネントビデオ入力(COMP)、ビデオ/S-ビデオ入力(V/S)の各入力端子をSR7001の各FUNCTIONに自由に割り当てることが出来ます。
またFUNCTIONのMODE設定で各入力に対して優先順位を設定することが出来ます。

1. **1. INPUT SETUPメニューから*カーソル*ボタン▲/▼で「FUNC INPUT SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**


FUNC INPUT SETUP 1
FUNC:MODE DIG HDMI COMP V/S
TV :AUTO 1 1 1 1
DVD :AUTO 2 2 2 2
VCR1:AUTO 3 3 3 3
DSS :AUTO 4 4 4 4
AUX1:AUTO F - - *
RETURN NEXT EXIT

2. ***カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶で変更したい設定項目を選択します。**

MODE(モード)

AUTO:
入力信号を自動的に検出する場合は「**AUTO**」を選択します。
HDMI入力→デジタル入力→アナログ入力の順番に入力信号の検出が行われます。
初期設定はAUTOに設定されています。

HDMI:
HDMI信号のみを使用する場合は「**HDMI**」を選択します。

DIG:
デジタル信号のみを使用する場合は「**DIG**」を選択します。

ANA:
アナログ信号のみを使用する場合は「**ANA**」を選択します。

DIG
希望するファンクションに1～6までと F(フロント)デジタル入力を割り当てることができます。
デジタル入力端子の番号を割り当てます。

HDMI
HDMI入力端子1～4の番号を割り当てます。

COMP
COMPONENT VIDEO入力端子の番号1～4を割り当てます。

V/S
コンポジットビデオおよびS-ビデオの入力端子1～4を割り当てます。

ご注意

- AUX1のデジタル入力はフロントパネル上の入力端子が固定になっているため、他の入力端子を割り当てることはできません。

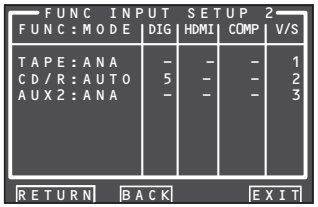
3. ***OK/ENTER*ボタンを押します。**

4. ***カーソル*ボタン◀/▶でそれぞれのモード設定と入力端子を選択します。**

5. ***OK/ENTER*ボタンを押します。**

6. **手順*2.*から*5.*までを繰り返して、各項目を設定します。**

7. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。(FUNC INPUT SETUP 2)**



8. **手順*2.*から*5.*までを繰り返して、各項目を設定します。各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**

FUNK INPUT SETUP 2からFUNK INPUT SETUP 1に戻るときは▲/▼/◀/▶でBACKを選び、*OK/ENTER*ボタンを押します。

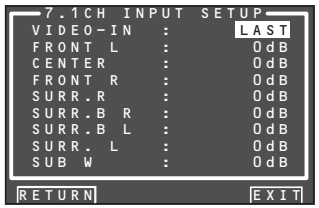
ご注意

- 割当の番号はリアパネルの入力端子番号です。番号をよく確認してください。
- 音声や映像が出力されない場合、入力端子番号を再確認してください。

1-2 7.1 CH INPUT SETUP

ここでは、7.1ch 入力ソース(7.1 CH IN端子)のスピーカーレベルなどを設定します。
リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。

1. **1. INPUT SETUPメニューから *カーソル*ボタン▲/▼で「7.1 CH INPUT SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



2. ***カーソル*ボタン▲/▼で「VIDEO IN」を選択します。**

3. ***カーソル*ボタン◀/▶で、MONITOR OUT 端子から再生する映像入力ソースを選択します。入力ソースは*カーソル*ボタン◀/▶で次の順で切り替えることができます。**

LAST ↔ TV ↔ DVD ↔ VCR1 ↔ DSS ↔ AUX1 ↔ TAPE ↔ CD/R ↔ AUX2 ↔ V-OFF ↔ LAST ↔ ...

ご注意

- 「LAST」を選択すると、7.1 ch入力モードが設定される前に選択されていたビデオソースが出力されます。
- 「V-OFF」を選択すると、MONITOR OUT端子から映像は出力されません。(OSDメニューは出力されます)。

4. ***カーソル*ボタン▲/▼で音量を調整したいチャンネルを選択します。**

5. ***カーソル*ボタン◀/▶で各チャンネルの音量を調整します。(各スピーカーからの音量を同一にします。)**

***カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「RETURN」に移動し、OK/ENTERボタンを押して 1. INPUT SETUP メニューに戻ります。**

7.1CH INPUT SETUP 2から7.1CH INPUT SETUP 1に戻るときは、▲/▼/◀/▶で「BACK」を選び、OK/ENTERボタンを押します。

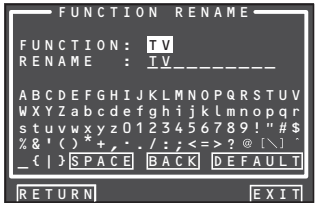
ご注意

- 各スピーカーのレベルは－12～＋12dBの1dBステップで、SUB Wは－18～＋12dBの1dBステップで設定できます。

1-3 FUNCTION RENAME

入力ファンクション名を任意の名前に変えることができます。
登録可能な最大文字数はスペースも含め10文字までです。（文字はこのOSDメニューシステムに表示される文字から選びます）登録したファンクション名は本機表示部とOSDインフォメーションに表示されます。
ただし、OSDメニューシステム内の項目には反映されません。

1. 1. INPUT SETUPメニューから、*カーソル*ボタン▲/▼で「FUNCTION RENAME」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。



2. *カーソル*ボタン▲/▼で「FUNCTION」部を選択します。
3. *カーソル*ボタン◀/▶で入力ソースを選択します。
4. *カーソル*ボタン▲/▼で「RENAME」部を選択します。
5. *カーソル*ボタン◀/▶で変更する位置へ移動します。（1文字目から10文字目の間）
6. *カーソル*ボタン▼でキャラクタ部「A」に移動します。（必ず最初は「A」に移動します。）
7. *カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶でキャラクタを選択します。
8. *OK/ENTER*ボタンを押して確定します。
9. 手順*5.*から*8.*までを繰り返して、名前を入力します。

BACK:
RENAME部の現在の位置を左にBACKして1文字を消します。

DEFAULT:
RENAME部の名前をファンクション部の名前と同じにもどします。

SPACE:
RENAME部の現在の位置を空白にします。

*カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶で「RETURN」に移動し、OK/ENTERボタンを押して 1. INPUT SETUPメニューに戻ります。

ご注意

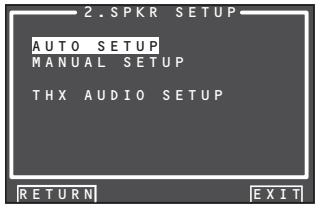
- 全てのリネーム文字をスペース（空白）にすることはできません。

2 SPKR(スピーカー)SETUP

本機を設置し、機器をすべて接続し、スピーカーの配置を決定したら、次にSPKR SETUP メニューで室内環境とスピーカー配置に最適な値を設定します。

- **AUTO SETUP:**
  「2-1 AUTO SETUP」(23ページ参照)
- **MANUAL SETUP:**
  「2-2 MANUAL SETUP」(26ページ参照)
- **THX AUDIO SETUP:**
  「2-3 THX AUDIO SETUP」(27ページ参照)

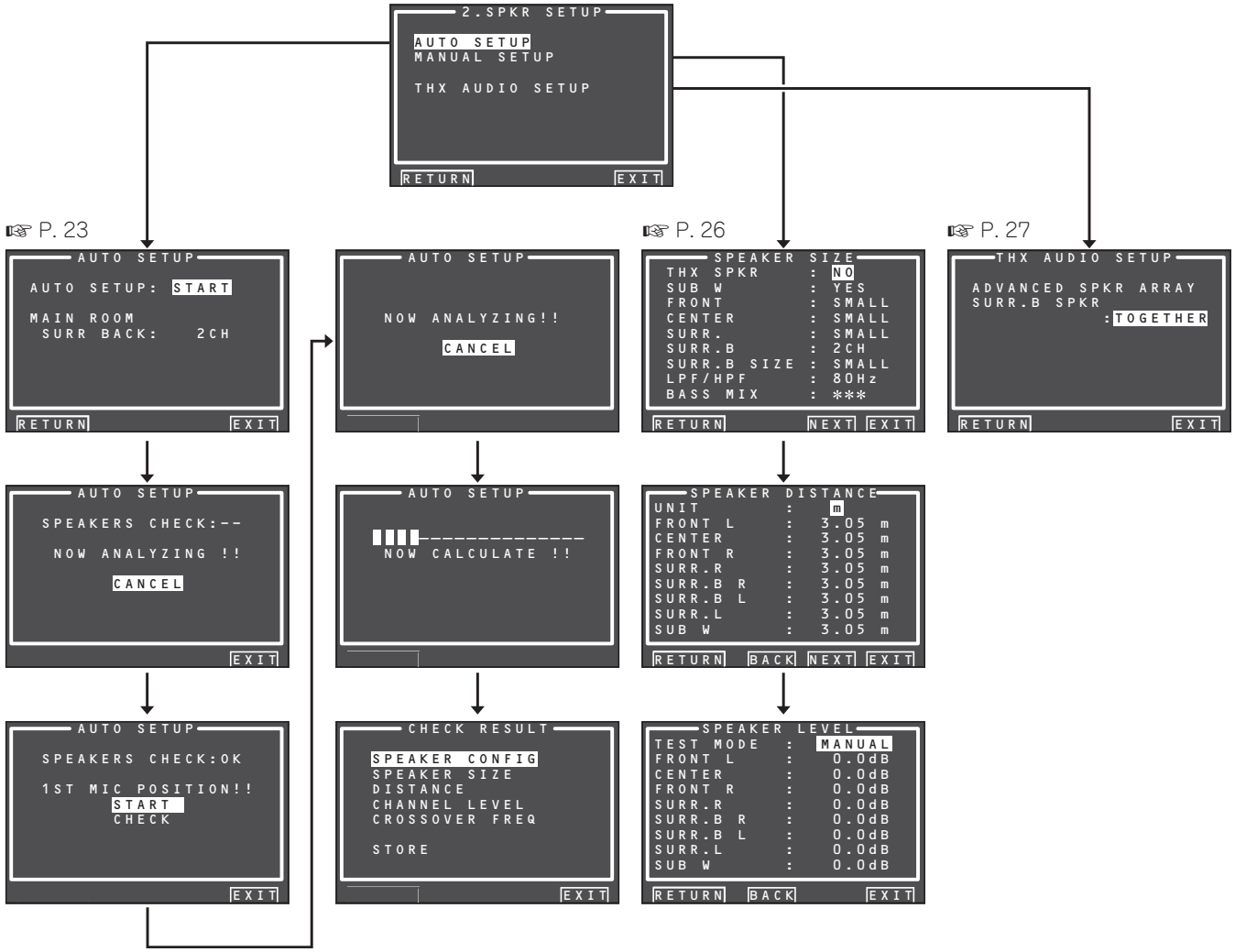
1. **MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲/▼で「2.SPKR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



2. ***カーソル*ボタン▲/▼で設定したいメニューを選択して*OK/ENTER*ボタンを押します。**

ご注意

- 各設定が終了したときOK/ENTERボタンを押します。カーソルを「RETURN」に移動し、OK/ENTERボタンを押してサブメニュー(2. SPKR SETUP)に戻ります。



2-1 AUTO SETUP（MultEQ セットアップ）

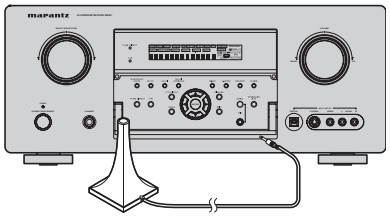
SR7001のオートセットアップ（MultEQ セットアップ）は使用しているスピーカーシステムやお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動で行う機能です。

SR7001が採用しているAudyssey MultEQ機能は、複数のリスナーに対して最適なリスニング環境を提供することを特徴としています。
そのためにオートセットアップでは、各チャンネルから発生されるテストトーンを最大６ヶ所のリスニングポイントにおいて付属のマイクで測定します。
この測定結果を独自のアルゴリズムで解析し、リスニングエリア内の音響特性を改善した環境設定を行います。

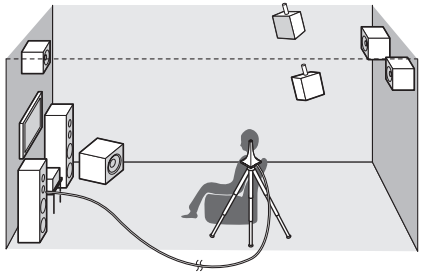
オートセットアップの操作のしかた

測定中はOSDメニュー画面に現在の状態が表示されるのでモニター機器の電源を入れてください。

1. **付属のマイクをSR7001のMICジャックに接続します。**



2. **マイクをメインリスニングポイントに設置します。**



ご注意

- 測定は最大6ヶ所のリスニングポイントで行います。
  最初の測定はメインリスニングポイントにマイクを設置して測定を行ってください。
- マイクを設置する際はリスニング時の耳の高さに合うようにスタンドや三脚を使用してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物を置かないようにしてください。
- アンプ内蔵のサブウーファーを使用する場合はボリウムを中央に設定し、クロスオーバー周波数を一番高い周波数に設定してください。
- 測定中はマイクから離れて、スピーカーの音の経路から外れた場所からリモコンでSR7001を操作してください。
- 測定中にスピーカーから出力されるテストトーンは大きな音です。
  ご近所やお子様に配慮してください。

3. **SR7001のフロントパネルにある*MultEQ*ボタンを押すか、あるいはMAIN MENUで「2.SPKR SETUP」を選択し、*カーソル*ボタン▲ / ▼で「AUTO SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタン押してスタート画面を表示させます。**

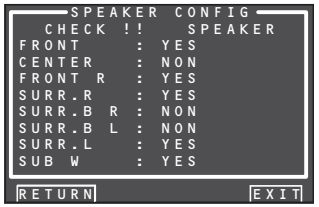
4. **使用しているSurround Backスピーカーのチャンネル数を選択します。ご使用になられるスピーカーシステムの構成が5.1チャンネルの場合は「NONE」（Surround Speaker 無し）を選択します。**
（SPEAKER C又は、MULTI SPEAKERをご使用の場合は「NONE」に設定します 15、32ページ参照）
カーソルボタン▲ / ▼で「START」を選択し、**OK/ENTER**ボタンを押して測定を開始させます。

5. **スピーカー数チェック**

スピーカー数チェック中は次のようなOSD画面の表示がされ、リスニングルームの暗騒音とスピーカーの有無、極性のチェックが行われます。

6. **スピーカー数チェックが終わると次のようなOSD画面が表示がされます。**

ここでチェックの結果を見る場合は**カーソル**ボタン▲ / ▼で「CHECK」を選択し、**OK/ENTER**ボタンを押してチェック結果を表示させます。

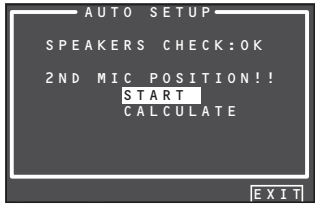


チェック結果にエラーが有る場合はその項目について適切な処理を行ってから再測定をしてください。
（エラーメッセージは、「エラーメッセエージについて」25ページを参照してください）
チェック結果の確認が終わったら、**カーソル**ボタン▲ / ▼でを押して「RETURN」を選択し、**OK/ENTER**ボタンを押して下記のOSD画面に戻してください。
この時に「EXIT」を選択してオートセットアップを終了させて「2. SPKR SETUP」に戻ることもできます。

7. **音響特性チェック**

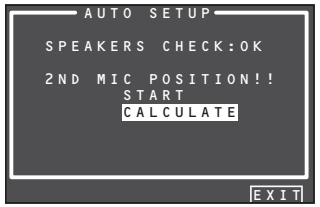
カーソルボタン▲ / ▼でを押して「START」を選択し **OK/ENTER**ボタン 押して１ポイント目（メインリスニングポイント）の測定を行います。
測定中は次のOSD画面が表示されます。
この時に**カーソル**ボタン▲ / ▼を押して「CANCEL」を選択し**OK/ENTER**ボタン 押して測定を中断することが出来ます。

測定が終わると次のOSD画面が表示されます。

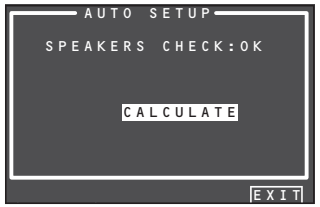


8. **2ポイント目のリスニングポジションにマイクを移動してから*カーソル*ボタン▲/▼を押して「START」を選択し*OK/ENTER*ボタン押して2ポイント目の測定を行います。**

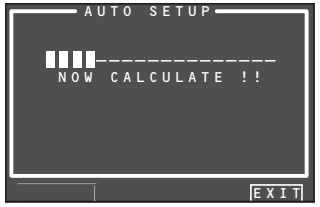
この時に「CALCULATE」を選択してOK/*ENTER*ボタンを押すと2ポイント目の測定をキャンセルして測定結果の解析を行うことができます。



9. ***7.*** **と*8.*の操作を繰り返してメインポジションとその周囲をあわせて6ヶ所の測定を行います。**
全ての測定が終わると次のOSD画面が出力されます。



カーソルボタン▲ / ▼を押して「CALCULATE」を選択して**OK/ENTER**ボタン押し測定結果の解析を行います。
解析中は次のようなOSD画面が表示されます。

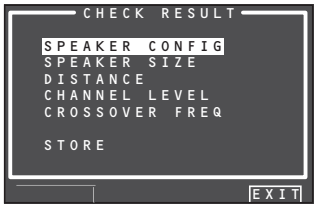


ご注意

- 解析時間は接続されているスピーカーの数と測定ポイントに依存して、スピーカー数、ポイント数ともに、多くなると解析に要する時間も長くなります。
- 測定ポイント数が6ヶ所以下でも測定を終了することはできますが、最良の結果を得るためには、6ヶ所全ての測定を推奨します。

10. **測定結果の確認**

測定結果の解析が終了すると、解析結果の確認画面が表示されます

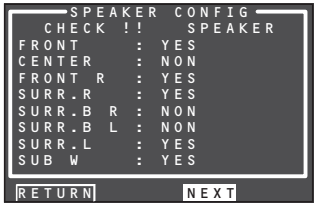


カーソルボタン▲ / ▼を押して確認したい項目を選択して、**OK/ENTERボタン**押して決定します。

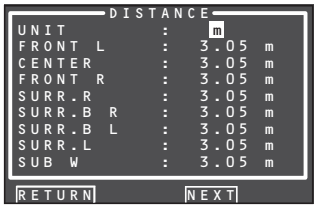
ご注意

- イコライザー（MultEQ）のパラメーターの確認については33ページをご覧ください。

［例］スピーカーの有り無しの確認画面

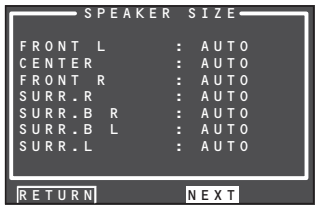


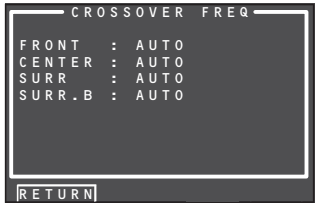
［例］スピーカーからリスニングポジションまでの距離の確認画面



* UNITの「m」にカーソルをあわせて**カーソル**ボタンの◀ / ▶を押す毎に距離の単位［m］メートルと［ft］フィートを切り替えることができます。

［例］スピーカーサイズとクロスオーバー周波数の確認画面

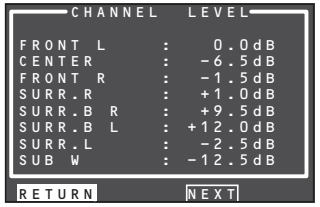




* スピーカーサイズとクロスオーバー周波数は自動測定の結果であることを表すためにAUTOと表示されます。

11. **測定結果のメモリー**

解析結果の確認終了したら、*カーソル*ボタン▲/▼を押してカーソルを「RETURN」に合わせて*OK/ENTER*ボタン押し、「CHECK RESULT」の画面を表示させます。

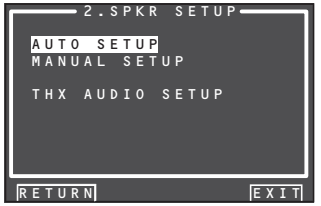


カーソルを「STORE」に合わせて**OK/ENTER**ボタン押すとイコライザーを含む全てのパラメーターがメモリーされます。
解析結果をメモリーさせたくない時は「EXIT」にカーソルを合わせて**OK/ENTER**ボタン押します。

ご注意

- 「STORE」を押す（メモリーする）前に「EXIT」を押すと測定結果および解析結果の全てを消去してしまうので操作に注意してください。

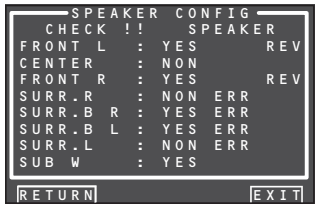
メモリーが完了すると次のOSD画面が表示されます。



ご注意

- メモリー中はSR7001の電源を切らないでください。
SR7001にメモリーされている全てのDataが消去されてしまう場合があり、また故障の原因にもなります。
- THX社認定のフルTHXスピーカー・システムをお使いの場合は、オートセットアップ後にすべてのスピーカーサイズをスモールに、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することをTHX社は推奨しています。

エラーメッセージについて

エラー表示	原因	対処方法
MIC SET ERROR!! 	• マイクが正しく接続されていない	• 付属のマイクを接続する • マイクの接続を確認する
NOISE ERROR!! 	• リスニングルームの騒音が大きすぎて正確な測定ができない • スピーカーから出力される音量が小さい	• 測定中はエアコン等の騒音を発生する機器の電源を切る • 周囲が静かな時間帯に測定をおこなう
ANALYZE ERROR!! * ANALYZE ERRORは**カーソルボタン▲ / ▼**を押してカーソルを「NEXT」に合わせて**OK/ENTERボタン**を押すと次のような詳細画面を表示できます 	• 適切な再生をおこなうための必要なスピーカーが検出できない • スピーカーの極性が逆に接続されている 左図の例では次のような不具合が検出されています。 • Front SpeakerのL-ChおよびR-Chの極性が逆になっている（[REV] Reverse表示がされている） • Surround Speakerが接続されていない（NON表示）のにSurround Back Speakerが接続されている。（このような不具合の場合はSurround および Surround Backの全てのスピーカーに[ERR] Errorが表示されます） 上記以外にもスピーカーの接続が次ぎのように接続されているとErrorになります • Surround Back Speakerを1本だけ使用している場合にSurround Back R-Channelに接続している（Surround Back Speakerを1本だけ御使用の場合はL-Cannelに接続してください）	• 極性が逆と表示されたスピーカーの接続を確認する（ご使用のスピーカーによっては正しく接続されていてもこの表示[REV]がされる場合があります。この場合はエラー表示を無視してください） • スピーカーの向きや配置を確認する

2-2 MANUAL SETUP

1. **MAIN MENUから「2. SPKR SETUP」を選択します。**
2. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で「MANUAL SETUP」を選択します。**
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**

＜SPEAKER SIZE＞

SPEAKER SIZE メニューでスピーカーのサイズを設定する際は以下の指針を参照してください。

LARGE:
充分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

SMALL:
低音再生に非対応の小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。
（SUB W：NONEに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます）

NONE:
対象となるチャンネルのスピーカーを接続していない場合に選択します。

4. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で各チャンネルのスピーカーを選択します。**
5. ***カーソル*ボタン◀ / ▶でスピーカーのサイズを設定します。**
6. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で「NEXT」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。**

THX SPKR
THX社認定のフルTHXスピーカー・システムをお使いの場合は THX SPKRの設定をYESに設定することをお勧めします。
この設定によって
サブウーファー : YES
クロスオーバー周波数 : 80Hz
BASS MIX : MIX
全てのスピーカーサイズ : SMALL
に設定され、スピーカーシステムを簡単に最適な状態に設定することができます。
（設定を変更することはできません）

アドバイス

- THX SPKRの設定をYESにした時は、サラウンドバックスピーカーの設定は、2ch/1ch/NON（未使用）の中から、お客様のご使用状態に合わせた設定を行ってください。

SUB W

YES:
サブウーファーを使用する場合に選択します。
NONE:
サブウーファーを使用しない場合に選択します。

FRONT

LARGE:
フロントスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
フロントスピーカーが小型の場合に選択します。

- サブウーファーで「NONE」を選択した場合はこの項目は「LARGE」に設定されます。

CENTER

NONE:
センタースピーカーを使用しない場合に選択します。
LARGE:
センタースピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
センタースピーカーが小型の場合に選択します。

SURR.

NONE:
サラウンドL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。
LARGE:
サラウンドL/Rスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
サラウンドL/Rスピーカーが小型の場合に選択します。

SURR. B

NONE:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用しない場合に選択します。
2CH:
サラウンドバックL/Rスピーカーを使用する場合に選択します。
1CH:
サラウンドバックスピーカーが1台の場合に選択します。
音声信号は SURR BACK LEFT 端子から出力されます。接続を確認してください。

ご注意

- 「SURR.」の設定で「NONE」を選択した場合、この項目は「NONE」に固定されます。
- サラウンドバックスピーカーを使用しない場合は、サラウンドバック用のパワーアンプをマルチスピーカー用に使用することができます。（15、32ページ参照）

SURR. B（BACK）SIZE

LARGE:
サラウンドバックスピーカーが大型の場合に選択します。
SMALL:
サラウンドバックスピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

- 「SURR.」の設定で「NONE」を選択した場合は、ここでの設定はできません。

LPF/HPF

サブウーファーを用いる場合は、Small に設定したスピーカーのカットオフ周波数を選択することができます。
Small に設定したスピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数レベルを選択します。
60Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 120Hz ↔ 160Hz ↔ 180Hz ↔ 60Hz ↔ ...

アドバイス

- Front スピーカーに小型のものを使った場合は高めに、大型のものを使った場合は低めに設定します。

BASS MIX

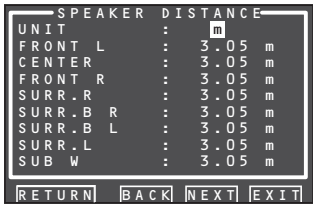
- バス・ミックスの設定は、ステレオ再生で、フロントスピーカーを「**LARGE**」に、サブウーファーを「**YES**」に設定した場合にのみ有効となります。この設定は PCM またはアナログ・ステレオソースの再生時にのみ有効です。
- 「**BOTH**」を選択した場合、低音域帯はメインのL/Rスピーカーとサブウーファーの両方で再生されます。
  この再生モードでは、低音域帯が室内全体に均一に広がります。ただし、部屋の大きさや形状によっては干渉が起こって実際の低域帯の音量が小さくなる場合があります。
- 「**MIX**」を選択すると、低音域帯はメインのL/Rスピーカーでのみ再生されます。
- この再生モードは室内の低音域干渉が起こりにくくなるため、THXより推奨されています。

アドバイス

- Dolby Digital または DTS の再生中の LFE 信号はサブウーファーで再生されます。

7. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。**

＜SPEAKER DISTANCE＞



ここではリスニング位置から各スピーカーまでの距離を指定します。この距離に基づいて自動的にディレイタイムが計算されます。
まず、部屋の中で通常座る理想的な位置を決めます。適切な音場を作る音響タイミングを設定するために、この作業は重要です。

ご注意

- SPEAKER SIZEのMENU設定で「NONE」に設定したスピーカーはSPEAKER DISTANCEのMENUに表示されません。

8. ***カーソル*ボタン◀ / ▶で「UNIT」（表示単位）を「m」（メートル）または「ft」（フィート）に設定します。**

9. ***カーソル*ボタン▲/▼で設定したチャンネルを選択します。**

10. ***カーソル*ボタン◀/▶で、スピーカーまでの距離を設定します。**

FRONT L:
通常のリスニング位置からフロントLスピーカーまでの距離を設定します。

CENTER:
通常のリスニング位置からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

FRONT R:
通常のリスニング位置からフロントRスピーカーまでの距離を設定します。

SURR. L:
通常のリスニング位置からサラウンドLスピーカーまでの距離を設定します。

SURR. R:
通常のリスニング位置からサラウンドRスピーカーまでの距離を設定します。

SUB W:
通常のリスニング位置からサブウーファーまでの距離を設定します。

SURR. B L:
通常のリスニング位置からサラウンドバックLスピーカーまでの距離を設定します。

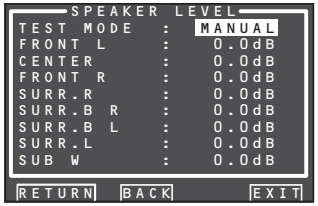
SURR. B R:
通常のリスニング位置からサラウンドバックRスピーカーまでの距離を設定します。

ご注意

- 各スピーカーまでの距離は以下のようにメートル(m)またはフィート(ft)で設定します。
  m: 0.03から9.15 mの範囲で0.03 m単位で設定できます。
  ft: 0.1＋ から30.0 ftの範囲で0.1 ft単位で設定できます。
  (モニタには近似値で表示されます。)
- 「NONE」に設定したスピーカーにはSPEAKER SIZEメニューは表示されません。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを2CHに設定した場合は、「SURR. B L」と「SURR. B R」の設定が表示されます。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを1CHに設定した場合は、「SURR. BACK」の設定が表示されます。

11. ***各設定が終了したとき、カーソル*ボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「NEXT」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押して次のページに進みます。**

＜SPEAKER LEVEL＞



ここでは、リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。
SPL(音圧レベル)メータをお持ちの場合は、リスニングポジションで計測されるSPLを一定にすることを推奨します。SPLメータの読み値が75dB(C weighting, Slow responseにて)になるように各々のスピーカーレベルを調整します。

ご注意

- このMENUで設定された値は、7.1ch入力モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモードの時は反映されません。

テスト・モード
カーソルボタン◀/▶で テストトーンの出力を「**MANUAL**」または「**AUTO**」に設定します。

「**AUTO**」を選択すると、テストトーンは各チャンネルで2秒ずつ、以下の順で循環して出力されます。
フロントL → センター → フロントR → サラウンドR → サラウンドバックR → サラウンドバックL → サラウンドL → サブウーファー → フロントL・・・
カーソルボタン◀/▶で、すべてのスピーカーのレベルが同じになるようにスピーカーから出るテストトーンの音量を調整します。

「**MANUAL**」を選択した場合は以下のように各スピーカーの出力レベルを調整します。

12. ***カーソル*ボタン▼を押してカーソルを「FRONT L」に移動します。本機のフロントLスピーカーからテストトーン(ピンクノイズ)が出力されます。**
このノイズのレベルを調整します。
(レベルの調整は －12 から ＋12 dB の範囲で0.5 dB 単位で行えます。)
カーソルボタン▼を押すと、センタースピーカーからテストトーン(ピンクノイズ)が出力されます。

13. ***カーソル*ボタン◀/▶で、フロントLスピーカーと同じレベルになるようにセンタースピーカーのノイズ音量を調整します。**

14. ***カーソル*ボタン▼を押すと、フロントRスピーカーからテストトーン(ピンクノイズ)が出力されます。**

15. **フロントRスピーカーおよびその他のスピーカーも同様にステップ *13.* と *14.* を繰り返し、すべてのスピーカーの音量が同じになるようにします。**

各設定が終了したとき、**OK/ENTER**ボタンでカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK/ENTER**ボタンを押して「2. SPKR SETUP」メニューにもどります。

ご注意

- SPEAKER SIZEメニューで「NONE」に設定したスピーカーは表示されません。
- SPEAKER SIZEメニューでのサラウンドバックスピーカーを2CHに設定した場合は、「SURR.B L」と「SURR.B R」が表示されます。
- SPEAKER SIZEメニューでサラウンドバックスピーカーを1CHに設定した場合は「SURR. BACK」と表示されます。
- 7.1ch入力ソース(7.1 CH IN端子)のスピーカー・レベルの調整は、7.1ch入力サブメニューで行います。(20ページ参照)
- SUB Wは－18dBから＋12dBまで設定可能です。

2-3 THX AUDIO SETUP

ADVANCED SPKR ARRAY(アドバンストスピーカーアレイ)を設定します。

1. **MAIN MENUから「2. SPKR SETUP」を選択します。**

2. ***カーソル*ボタン▲/▼で「THX AUDIO SETUP」を選択します。**

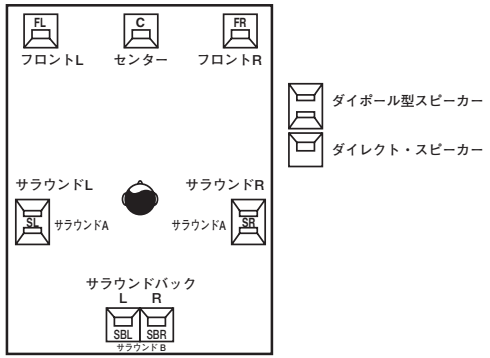
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**

Advanced Speaker Array(ASA)
(アドバンストスピーカーアレイ)

SURR.B SPKR:
ASAは、サラウンドバックスピーカーが「**TOGETHER**」の状態で正面を向いている場合に最大の効果を発揮します。
サラウンドバックスピーカーのLとRの間隔により以下の設定にしてください。
TOGETHER：30 cm 未満
CLOSE：30 cm ～ 122 cm
APART：122 cm 以上

スピーカーのタイプと位置

以下の図は、ASAモードで使用する7.1ch スピーカーに適した位置を示しています。
システムの設定時に、サラウンドバックスピーカー間の距離を選択します。



ASAはTHX SELECT2の上図スピーカー配置でサラウンド信号からサラウンドバック2CH信号を創り出し、より広がりのある音場にします。

ご注意

- SPEAKER SIZEメニューで SURR.B = 1CH または NONE に設定した場合、ASA は作動しません。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK**/**ENTER**ボタンを押して「2. SPKR SETUP」メニューにもどります。

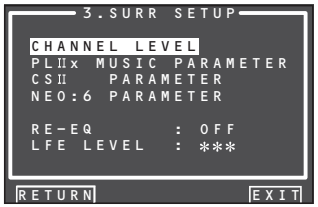
3 SURROUND SETUP

各種サラウンド入力信号に対して、ご使用のスピーカーシステムまたはヘッドホンから高い臨場感の効果を引き出すために、サラウンド効果のパラメーターを設定します。

- **CHANNEL LEVEL:**
  「3-1 CHANNEL LEVEL」(29ページ参照)
- **PLⅡx MUSIC PARAMETER:**
  「3-2 PLⅡx MUSIC PARAMETER」(29ページ参照)
- **CSⅡ PARAMETER:**
  「3-3 CSⅡ PARAMETER」(29ページ参照)
- **NEO:6 PARAMETER:**
  「3-4 NEO:6 PARAMETER」(30ページ参照)

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で MAIN MENU から「3. SURR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**

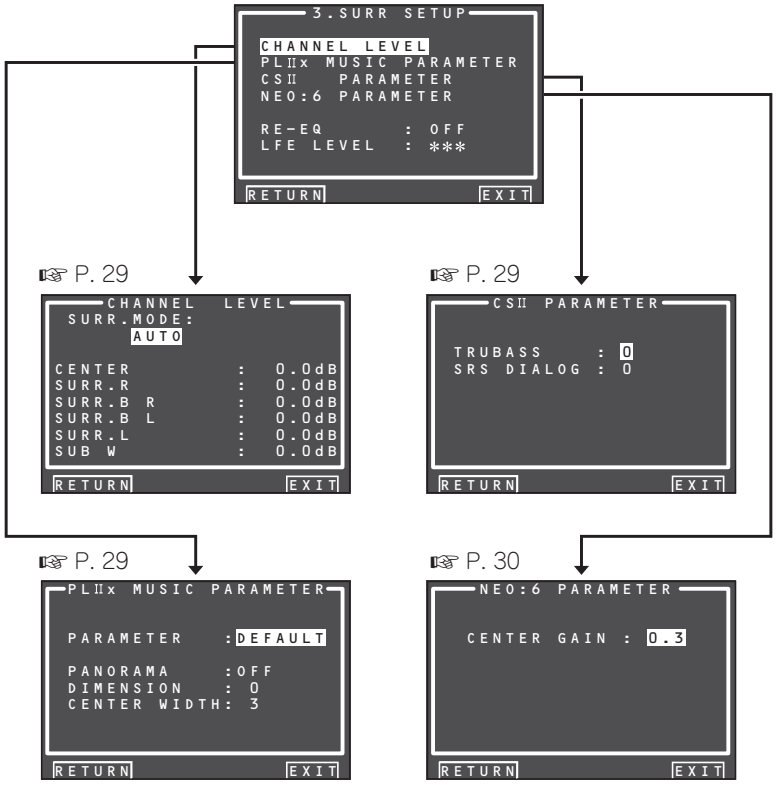
2. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で設定したいメニューを選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



RE-EQ:
THX CINEMA RE-EQ™のON/OFFを設定します。
カーソルボタン◀ / ▶で RE-EQ™を選択し「ON」または「OFF」を選択します。

LFE LEVEL:
Dolby Digital 信号または DTS 信号に含まれる LFE 信号の出力レベルを選択します。
カーソルボタン◀ / ▶で「**0 dB**」、「**−10 dB**」または「**OFF**」を選択します。

各設定が終了したとき、**OK**/**ENTER**ボタンを押してカーソルを「**RETURN**」に移動し、もう1度**OK**/**ENTER**ボタンを押してサブメニューに戻ります。

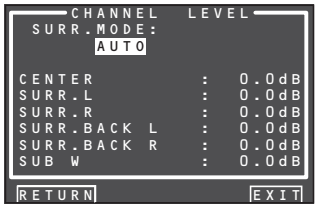


アドバイス

- 各設定が終了したとき、OK/ENTERボタンを押してカーソルを「RETURN」に移動し、もう1度 OK/ENTERボタンを押してサブメニューに戻ります。

3-1 CHANNEL LEVEL

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で「CHANNEL LEVEL」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
3. 設定するSURR. MODEに*カーソル*ボタン◀ / ▶で設定します。



4. *カーソル*ボタン▲ / ▼で設定するメニュー項目を選択し、*カーソル*ボタン◀ / ▶でレベルを設定します。*OK/ENTER*ボタンを押して確定します。

SURROUND MODE:
チャンネルレベルは以下の3つのサラウンドモード毎に独立してメモリーされます。

1. Multi Ch. STEREOのモード
2. CSⅡのモード
3. その他のモード

CHANNEL LEVEL

CENTER LEVEL:
センタースピーカーの補正量はー12dBから ＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでセンタースピーカーを「NONE」に設定した場合はこの設定は表示されません。

SURR L/R LEVEL:
サラウンドスピーカーの補正量はー12dBから ＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサラウンドスピーカーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

S. B L/R LEVEL:
サラウンドバックスピーカーの補正量はー12dBから ＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

SUB W LEVEL:
サブウーファーの補正量はー18dBから ＋12dBで0.5dBステップで設定します。

- SPEAKER SIZE メニューでサブウーファーを「NONE」に設定した場合は、この設定は表示されません。

ご注意

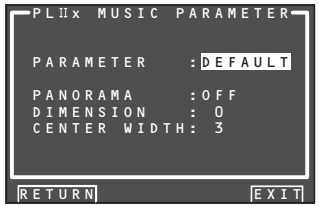
- Multi Ch. STEREO、CSII以外のモードでの設定値は2-2 Manual Setupの内のSPEAKERS LEVELと連動します。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK/ENTER**ボタンを押して、3. SURR SETUPメニューに戻ります。

3-2 PLⅡx(PRO LOGIC Ⅱx)MUSIC PARAMETER

Pro Logic Ⅱx-Music モードはCDなどのステレオソースで、豊かで包み込むようなサラウンド環境を実現します。

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で「PLⅡx MUSIC PARAMETER」を選択します。
3. *OK/ENTER*ボタンを押して確定します。



PARAMETER:
カーソルボタン◀ / ▶で「**DEFAULT**」または「**CUSTOM**」を選択します。
「**CUSTOM**」を選択した場合、以下の3つのパラメータを設定することができます。

PANORAMA:
カーソルボタン◀ / ▶でPANORAMAモードを「**ON**」または「**OFF**」に設定します。
PANORAMA モードでは、フロント左右スピーカーから出る音がリスナーを包み込み、3次元空間の表現力が得られます。

DIMENSION: -3 ⇒... ⇒ 3
フロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様異なりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。-3から3までの7段階の調整が可能です。

CENTER WIDTH: 0 ⇒... ⇒ 7
センターチャンネル成分を、徐々にフロントL/Rのスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。
0から7までの8段階の調整が可能です。
センタースピーカーの設定が「**NONE**」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK/ENTER**ボタンを押します。

3-3 CSⅡ/TS XT PARAMETER

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で「CSⅡ PARAMETER」を選択します。
3. *OK/ENTER*ボタンを押して確定します。

TRUBASS: 0 ⇒... ⇒ 6
- Trubassは、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用したもので、使用するスピーカーの fo(最低再生可能周波数)以下の低音を再生できます。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- サブウーファーを使用している場合、本機能はサブウーファー出力に働きます。
- サブウーファーを使用していない場合、本機能はフロントL/R出力に働きます。

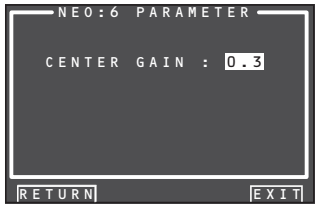
SRS DIALOG: 0 ⇒... ⇒ 6
- SRS Dialogはダイアログ(台詞)を明瞭にすると共に、床置きのセンタースピーカーから出る音の音像定位を画面の高さから聴こえるように、上方向に移動(仮想配置)します。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- SPEAKER SIZE(スピーカーのサイズ)セットアップでセンタースピーカーを「NONE」と選択している場合、この設定を行うことはできません。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK/ENTER**ボタンを押します。

3-4 NEO:6 PARAMETER

DTS NEO:6は2チャンネル入力時、最大6.1チャンネル出力を可能にしたモードです。(5.1チャンネル入力も対応。)
このモードでは、センタースピーカーの音声イメージが拡大されます。

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「3. SURR SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で「NEO:6 PARAMETER」を選択します。
3. *OK/ENTER*ボタンを押して確定します。



4. *カーソル*ボタン▲ / ▼で CENTER GAIN レベルを 0.0 から 1.0の範囲で 0.1単位で選択できます。

ご注意

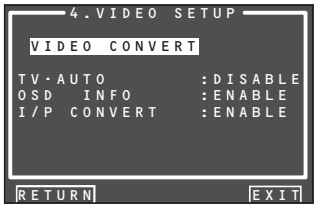
- この設定はNEO:6 Musicモードのときのみ有効です。
- センタースピーカーの設定が「NONE」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK**/**ENTER**ボタンを押します。

4 VIDEO SETUP

ビデオに関する各種設定をします。

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「4. VIDEO SETUP」を選択し、*OK / ENTER*ボタンを押します。



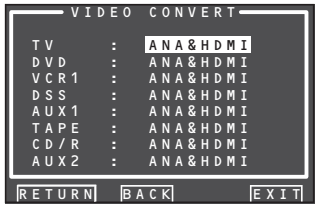
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で設定したいメニューを選択し、*OK / ENTER*ボタンを押します。

- **VIDEO CONVERT**
「4-1 VIDEO CONVERT」(30ページ参照)
- **TV -AUTO**
本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにする機能です。
カーソルボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。
詳細は40ページのテレビオート機能の項を参照してください。
- **OSD INFO**
音量のアップ / ダウン操作や入力ファンクションの切り替え操作をしたときに、モニターに操作の状態をOSD表示する機能です。
カーソルボタン◀ / ▶で「OSD INFO」機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。
この機能が不要の場合は「DISABLE」を選択してください。
- **IP CONVERT**
480iで入力されるアナログビデオ信号を480pに変換して出力する機能です
カーソルボタン◀ / ▶でこの機能を有効にしたいときは「ENABLE」、無効にしたいときは「DISABLE」に設定します。
詳細は35ページのI/Pコンバート機能の項を参照してください。

4-1 VIDEO CONVERT

SR7001のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
VIDEO CONVERT MENUでは、各映像入力Functionごとに、コンバージョンの設定がおこなえます。

1. MAIN MENUから*カーソル*ボタン▲ / ▼で「4.VIDEO SETUP」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。
2. *カーソル*ボタン▲ / ▼で「VIDEO CONVERT」を選択し*OK/ENTER*ボタンを押します。



3. *カーソル*ボタン▲ / ▼でFUNCTIONを選択して*カーソル*ボタン◀ / ▶でVIDEO CONVERTのMODE設定をおこないます。

ANA&HDMI:
アナログ映像信号(ビデオ, Sビデオ, コンポーネントビデオ)の相互のアップコンバージョン、ダウンコンバージョンをおこないます。
さらに、アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバージョンもおこないます。

ご注意

- HDMIのデジタル映像信号からアナログ映像信号のダウンコンバージョンはできません。

ANA ONLY:
アナログ映像信号(ビデオ, Sビデオ, コンポーネントビデオ)の相互のアップコンバージョン、ダウンコンバージョンをおこないます
アナログ映像信号から、HDMIへのアップコンバージョンはおこないません。

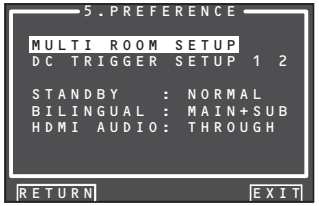
OFF:
全てのコンバージョン機能を停止します。

VIDEOコンバート機能の詳細については35ページを参照してください。

5 PREFERENCE （便利機能の動作設定）

- **MULTI ROOM SETUP :**
  「5-1 MULTI ROOM SETUP」(32 ページ参照)
- **DC TRIGGER SETUP :**
  「5-2 DC TRIGGER SETUP」(32 ページ参照)

1. ***カーソルボタン▲ / ▼で MAIN MENU から「5. PREFERENCE」を選択して、OK/ENTER ボタンを押します。***



2. ***カーソルボタン▲ / ▼で設定するメニューを選択して、OK/ENTER ボタンを押します。***

STANDBY:
「**ECONOMY**」に設定すると、スタンバイ時の消費電力を低減できますが、スタンバイ中、テレビオートON/OFF、RS232Cの機能を使用できません。これらの機能を使用する場合は「**NORMAL**」に設定してください。また、リモコンで電源を入れる場合、少し長めにボタンを押してください。

参考：スタンバイ電力

「ECONOMY」：約 0.9W
「NORMAL」：約 1.4W

BILINGUAL:
AAC、二ヵ国語モードのとき、MAIN(主音声)SUB(副音声) のどちらの音声を出すかを決めます。▲ / ▼で選択し◀ / ▶で MAIN ↔ SUB ↔ MAIN＋SUB を選択します。

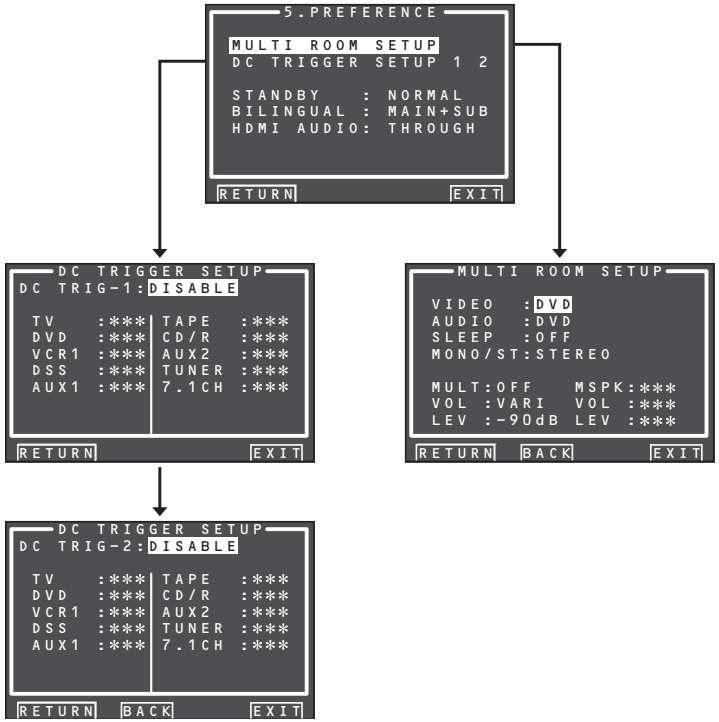
HDMI AUDIO:
HDMI 端子から入力された音声信号を、本機に接続されたスピーカーで再生するか、もしくは本機のHDMI出力端子に接続したテレビやプロジェクターで再生するかを設定します。

ENABLE: HDMI 端子からの音声入力信号を本機で再生します。この場合、TVやプロジェクターからは音声信号は出力されません。

THROUGH: HDMIに入力された音声は本機のスピーカー端子からは出力されません。音声データはTVやプロジェクターにそのまま出力されます。マルチチャンネル対応TVなどで音声を聞きたいときに使用します。

アドバイス

- 各設定が終了したとき、OK/ENTER ボタンを押し、カーソルを「RETURN」に移動し、OK/ENTER ボタンを押してサブメニューに戻ります。



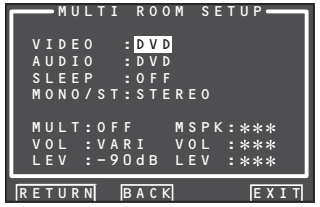
5-1 MULTI ROOM SETUP

マルチルームシステムを使用する時の各設定をこのMENUでおこないます。

アドバイス

- マルチルームシステムについての詳細は46ページを参照してください。

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「5. PREFERENCE」を選択して、*OK/ENTER*ボタンを押します。**
2. ***カーソル* ボタン▲ / ▼で「MULTI ROOM SETUP」を選択します。**
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**



4. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で必要な項目を選択します。**

VIDEO:

マルチルーム出力の映像ソースは**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。

AUDIO:

マルチルーム出力の音声ソースは**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。

ご注意

- VIDEOとAUDIOのファンクションソースの切り替えは同時に動作します。
  TUNERを選択したいときにはAUDIOファンクションを切り替えてください。

SLEEP:

SLEEPモードはマルチルーム出力が「**ON**」のときに利用できます。時間は**カーソル**ボタン◀ / ▶で設定でき、10分単位で最長90分まで設定できます。

MONO/ST(モノラル／ステレオ):

マルチルーム音声出力をモノラル出力にするときは「**MONO**」を、ステレオ出力にするときは「**STEREO**」を**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。

MULT(マルチルーム):

カーソルボタン◀ / ▶でマルチルーム機能の「**ON**」「**OFF**」を設定します。

MSPK(マルチスピーカー):

カーソルボタン◀ / ▶でマルチルームスピーカー機能の「**ON**」「**OFF**」を設定します。

VOL(音量設定):

マルチルームの音量を可変するときは「VARI」に、固定するときは「FIXED」にします。

LEVEL(音量レベル):

マルチルーム出力レベルを**カーソル**ボタン◀ / ▶で調整します。－90dBから0dBまで1dB単位で設定できます。

ご注意

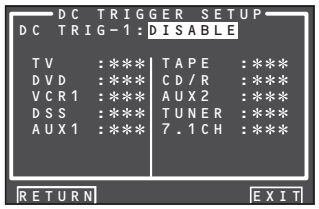
- マルチルームスピーカー機能の設定は、SPEAKER SIZEメニューで「SURR B」が「NONE」に設定され、かつリアパネルでSPEAKER CがOFF位置にあるときに変更できます。この設定が利用できないときは、「＊＊＊」と表示されます。
- 「VOL」が「FIXED」に設定されている場合は、MULTI RC INに接続された外部IRレシーバーからボリュームのアップ/ダウン操作を行ってもマルチルーム出力レベルの調整はできません。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK**/**ENTER**ボタンを押します。

5-2 DC TRIGGER SETUP

本機は、メインルームまたはマルチルームの入力ファンクションと連動してDCトリガー出力をコントロールすることができます。このDCトリガーコントロール端子は2系統あり、各端子ごとの個別設定が可能です。

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「5. PREFERENCE」を選択して、*OK/ENTER*ボタンを押します。**
2. ***カーソル*ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶で、「DC TRIGGER 1から2」の内のどれか1つを選択します。**
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**



4. ***カーソル* ボタン▲ / ▼で、「MAIN ROOM」、「MULTI ROOM」、「REMOTE」、「DISABLE」のいずれかを選択します。**
   - **MAIN ROOM**
     メインルームのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
   - **MULTI ROOM**
     マルチルームのファンクションに連動してDCトリガー出力をコントロールします。
   - **REMOTE**
     リモコンでDCトリガー出力をコントロールします。

   ### ご注意

   - 付属品のRC8001SRではこの機能はご使用になれません。

   - **DISABLE**
     DCトリガー機能を停止します。
5. **設定したい入力ファンクションを*カーソル*ボタン▲ / ▼で選択します。**
6. ***カーソル*ボタン◀ / ▶で「ON」か「OFF」に設定します。**
7. **各設定が終了したとき、*カーソル*ボタン▲ / ▼でカーソルを「RETURN」に移動し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**
   DC TRIG-2も同様に設定できます。

ご注意

- 設定したROOMでONに設定したファンクションが選択されたときにDC TRIGGER OUTに電圧が出力されます。

6 ACOUSTIC EQ

ACOUSTIC EQ（アコースティック イコライザー）のSETUP MENUの設定で使用するイコライザーの選択とイコライザーカーブを設定することが出来ます。

- **PRESET G. EQ ADJ :**
  「6-1 PRESET G.EQ ADJ」（33ページ参照）
- **CHECK AUTO :**
  「CHECK AUTO」（33ページ参照）

EQ MODE:
SR7001にはユーザーが好みによって手動でグラフィックイコライザーを設定する「PRESET」および、AUTO SETUPの自動測定の演算処理で決められる「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」の3種類のMultEQ（マルチイーキュー）が用意されています。

AUDYSSEY:
リスニングルームの音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を補正します。

FRONT:
センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせて補正します。

FLAT:
全てのスピーカーの周波数特性をフラットになるように補正します。
FLAT MODEはマルチチャンネルの音楽再生に適しています。

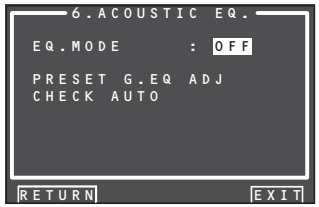
PRESET:
PRESET MODEはユーザーがPRESET G.EQ機能を使用してお好みに合わせて調整することができるMODEです。
（PRESET G. EQ機能については33ページを参照してください）

OFF:
アコースチック イコライザーを使用しないときはOFFを選択します。

ご注意

- 「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」のMultEQの設定値は自動測定の演算処理で決められるため、その値を変更（調整）することはできません。

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択し、*OK/ENTER*ボタンを押します。**



2. ***カーソル*ボタン▲ / ▼で「EQ MODE」を選択します。**
3. ***カーソル* ボ タ ン▲ / ▼で「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」、「PRESET」、「OFF」のいずれかを選択します。**

アドバイス

- EQ MODEに「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」を選択した時は、ディスプレイ表示部に「EQ」の表示がされます。

4. **設定が終わったら、*カーソル*ボタン▲ / ▼でカーソルを「EXIT」に移動して*OK/ENTER*ボタンを押して設定を終了します。**

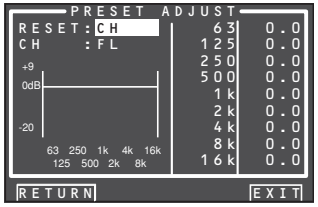
ご注意

- 「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」の各モードは、一度AUTO SETUP（オートセットアップ）を実行した後に選択ができるようになります。
- AUTO SETUP（オートセットアップ）の測定を行ったときに「NONE」に設定された、スピーカーをMANUAL SETUPで使用できるように設定し直した場合は、「AUDYSSEY」、「FRONT」、「FLAT」の各モードの選択は出来なくなります。
- EQ MODEで選択した各イコライザーは、PURE DIRECT, SOURCE DIRECT,7.1ch INPUT, およびDolby Headphone,Dolby Virtual Speaker, のSURROUND MODEをご使用時には無効になります。

6-1 PRESET G. EQ ADJ

7チャンネル（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）毎に9バンド（63Hz～16kHzの9ポイント）のグラフィックイコライザーを設定できます。

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択して、*OK/ENTER*ボタンを押します。**
2. **「PRESET G. EQ ADJ」を*カーソル*ボタン▲ / ▼で選択します。**
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**



RESET:
イコライザー設定をフラットに戻したいときに使用します。**カーソル**ボタンでリセットしたいチャンネルを選択し、次に**OK**/**ENTER**ボタンを押して確定します。
「ALL」: すべてのチャンネル
「CH」: 現在表示されているチャンネルのみ

CH:
調整するサラウンドチャンネル（FL, C, FR, SR, SBR, SBL, SL）を**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。次に▼ボタンで補正モードに移行します。

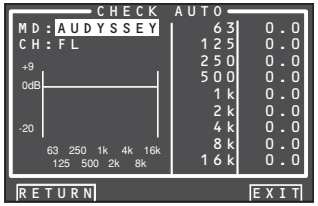
補正する周波数:
補正したい周波数（グラフの上の）を**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。**OK**/**ENTER**ボタンを押して確定します。**カーソル**ボタン▲ / ▼でレベルを調整します。（レベルは、－20dB から＋9 dBの範囲で0.5 dB単位で調整できます。）**OK**/**ENTER**ボタンを押して確定します。
◀ / ▶で次の周波数へ進み、レベル調整を再び行います。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲ / ▼ / ◀ / ▶でカーソルを「**RETURN**」に移動し、**OK**/**ENTER**ボタンを押します。

6-2 CHECK AUTO

オートセットアップの測定結果で設定されたMultEQを確認できます。

1. ***カーソル*ボタン▲ / ▼でMAIN MENUから「6. ACOUSTIC EQ」を選択して、*OK/ENTER*ボタンを押します。**
2. **「CHECK AUTO」を*カーソル*ボタン▲ / ▼で選択します。**
3. ***OK/ENTER*ボタンを押して確定します。**



4. **MD（モード）にカーソルを移動して*カーソル*ボタン◀ / ▶で確認したいMultEQカーブ（AUDYSSEY, FRONT FLAT）を選択します。**

図は左から、グラフ、補正した周波数（Hz）、補正量（dB）です。

CH:
確認したいチャンネルを**カーソル**ボタン◀ / ▶で選択します。

カーソルボタン▲ / ▼で「**RETURN**」を選択し、**OK**/**ENTER** を押して「6. ACOUSTIC EQ.」に戻ります。

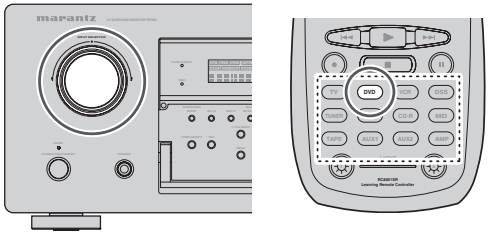
基本操作

この章におけるリモコン操作は、リモコンの動作モードをAMPにした状態で動作します。AMPモードにするにはリモコンのAMPボタンを押してください。

入力ファンクションの選択

信号を再生する際は、まず初めに本体の入力ファンクションを選択します。

例）DVDからの信号を再生する。



1. **本体の インプットセレクターをまわしてDVDを選択、またはリモコンの*DVD*ボタンを続けて2回押します。**

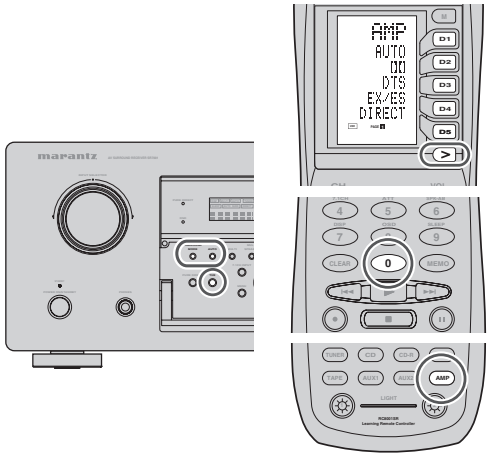
2. **その後DVDプレーヤー側で再生を開始します。**

- 入力ファンクションを切り替えた際、OSDや前面表示部に選択したファンクション名が表示されます。
- 入力ファンクションごとにサラウンドモード、デジタル入力、アナログ入力などの前回の状態がメモリーされています。

サラウンドモードの選択

入力ファンクションを選んだ後は、ご希望のサラウンドモードを選択します。
各サラウンドモードについては36ページのサラウンドモードの項を参照してください。

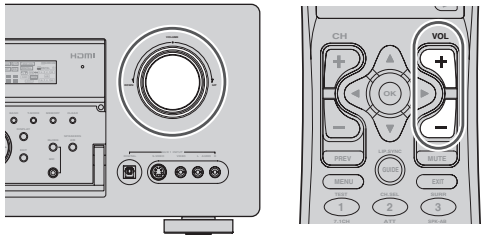
例）オートサラウンドモードを選択する場合。



1. **本体の*AUTO*ボタンを押してオートサラウンドモードを選択します。リモコンでは*AUTO*ボタンを押します。**

オートサラウンドモードにTHXモードを付加したい場合は本体またはリモコンの*THX*ボタンを押します。
（他のサラウンドモードを選択する場合は、リモコンでご希望のサラウンドモードボタンを押して選択するか、本体の**SURROUND MODE**ボタンを押して選択します。）

音量を調整する

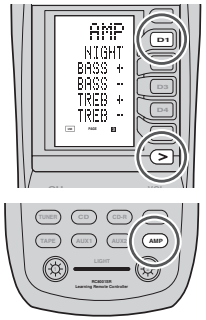


1. **本体のVOLUME ダイヤルを回すか、リモコンの*VOL（＋）*、*（－）*ボタンを押してお好みの音量に調整します。**

- 音量を上げるにはVOLUMEツマミを右に回すか、リモコンのVOL（＋）ボタンを押してください。
- 音量を下げるにはVOLUMEツマミを左に回すか、リモコンのVOL（－）ボタンを押してください。
- 音量調整時には本体前面表示部およびOSDに調整レベルが表示されます。

ナイトモード

夜間などに再生音のダイナミックレンジを押さえて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。
ナイトモードの効果は、ドルビーデジタルのソフトによって設定されています。この機能に対応していないソフトには効果がない場合があります。



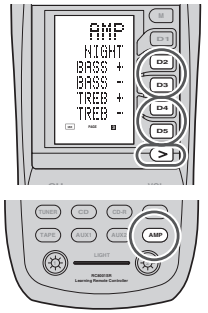
1. **リモコンの*AMP*ボタンを押し、PAGE3の表示になるまで、>ボタンを押します。**

2. ***NIGHT（D1）*ボタンを押します。**
本体前面表示部内のNIGHTが点灯します。

3. **ナイトモードを解除したい場合は、再度リモコンの*NIGHT（D1）*ボタンを押します。**
本体前面表示部内のNIGHTが消えます。

トーンコントロール

スピーカー音声出力のBASS（低音域）、TREBLE（高音域）の調整が各々調整可能です。それぞれ、＋/－6dBまで1dBステップで調整ができます。



- **リモコンのAMPボタンを押し、PAGE3の表示になるまで、>ボタンを押します。BASS＋（D2）、BASS-（D3）、TREBLE＋（D4）またはTREBLE-（D5）を押してお好みのレベルに調整してください。**

ご注意

- トーンコントロールはソースダイレクト、ピュアダイレクト、ドルビーヘッドホン、ドルビーバーチャルスピーカーの各モードおよび192kHzのPCMが入力されている時は動作しません。
  また、ACOUSTIC EQ（アコースティックイコライザー）が動作している場合も使用できません。

ダイアログ・ノーマライゼーション・メッセージについて

ダイアログ・ノーマライゼーション（Dial Norm）はドルビーデジタルの機能です。ドルビーデジタルでコード化されたソフトウェアを再生する時、フロントパネルに「D-NORM X dB」（Xは数値）という短いメッセージが表示されることがあります。ダイアログ・ノーマライゼーション機能は、再生中のソフトウェアが通常より高いレベルで録音されているか、低いレベルで録音されているかを表示します。例えば、フロントパネルに「D-NORM ＋ 4dB」のメッセージが表示された時は、通常より4dB大きなレベルで録音されていることを示します。このとき、ボリュームコントロールを4dB下げて全体の出力レベルを一定にします。
フロントパネルに何も表示されない場合はボリュームコントロールを調整する必要はありません。

VIDEOコンバート機能

アナログビデオコンバージョンについて

SR7001のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
このため再生機器とSR7001の映像入力端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント）との接続方法に関わらず、SR7001モニター出力端子とモニター間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本繋ぐだけで視聴できます。
（設定のしかたについては30ページを参照）

アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン

SR7001のアップコンバージョン機能は入力されたアナログビデオ信号（コンポーネントビデオ信号の解像度が480i, 480p, 1080i, 720pのとき、またはSビデオおよびビデオのビデオ信号のとき）はHDMIモニター端子に出力することができます。
（設定のしかたについては30ページを参照）

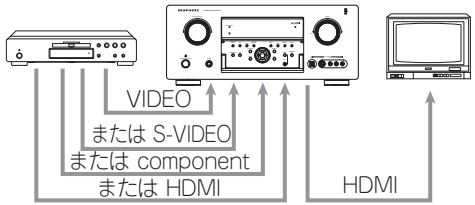
ご注意

- HDMIの映像入力はSR7001のHDMIモニター出力端子にのみ出力されます。
  DVD等の再生機器をSR7001のHDMI入力端子で接続する場合はSR7001のHDMIモニター端子とテレビモニターを接続してください。
- この機能は、録画用出力端子には働きません。
- この機能は、スチル、早送り、逆再生等では、正常に再生されないことがあります。
- ビデオコンバート機能は、ご使用になるテレビ、ビデオプロジェクター等によっては同期ずれ等の不具合が発生する場合があります。

  このような場合はビデオコンバートの機能をオフ（DISABLE）にしてご使用ください。
- 組合せる機器によっては、ノイズによって本機が正しく動作しない場合があります。このような場合もビデオコンバートの機能はオフにしてご使用ください。
- この機能は常にビデオ入力信号を監視しており、入力されている信号に合わせてコンバートをするかしないかを決めています。ただし、入力されるビデオ信号によっては正確な検知ができないこともあります。
- 最高のビデオ品質を得るために、THXはビデオコンバート機能をDISABLEすることを推奨しています。

接続例

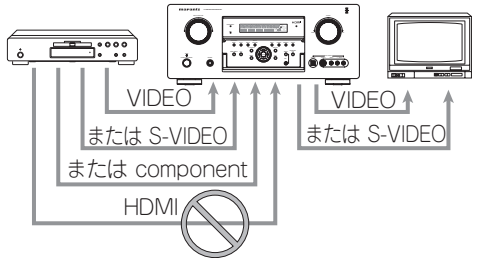
- モニターをSR7001のHDMIモニター端子に接続した場合



ご注意

- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号の解像度が480i, 480p, 1080i, 720p以外のときはSR7001のHDMIモニター端子から映像出力されません。
- 再生機器から入力されるSビデオおよびビデオ信号の解像度が480i以外のときはSR7001のHDMIモニター端子から映像出力されません。

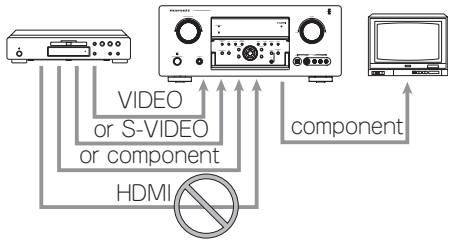
- モニターをSR7001のVIDEOまたはS-VIDEOモニター端子に接続した場合



ご注意

- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号はSR7001のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。
- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号が480i以外のときはSR7001のVIDEO, S-VIDEOモニター端子から出力されません。

- モニターをSR7001のCOMPONENT VIDEOモニター端子に接続した場合



ご注意

- 再生機器から入力されるHDMIビデオ信号はSR7001のCOMPONENT VIDEOモニター端子から出力されません。

OSDメニューシステムについて

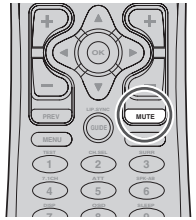
- OSDメニューシステムは全ての映像端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネント、HDMI）に出力されます。
- OSDインフォメーションはVIDEOまたはS-VIDEOのモニター出力端子にのみ出力されます。
  また、VIDEOコンバート機能をオンにして、SR7001のVIDEOまたはS-VIDEOの入力端子に入力された映像信号をビデオコンバージョンしてCOMPONENT VIDEOまたはHDMIのモニター出力端子から出力した場合はOSDインフォメーションが出力されます。

I/Pコンバート機能

SR7001のVIDEO回路にはI/Pコンバート機能が装備されています。
この機能をオンすることで、再生機器から入力されるアナログビデオ信号（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ）の480iを480pにコンバートしてSR7001のCOMPONENT VIDEOおよびHDMIのモニターアウトにプログレッシブ出力することができます。
（設定のしかたについては30ページを参照してください）

ミュート機能

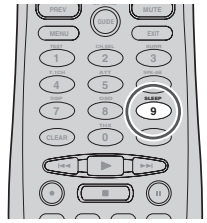
本機で再生動作をしているとき、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。



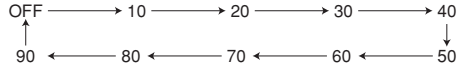
1. **リモコンの*MUTE*ボタンを押します。音声出力が消えます。**
   本体前面表示部、OSDにMUTEと表示されます。
2. **ミュートを解除したい場合は、再度リモコンの*MUTE*ボタンを押します。**
   音声が再び出力されます。またリモコンのボリュームコントロールによってもミュートは解除されます。

スリープタイマーを使う

設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。最大90分まで設定可能です。



1. **本体またはリモコンの*SLEEP*ボタンを押します。押すごとに前面表示部の設定時間表示が次ぎのように変わります。**



2. **ご希望の時間を表示したら、約2秒間お待ちください。スリープタイマーがセットされます。**
   前面表示部内のSLEEPが点灯します。
3. **スリープタイマーを解除したい場合は、上記の手順*1.*と*2.*を行ってOFFを選択してください。**

サラウンドモード

サラウンド

本機には多くのサラウンドモードが搭載されています。これは再生するソースの内容に応じて、多様な音声効果を再現するためです。
利用可能なサラウンドモードは、入力信号とスピーカーの設定に応じて制限される場合があります。

SOURCE DIRECT（ソースダイレクト）

スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスします。よって入力信号を最短処理にて出力します。またアナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。

ご注意

- スピーカーサイズは Front L/R = LARGE、Center = LARGE、Surround L/R = LARGE、Subwoofer = YES に自動的に設定されます。
- トーンコントロール、イコライザーその他の追加の処理は停止します。

PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）

ピュアダイレクトモードはソースダイレクトモードの動作に加え、ビデオ端子（ビデオ、S-ビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI）への出力を停止し、表示部も消灯して更にノイズ源を低減させます。

AUTO

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に再生状態を切り替えます。
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド 、DTS、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの信号フォーマットを検出してそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
基本的に、入力信号がPCM信号の場合はステレオ再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合それぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

THX CINEMA

5.1ch（DOLBY DIGITAL、DTSやAAC）信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にTHX CINEMA処理（THX5.1）を施します。このモードは映画素材の再生において劇場での音場再生環境をそのまま家庭で再現することを目的としております。よって音楽やライブ、TV放送等の映画素材とは異なる記録がされた素材の再生には適しません。本モードにおいてはSURROUND EX処理は一切施しません。
2ch（DOLBY DIGITAL、AAC、PCM、アナログ）信号入力の場合、一旦ドルビープロロジックⅡムービー処理をおこなった後にTHX CINEMA処理を施します。

THX SURROUND EX

5.1ch（DOLBY DIGITAL、DTSやAAC）信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にTHX SURROUND EX処理（THX Sur.EX）を施すことにより、サラウンドバック信号を付加します。SURROUND EX処理を施して記録された入力信号では、サラウンド空間再生の定位感が向上します。
しかし、SURROUND EX 処理が施されていない入力信号に対しては不自然な定位再生になることがあります。（詳しくはDVDのパッケージなどを参照して、本モードに切り替えてください）
入力信号にL、R独立したサラウンド信号成分が記録されている場合に有効です。また、スピーカーセットアップでサラウンドバックスピーカーを使用している設定をした場合に有効です。

ご注意

- Dolby Digital Surround EXでエンコードされたソースを6.1チャンネルで再生するときは、THX Surround EXモードを選択してください。

THX SELECT2 CINEMA

THX SELECT2 Cinemaモードは、7.1チャンネルのスピーカーをすべて使用して、5.1チャンネルの映画ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。

このモードでは、ASA処理はサラウンドスピーカーと、サラウンドバックスピーカーを混合し、広がりと定位感を最適化したサラウンドサウンドを提供します。
このモードは、ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS-ESエンコードではない、5.1チャンネルの映画ソフトを7.1チャンネルシステムで再生することを可能にします。
DTS-ES（マトリックス6.1 および マトリックス6.1）やドルビーデジタルサラウンドEXエンコードのソースでは、デジタルフラグ（検出信号）が自動的に検知され、THX SURROUND EXモードになります。
ドルビーデジタルサラウンドEXのソフトの中には、自動的に切替えを認識するフラグ（検出信号）がないものがあります。
見ている映画ソフトがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていることを知っている場合、手動でTHX Surround EX再生モードを選択することができます。
もしそうでなければ、THX SELECT2 Cinemaモードが、ASA処理を適用し、最適な再生を提供します。

THX MUSIC

マルチチャンネル音楽の再生時に、THX Music モードを選択してください。このモードでは、DTS および Dolby Digital のようなワイドで安定した背面の音場を確保するために、5.1エンコードされたすべての音楽ソースのサラウンドチャンネルに THX ASA処理が適用されます。
DTS 5.1とDolby Digital 5.1 ch、AAC 5.1 chなどの、マルチチャンネル音楽ソースの視聴時におすすめします。

ご注意

- これらのモードは、SPEAKER SIZE 設定メニューで、サラウンドバックスピーカーを2台に設定した場合に利用できます。
- これらのモードは、入力信号にサラウンド左右用のコンテンツがある場合に利用できます。

THX GAMES

マルチチャンネルのゲーム音声を再生する場合に、THX Games モードを選択してください。このモードではアナログ、PCM、DTS、AACおよび Dolby Digitalのような、5.1チャンネルでエンコードされたすべてのゲーム・ソースのサラウンドチャンネルに、THX ASA処理が適用されます。
これによってゲーム音声のすべてのサラウンド情報が正確に配置され、360度全方位の再生環境が得られます。サラウンドフィールドのすべての場所で滑らかな音声遷移が得られるという点が、THX Gamesモードの特性です。

DD MODE

（Dolby Digital、Pro Logic Ⅱx MOVIE、Pro Logic Ⅱx MUSIC、Pro Logic Ⅱx GAME）
このモードは、Dolby Digital と Dolby Surround でエンコードされた入力ソースに使用します。

DOLBY DIGITAL
このモードは、Dolby Digital でエンコードされた入力ソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた 5.1ch Dolby Digital ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。このモードでは Dolby Digital EX のオーディオはデコードできません。

Dolby Pro Logic Ⅱx には次の5つのモードがあります。

Pro Logic Ⅱx MOVIE
このモードでは、Dolby Surround エンコードされたステレオ映画のサウンドトラックから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx MUSIC
このモードではCD、テープ、FM、テレビ、ステレオビデオなど従来型の（アナログもしくはデジタルの）ステレオソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx GAME
このモードでは、サラウンド低域をシステムのサブウーファーに割り振ることによって、強い低域サラウンド効果を再現します。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Movie
このモードでは、映画サウンドトラックの5.1ch ソースから、7.1ch のサラウンド音声が得られます。

5.1ch ＋ Pro Logic Ⅱx Music
このモードでは、5.1ch のサウンドトラック・ソースから、6.1ch もしくは7.1ch のサラウンド音声が得られます。

ご注意

- SPEAKER SETUP メニューで SURR. B を “NONE”に設定したときは、Pro Logic Ⅱxモードは Pro Logic Ⅱ モードとしてデコードします。（26ページ参照）
- Pro Logic Ⅱx モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた、2ch 入力信号に対して利用できます。

EX/ES

このモードでは、Dolby Digital EX とDVD などのDTS-ES エンコードされた入力ソースに対して、6.1ch サラウンドが提供されます。
アナログ入力を選択したときは、このモードは利用できません。

Dolby Digital EX

映画館では、Dolby Digital Surround EX テクノロジーでエンコードされた映画のサウンドトラックは、プログラムのミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。
サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルにより、現在利用可能なフロント左、フロントセンター、フロント右、サラウンド右、サラウンド左、サブウーファーチャンネルに加えて、リスナーの背後に音声が配置されます。
この追加のチャンネルによって、より繊細な後方音声イメージをリスナーに与えることができ、それによってこれまでにない奥行きや広がりのある音像がもたらされます。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、Dolby Digital EX は利用できません。

DTS-ES（Discrete 6.1, Matrix 6.1）

DTS-ES ではDTS 5.1ch 形式にサラウンドセンターチャンネル音声を追加して音像定位を改善し、6.1ch 再生時の音像移動をより自然なものにします。
本機には DTS-ES デコーダーが組み込まれており、DVD などの DTS-ES Discrete エンコードと DTS-ES Matrix エンコードのソースを処理することができます。
DTS-ES Discrete 6.1 の特徴は、サラウンドバックチャンネルを含むすべてのチャンネルの独立したデジタル録音と、より質の高いオーディオ再生です。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、DTS-ES は利用できません。

dts

dts, Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードはDVD、CDのような DTS エンコードされたソースの視聴用です。Neo:6 は 2ch ソースの視聴用です。

dts

このモードは dts マルチチャンネルエンコードされたソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた5.1ch dts ソースを再生すると、5つのメイン音声チャンネル（左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右）と、LFE チャンネルからの音声が得られます。
このモードでは DTS-ES でのデコードは利用できません。
またアナログ入力を選択したときは、DTS モードは利用できません。

Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードでは高精度デジタルマトリックステクノロジーを使用して、2ch 信号を6ch 信号にデコードします。
DTS Neo:6 デコーダーには、チャンネルの周波数特性ばかりでなくチャンネルセパレーションにおいてもほぼディスクリートであるという特性があります。
再生する信号に応じて、DTS Neo:6 は映画再生用に最適化された Neo:6 Cinema モードか、音楽再生用に最適化された Neo:6 Music モードのいずれかを使用します。

ご注意

- Neo:6 モードは、Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式にエンコードされた2ch 入力信号の場合に利用できます。

MULTI CH（MOVIE, MUSIC）

このモードは、2chソースからより広く、より奥行きがあり、より自然な音場を作成する場合に使用します。
そのような音場は、左チャンネル信号を左フロントスピーカーと左サラウンドスピーカーの両方に、右チャンネル信号を右フロントスピーカーと右サラウンドスピーカーの両方に振り分けることによって実現されます。さらにセンターチャンネルでは、右チャンネルと左チャンネルを融合した音声が再生されます。

CIRCLE SURROUND Ⅱ（CSⅡ-CINEMA、CSⅡ-MUSIC、CSⅡ-MONO）

Circle Surround は、エンコードなしの素材とマルチチャンネルエンコードされた素材を、マルチチャンネルサラウンド再生できるように設計されています。
放送、ビデオテープ、ステレオレコード音楽を含む、すべての音楽と映画の再生において、下位互換性による6.1チャンネルまでのサラウンド性能がリスナーに提供されます。
ソースに応じて CSⅡ-Cinema モード、CSⅡ-Music モード、CSⅡ-Mono モードのいずれかを選択できます。

ご注意

- CSⅡ モードは Dolby Digital、HDCD、PCM のいずれかの形式でエンコードされた 2ch 入力信号に対して利用できます。

Dolby Virtual Speaker

ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを2本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジックⅡにより作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

STEREO

このモードでは、すべてのサラウンド処理が省略されます。
ステレオソースで、PCM オーディオやアナログステレオが入力されたときは、左チャンネルと右チャンネルが通常の再生を行います。
Dolby Digital と DTS ソースの場合は、5.1ch が2ch ステレオに変換されます。96 kHz の PCM ソースは、ステレオモードで再生できます。

MPEG-2 AAC

BSデジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2chステレオ音声に加え、5.1chサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。

ご注意

DTSについて

- DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
  上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。
- お手持ちのプレーヤーによっては、DTS再生をすると短いノイズが発生する場合があります。これは動作不良ではありません。
- DTSレーザーディスクやDTS CDの信号がほかのサラウンドモードで再生されている間は、MAIN MENUのINPUT SETUPや A/Dボタンを使って、デジタル入力からアナログ入力へ切り替えることはできません。
- DTS エンコードされたソフトウェアをマルチルームで聴くことはできません。
- VCR 1 OUT、VCR 2 OUT、TAPE OUT、CD-R OUT 端子からは、アナログ音声信号だけが出力されます。これらの端子を使用して DTS 対応の CD や LD から録音しないでください。DTS エンコードされた信号は、ノイズとして録音されてしまいます。

Dolby Digital Surround EXについて

- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソフトウェアを6.1チャンネルで再生するときは、EX/ES モードに設定してください。
- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソースの中には、識別信号が含まれないものがあります。この場合は手動で EX/ES モードを設定してください。

96 kHz/192 kHz PCM オーディオについて

- DVDビデオ/オーディオディスクの場合のように、PCM 信号をサンプリング周波数96/192 kHzで再生するときは、AUTO モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモード、ステレオモードを使用できます。
- お手持ちのDVDプレーヤーによっては、デジタル出力が制限されることがあります。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- DVDディスクの中にはコピープロテクト機能を持つものがあります。このようなディスクを使用したときは、96 kHzの PCM 信号は DVDプレーヤーから出力されません。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

HDCDについて

- HDCD はデジタル入力の場合にのみ有効です。
- お手持ちのCDプレーヤーによっては、プレーヤーを本機にデジタル接続しても特定の HDCD ソース信号を再生できない場合があります。

使用するサラウンドモードと入力信号について

サラウンドモードは本機のINPUT SELECTOR か、リモコンを使って選択します。また、聴こえる音声は、選択したサラウンドモードと入力信号との関係に応じて変化します。
関係は次の表のとおりです。

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
AUTO	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	O	O	O	O	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM	O	O	O	-	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	O	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	O	-	-	-	O	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	O	-	-	-	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	O	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	O	O	O	O	O	ANALOG	-
SOURCE DIRECT PURE DIRECT	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	O	O	O	O	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	O	O	O	-	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (2ch)	O	-	-	-	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	O	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	-	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	O	O	O	O	O	ANALOG	-
EX/ES	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi-PCM	Multi Ch-PCM + Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM + Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	-	O	DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1 + PLIIx	O	O	O	O	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + PLIIx	O	O	O	O	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM + PLIIx	O	O	O	O	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx	O	O	O	O	O	ANALOG	-
DTS (Neo:6 Cinema) (Neo:6 Music)	DTS-ES	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Neo:6	O	O	O	O	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	O	O	O	O	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	SA-CD (2ch)	Neo:6	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Neo:6	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	Neo:6	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Neo:6	O	O	O	O	O	ANALOG	-
CSII Cinema CSII Music CSII Mono	Dolby D (2ch)	CSII	O	O	O	O	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	CSII	O	O	O	O	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	SA-CD (2ch)	CSII	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	CSII	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	CSII	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	CSII	O	O	O	O	O	ANALOG	-
STEREO	Dolby Surr.EX	Stereo	O	-	-	-	O	DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	O	-	-	-	O	DIGITAL SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Stereo	O	-	-	-	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	O	-	-	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Stereo	O	-	-	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Stereo	O	-	-	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Stereo	O	-	-	-	O	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	O	-	-	-	O	PCM	L, R
	HDCD	Stereo	O	-	-	-	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	O	ANALOG	-

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル					表示部	
			L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
Dolby Virtual Speaker	Dolby Surr.EX	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Dolby Virtual Speaker	O	-	-	-	-	ANALOG	-
Multi Ch. Movie Music	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Multi Channel	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel	O	O	O	O	O	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM	O	O	O	-	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Multi Channel	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Multi Channel	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	Multi Channel	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Multi Channel	O	O	O	O	O	ANALOG	-
Dolby H.P	Dolby Surr.EX	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Dolby H.P	O	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby H.P	O	-	-	-	-	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Dolby H.P	O	-	-	-	-	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Dolby H.P	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	HDCD	Dolby H.P	O	-	-	-	-	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Dolby H.P	O	-	-	-	-	ANALOG	-
THX (AUTO)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital + THX Surround EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1+ THX 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES + THX	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS + THX 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + THX5.1	O	O	O	-	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM + THX5.1	O	O	O	-	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	ANALOG	-
THX Select2 (THX EX) (THX Cinema) (THX Music) (THX Games)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital + THX Surround EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1+ THX Select2 Cinema	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES + THX	O	O	O	O	O	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS + THX Select2 Cinema	O	O	O	O	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM + THX Select2 Cinema	O	O	O	O	O	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Multi Ch-PCM + THX Select2 Cinema	O	O	O	O	O	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx movie + THX	O	O	O	O	O	ANALOG	-

ご注意

- DVDディスクにサラウンドデータがない場合、サラウンドスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーから音声は出力されません。

略語

L/R: フロント左/右スピーカー
C: センタースピーカー
SL/SR: サラウンド左/右スピーカー
SBL/SBR: サラウンドバック左/右スピーカー
SubW: サブウーファー

その他の機能

この章におけるリモコン操作は、リモコンの動作モードをAMPにした状態で動作します。AMPモードにするにはリモコンのAMPボタンを押してください。

テレビオート機能(TV-AUTO)

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにすることができます。テレビの電源を入れると本機の電源が入り、テレビの電源を切ると本機は5分後にスタンバイになります。

1. **この機能を使う場合は、OSDメニューシステムの4. VIDEO SETUPにてTV-AUTO：ENABLEの設定を行ってください。(30ページ参照)**
2. **テレビ側のVIDEO(ビデオ)信号出力端子と本機のテレビ用VIDEO(ビデオ)信号入力端子を接続します。**
3. **電源ON状態からスタンバイになる動作は、本機の入力ファンクションをTVに設定したときのみ有効です。**

ご注意

- 本機の主電源を切っている状態では、この機能は働きません。主電源をいれた状態で使用してください。
- STANDBY MODE(スタンバイモード)をECONOMYに設定している場合、この機能は働きません。本機能を使用する場合はSTANDBY MODEをNORMALに設定してください。
- 本機能は、S-VIDEO、Component Video、HDMIの入力端子には対応しておりません。ご利用の際は必ずVIDEO入力端子を使用してください。

アッテネート機能

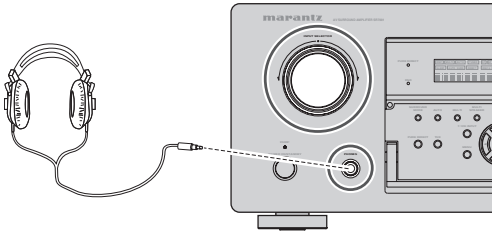
アナログ信号入力を本機にて再生しているとき、前面表示部のPEAK表示が点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎることを意味します。このときアッテネート機能によってアナログ入力信号レベルを減衰させることができます。

- この機能は、アナログ入力が選択されている場合に有効です。
- この機能は、各入力ファンクションごとにメモリーされます。例えば、CDを選択しアッテネート機能を設定して、他の入力に切り替えた後、再びCDを選択したときに、アッテネート機能は有効になっています。

1. **リモコンまたは本体の*ATT*ボタンを押します。**
   本体前面表示部のATT表示が点灯し、動作状態を表します。アナログ入力信号レベルがおよそ半分に減衰されます。
2. **アッテネート機能を解除したい場合は、再度*ATT*ボタンを押します。**
   ATT表示が消えます。アナログ入力信号レベルがもとに戻ります。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホン(PHONES)端子は、本機をヘッドホンで聴く場合に使用します。標準ステレオプラグヘッドホンをご使用ください。
ヘッドホン端子を使用しているときは、スピーカーが自動的にオフになります。



ご注意

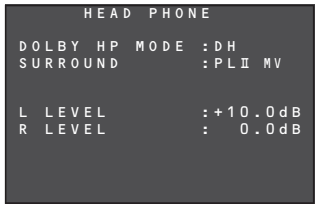
ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。

⚠警 告

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないように注意してください。

ドルビーヘッドホン・モード

このモードは、スピーカーで聴いたときの波形を再現します。ヘッドホンを使用すると、**MENU**ボタンは自動的にドルビーヘッドホン・モードに切り替わります。
MENUボタンを押したときに表示されるOSDメニューは次のとおりです。



DOLDBY HP(ヘッドホン)モードは左右のカーソルボタンで選択できます。
BYPASS → ON → BYPASS

BYPASS: ドルビーヘッドホン・モードにはならず、通常の2chステレオ音声を出力します。
ON: ドルビーヘッドホン・モード。

ピュアダイレクトモードを選択したときはドルビーサラウンド処理が省略され、モード・表示には「***」が表示されます。

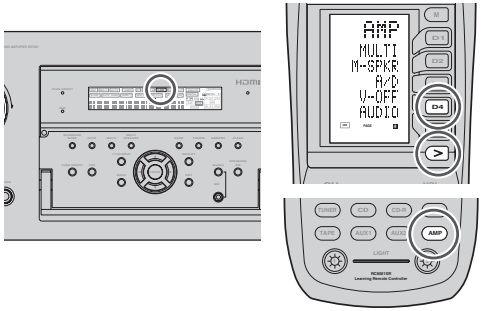
ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、サラウンドモードを選択できます。
「L/R LEVEL」は±12 dBの範囲で設定できます。

ご注意:

- ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- ドルビーヘッドホン・モードがオンのときは、トーンコントロールおよびACOUSTIC EQは設定することはできません。

V-OFF(ビデオ出力OFF)機能

この機能は、各映像出力端子(ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI)の出力を停止します。



1. **リモコンの*AMP*ボタンを押し、PAGE4の表示になるまで>ボタンを押し、*V-OFF (D4)* ボタンを押します**
   本体前面表示部のV-OFF表示が点灯し、動作状態を表します。
2. **ビデオ出力Offを解除したいときは、再度これらのボタンを押します。**

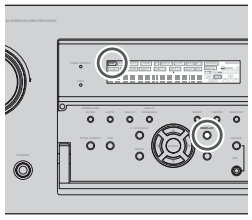
ご注意

- ビデオオフ状態が選択されていてもOSDメニューを選択した場合はメニュー画面が出力されます。

ディスプレイモード

本体前面表示部の 表示動作モードを選択できます。

入力表示：
選択した入力ファンクション状態を表示します。
モード表示：
FUNCTION INPUT SETUP（20ページ参照）で設定したFUNCTION Modeの状態を表示します。
サラウンド表示：
選択したサラウンドモード状態を表示します。
Auto Display Off：
本機の操作をしたときに、5秒間表示した後 消灯します。
Display Off：
常に消灯した 状態です。



1. **本体の*DISPLAY*ボタンまたはリモコンDISPボタンを押します。**
これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。

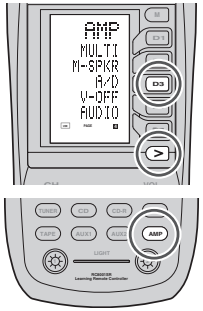
ご注意

- Display Off 状態では、本体表示部のDISP表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

入力モード切り替え

デジタル入力を設定したファンクションを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。

AUto mode： 選択した入力機器に対してHDMIまたはデジタル入力端子に入力されているデジタル信号の有無を自動的に検出します。
（HDMI入力とデジタル入力が検出された時は、HDMI入力が優先されます）
デジタル信号が入力されていない場合はアナログ入力が自動的に選択されます。
HDMI mode： HDMI入力に固定されます。
Digital mode： デジタル入力に固定されます。
Analog mode： アナログ入力に固定されます。



1. **リモコンの*AMP*ボタンを押し、PAGE4の表示になるまで＞ボタンを押し、*A/D（D3）*ボタンを押します。**
ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。

ご注意

- ここで選択した入力モードは一時的な設定です。入力ファンクションを切り替えたり、スタンバイにした後は、セットアップメニューで設定した入力設定に戻ります。

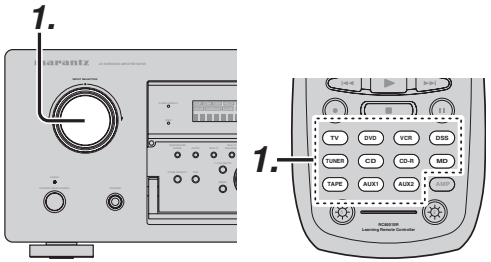
録音・録画をする

カセットテープ、CD-R、MDにアナログ信号で録音する

本機を操作してカセットテープ、CD-R、MDなどに録音することができます。このため本機はTAPE OUT端子、CD-R/MD OUT端子を装備しております。

例： 現在CD入力にてCDを再生して聴きながら、TAPEにアナログ録音をする場合。
（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. **本体のインプットセレクターまたはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、CDの入力を選択します。**



2. **カセットデッキの入力設定（レベル設定など）をおこない、録音スタンバイ状態にします。**
詳細はカセットデッキの取扱説明書をご覧ください。
3. **カセットデッキ録音状態にします。**
4. **CDプレーヤーを再生します。**
録音が開始されます。

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、TAPE OUT、CD/CDR OUT端子への出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- TAPE OUT端子、CD/CDR OUT端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えばDVDを選択して再生している場合、これらの端子には本機のDVDアナログ入力端子への入力信号が出力されます。

ビデオデッキに録画/録音する

本機を操作してビデオデッキなどに録画することができます。このため本機はVCR1 OUT端子、VCR2 OUT端子を装備しております。

例：現在 TV 入力を選択して、ビデオデッキに TV 入力信号をアナログ録画 / 録音する場合。
（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. **本体またはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、TVの入力を選択します。**
2. **ビデオデッキの入力設定をおこない、録画スタンバイ状態にします。**
詳細はビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。
3. **ビデオデッキを録画状態にします。**
録画/録音が開始されます。

ご注意

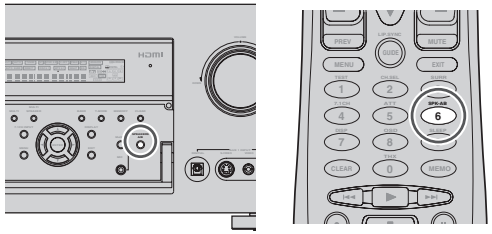
- 音声信号がデジタル信号だけの接続の場合、VCR1 OUT、VCR2 OUT端子の音声信号の出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号の接続も行ってください。
- VCR1 OUT端子（音声L/R、VIDEO、S-VIDEO）、VCR2 OUT端子（音声L/R、VIDEO、S-VIDEO）これらの端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えば、TVを選択して再生している場合、これらの端子には本機のTV（VIDEO、S-VIDEO、アナログ音声）入力端子への入力信号が出力されます。
- またVideo信号入力からS-Video信号出力への変換、およびS-Video信号入力からVideo信号出力への変換は行いません。必ず同一の入出力にてご使用ください。
- HDMI入力端子に入力される信号は録画／録音することはできません。

スピーカー A/B 切り替え

本機はフロントL/Rスピーカーに対し、スピーカーシステムAとスピーカーシステムBの切り替えが可能です。本体の**SPEAKERS A/Bボタン**もしくはリモコンの**SPK-ABボタン**を押して切り替えます。

これらのボタンを押す毎に以下のように切り替わります。
スピーカーA → スピーカーB → スピーカーA＋B → スピーカーオフ → スピーカーA →

お手持ちのシステムにあわせて選択してください。

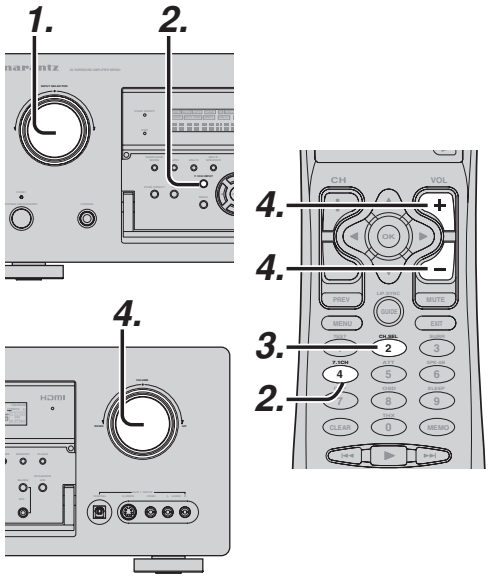


ご注意

- ヘッドフォンを使用している場合はこれらの切り替えはできません。

7.1CH INPUT

マルチチャンネルスーパーオーディオCDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための7.1chの外部入力端子が搭載されています。これらの入力信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウト端子へ出力および内部アンプに入力されます。(SubW入力はプリアウトのみ)
この機能が働いているときは、入力ファンクションを切り替えることができません。この機能に合わせて楽しみたいビデオ系の入力ファンクションを選択してから7.1CH INPUTボタンを押してください。



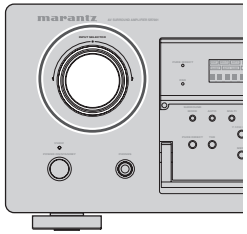
1. **本体またはリモコンでご希望のビデオソース(入力ファンクション)を選択します。**
2. **本体またはリモコンの *7.1CH INPUT (7.1CH)* ボタンを押します。**
   もし7.1CH INPUTの各チャンネルの音量バランスを調整したい場合はSETUP MENUの "7.1CH INPUT LEVEL"を選択して、調整してください。(20ページ参照)
3. **本体のVOLUMEツマミを回すか、リモコンの *VOL(＋)*、*(－)* ボタンを押して、全体の音量をお好みのレベルに合わせてください。**
4. **7.1CH INPUTを解除する場合は、再度本体またはリモコンの *7.1CH INPUT (7.1CH)* ボタンを押します。**

ご注意

- 7.1CH INPUTを選択しているとき、サラウンドモードは選択できません。また7.1CH INPUTを選択しているときは、録音出力端子には信号は出ません。

AUX2入力

7.1CH-INPUT機能を使用しない場合、本入力端子のFRONT L/R入力をAUX2端子としても使用可能です。この場合、他のオーディオ入力端子(CD, TUNERなど)と同様にサラウンドモードの選択、トーンコントロール、Tape-Out、VCR-outなどを機能させることができます。



1. **本体のインプットセレクターまたはリモコンのAUX2ボタンを押してAUX2を選択します。**

LIP.SYNC(リップ・シンク)機能

接続する映像機器によっては、映像信号の処理がオーディオ信号に対して時間差があるものがあります。
この差は、ほんのわずかですが映画や音楽を楽しむ上ではとても重要です。
LIP.SYNC機能は、オーディオ信号を遅らせて映像との時間差を調整します。操作は本体またはリモコンのLIP.SYNCボタンとカーソルの左右ボタンで行います。リモコンはAMPモードにしてから操作を行ってください。初期値はOFF(0ms)で、最大200msまで10msステップで調整できます。
ディスプレイやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整してください。

ご注意

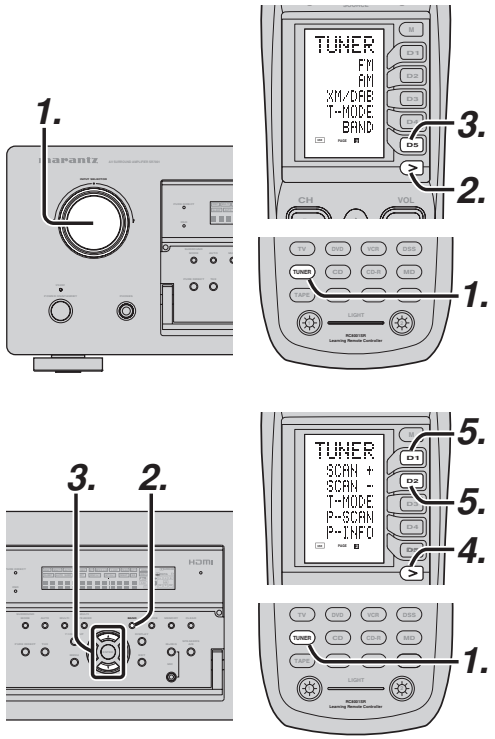
- この機能はソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードではOFF(0ms)になります。ソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードが解除されると設定した値に戻ります。

基本操作（チューナー）

チューナー機能の操作をリモコンで行う場合は、リモコンの**TUNER**ボタンを押してリモコンをチューナーモードにしてから操作を行います。

チューナー（FM/AM）を聴く

オートチューニング



（本機で選択する場合）

1. フロントパネルのINPUT SELECTORつまみを回してTuner選択します。
2. フロントパネルの*BAND*ボタンを押して、聴きたいバンド（AMまたはFM）を選択します。
3. フロントパネルの*カーソル*ボタン▲/▼ボタンを1秒以上押し続けるとオートチューニング・モードが開始します。
4. オートスキャンが始まり、放送局を受信するとスキャンが停止します。

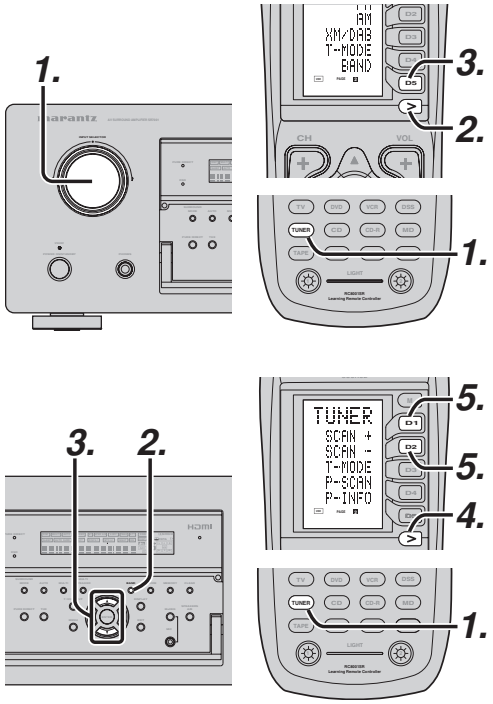
（リモコンで選択する場合）

1. リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してファンクションをTUNERに切り替えます。
2. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 1を表示させます。
3. *BAND (D5)* ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
4. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 2を表示させます。
5. SCAN＋（D1）またはSCAN－（D2）を1秒以上押し続けます。
6. オートスキャンが始まり、放送局を受信するとスキャンが停止します。

アドバイス

- もし聞きたい放送局の周波数が解っていて、オートスキャン操作でスキャンが停止しなかった場合はマニュアルチューニングで選局してください。

マニュアルチューニング



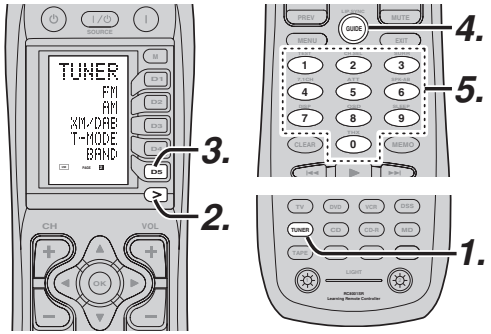
（本機で選択する場合）

1. フロントパネルのINPUT SELECTOR つまみを回してTUNER選択します。
2. フロントパネルの*BAND*ボタンを押して、聴きたいバンド（AMまたはFM）を選択します。
3. フロントパネルの*カーソル*ボタン▲/▼ボタンを押して、お聞きになりたい放送局の周波数にあわせます。

（リモコンで選択する場合）

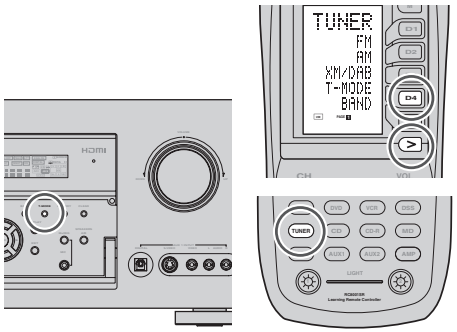
1. リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してSR7001のファクションをTUNERに切り替えます。
2. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 1を表示させます。
3. *BAND (D5)* ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
4. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 2を表示させます。
5. SCAN＋（D1）またはSCAN－（D2）でお聞きになりたい放送局の周波数にあわせます。

周波数入力によるダイレクト選局



1. リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してSR7001のファクションをTUNERに切り替えます。
2. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 1を表示させます。
3. *BAND (D5)* ボタンを押してFMまたはAMのバンドを切り替えます。
4. リモコンの*GUIDE*ボタンを押すとSR7001のディスプレイ表示部に「FREQ ----」と表示されます。
5. リモコンの*数字*キーで聴きたい放送局の周波数を入力します。
6. 入力した周波数が選局されます。

FM受信モード（オートステレオまたはモノラル）



チューナーのバンドにFMが選択されているときにリモコンの**T-MODE**ボタンでオートステレオとモノルの切り替えができます。

1. リモコンの＞ボタンを押してPAGE 1を表示させす。
2. *T-MODE (D4)* ボタンを押してオートステレオとモノラルの切り替えをします。

アドバイス

- オートステレオ・モード時は、SR7001のディスプレイ表示部に「AUTO」インジケーターが点灯します。
  またステレオ放送受信時は、「ST」インジケーターが点灯します。

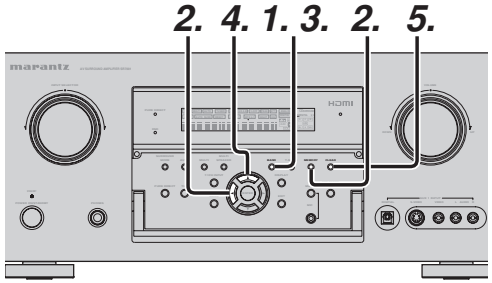
電波が弱いと、ステレオで受信するのが困難な場合があります。
このとき、リモコンまたは本体の**T-MODE**ボタンを押してモノラルに切り替えてください。
モノラル受信となりますが、ノイズが軽減され聴きやすくなります。この時、ディスプレイ表示部の「AUTO」インジケーターは消灯します。

プリセットメモリ

AM/FM の放送局がお好きな順序で60局までプリセットできます。
それぞれの放送局について、必要に応じて周波数と受信モードおよび放送局名（英数）を記憶させることができます。

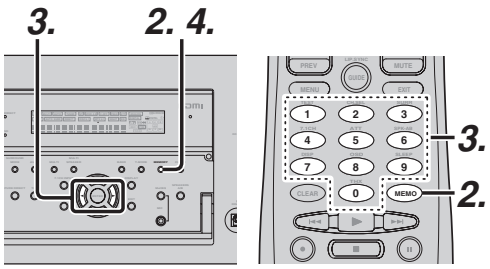
オートプリセットメモリ

この機能によって、AM バンドと FM バンドを自動的にスキャンして、適切な電波強度のあるすべての放送局をメモリに記録します。



1. **FM を選択する場合は、フロントパネルの *BAND* ボタンを押します。**
2. ***MEMORY* ボタンを押しながら◀を押します。表示部に「AUTO PRESET」と表示され、最も低い周波数からスキャンが開始されます。**
3. **チューナーが放送局を受信するたびに、スキャンが停止しその放送局を 5 秒間受信します。**
   BAND ボタンを押すと、バンドを変更できます。
4. **現在の放送局を Preset 01 に記憶したいときは、ボタンを押さずにそのままにしています。**
   現在の放送局をスキップしたい場合は、この間に▲を押します。
   この放送局はスキップされ、オートプリセットが継続されます。
5. **60 個すべてのプリセットメモリが設定されたとき、またはオートスキャンがバンドの上限に達したときは、スキャンは自動的に停止されます。**
   オートプリセットメモリを停止したい場合は、**CLEAR** ボタンを押してください。

マニュアルプリセットメモリ



（本機で設定する場合）

1. **設定したい放送局に周波数を合わせます。**（「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」参照）
2. **フロントパネルの *MEMORY* ボタンを押します。**
   表示部で「ーー」（プリセット番号）が点滅を始めます。
3. **点滅している間に ◀または▶を押して、プリセット番号を選択します（約5秒間）。**
4. **もう1度 *MEMORY* ボタンを押して確定します。**
   表示部の点滅が止まります。
   この放送局がご指定のプリセットメモリに保存されました。

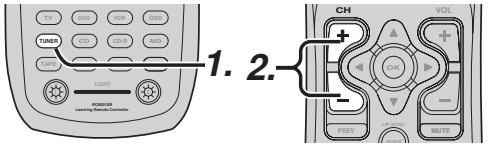
（リモコンで設定する場合）

1. **設定したい放送局に周波数を合わせます。**（「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」参照）
2. **リモコンの *MEMO* ボタンを押します。表示部で「ーー」（プリセット番号）が点滅を開始します。**
3. ***数字*キーを押して、設定したいプリセット番号を入力します。**

ご注意

- 一桁の数値（例えば、2）を入力するときは「0」「2」と入力するか「2」と入力して数秒間待ちます。

プリセット局の呼出



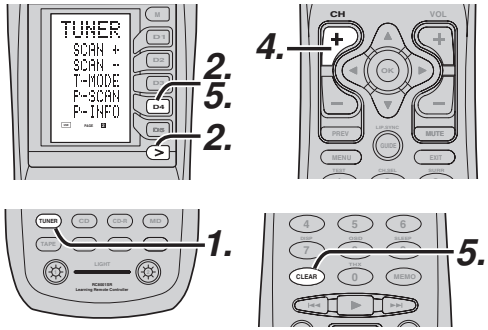
（本機で選択する場合）

1. **フロントパネルの◀または▶ボタンを押して呼び出したいプリセット局を選択します。**

（リモコンで選択する場合）

1. **リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してファンクションをTUNERに切り替えます。**
2. **リモコンのCH＋またはCH－を押して呼び出したいプリセット局を選択するか、または数字キーで呼び出したいプリセット番号を入力します。**

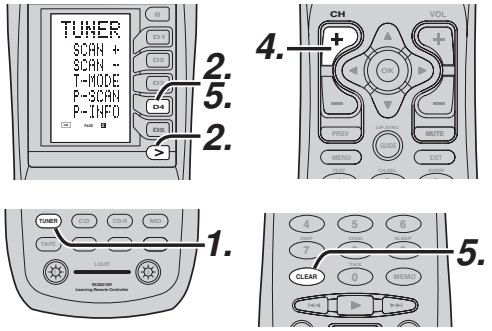
プリセット局のスキャン



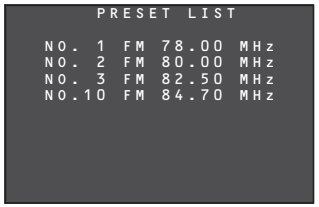
1. **リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してファンクションをTUNERに切り替えます。**
2. **リモコンの＞ボタンを押してPAGE2を表示させて、*P-SCAN (D4)* を押します。**
   表示部に「PRESET SCAN」と表示され、小さい番号のプリセット局が最初に呼び出されます。
3. **プリセット局が順番に呼び出され（No.1 → No.2 → No.3 .....）、1局ごとに5秒間表示されます。**
   このとき保存したプリセット番号がスキップされることはありません。
4. ***CH＋*ボタンを押すと、プリセット局を早送りできます。**
5. **聴きたいプリセット局が受信できたら、*CLEAR* または *P-SCAN (D4)* ボタンを押してプリセット・スキャン操作を停止します。**

プリセット局のリスト表示

本機にメモリーされている放送局を、モニターへ一覧表示することができます。



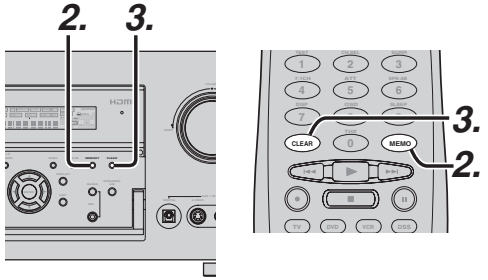
1. リモコンのチューナーボタンを2秒以内に2回押してファンクションをTUNERに切り替えます。
2. リモコンの＞ボタンを押してPAGE2を表示させて、*P-INFO (D5)* を押します。
3. 次のようにプリセットされた放送局の一覧表示を本機に接続されたモニターTVへOSD表示します。



4. リスト表示は画面上に10局まで表示されます。プリセットした放送局が10局以上ある場合はもう一度リモコンの*P-INFO (D5)* ボタンを押して次のページを表示させます。
   リスト表示は操作後5秒後に自動的に消えます。

プリセット局の削除

プリセット局をメモリから削除します。

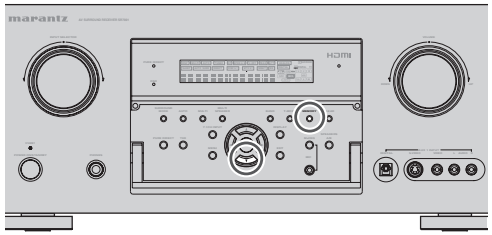


1. 削除したいプリセット番号を呼び出します。(「プリセット局の呼出」参照)
2. フロントパネルの *MEMORY* ボタンを押すか、またはリモコンの MEMO を押します。
3. 保存されているプリセット番号が表示部に 5 秒間点滅します。点滅している間に、フロントパネルの *CLEAR* ボタンを押すか、またはリモコンの CLR を押します。
4. 表示部に「xx CLEAR」と表示され、指定したプリセット番号が削除されたことが示されます。

アドバイス

- 保存されているプリセット局すべてを削除するには、CLEAR ボタンと ENTER ボタンを同時に 2 秒間押します。

プリセット局の番号の並びかえ



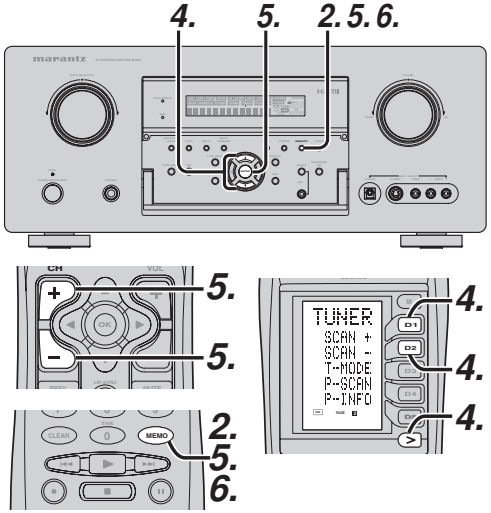
記憶させた放送局番号が連続していない(例えば以下のように放送局が保存されている)場合

1) 78.0 MHz
2) 80.0 MHz
3) 82.5 MHz
10) 84.7 MHz

(4から9にはプリセットされた放送局がないので、プリセット10を4としてプリセットすることができます。)
番号をソートするには、**MEMORY**ボタンと▼ボタンを同時に押します。
表示部に「**PRESET SORT**」と表示され、ソートが完了しました。

プリセット局名の入力

各プリセット局の名前を、英数字を使用して入力できます。
名前を入力する前に、プリセットメモリ操作によってプリセット局を保存してください。



1. 名前を付けたいプリセット番号を呼び出します。(「プリセット局の呼出」参照)
2. フロントパネルの *MEMORY* ボタンまたは、リモコンの MEMO を 3 秒以上押します。
3. 放送局名インジケーターの左端が点滅して、文字入力が可能なことを示します。
4. フロントパネルの*カーソル*ボタン▲/▼またはリモコンの*SCAN＋*または*SCAN－*ボタンを押すと、アルファベットと数字が以下の順序で表示されます。

   A → B → C ... Z → 1 → 2 → 3 ..... 0 → – → ＋ → / →(空白)→ A

   UP →

   → DOWN

   文字を消去するには、*CLEAR* ボタンを押すか、リモコンの CLEAR を押します。

アドバイス

- リモコンの数字キーを使用して文字入力を行うこともできます。
  この場合は次の表を参照してください。

数字キー	画面表示
1	A → B → C → 1 → A
2	D → E → F → 2 → D
3	G → H → I → 3 → G
4	J → K → L → 4 → J
5	M → N → O → 5 → M
6	P → Q → R → 6 → P
7	S → T → U → 7 → S
8	V → W → X → 8 → V
9	Y → Z → space → 9 → Y
0	– → ＋ → / → 0

5. 入力する最初の文字を選択したら、フロントパネルの*MEMORY*ボタンを押すか*ENTER*ボタン、またはリモコンの*MEMO*ボタンを押します。
   入力が確定したら、次のカラムが点滅を開始します。次のカラムも同じ方法で入力します。
   設定する文字を変更するには、◀または▶を押すか、リモコンの*CH＋*または*CH－*ボタンを押してください。

アドバイス

- 空白部分にはスペースを入力してください。

6. 名前を保存するときは、フロントパネルの*MEMORY*ボタン、またはリモコンの*MEMO*ボタンを2秒以上押します。

マルチルームシステム

マルチルームシステム機能は、本機の設置場所（メインルーム）以外の部屋でメインルームと同じ、もしくは異なるソースを聴くことが出来ます。

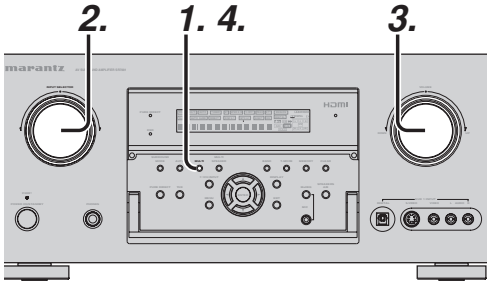
マルチルームシステムをご使用になる場合は、15ページの接続図の例のように、音声はMULTI OUTの音声出力端子からマルチルーム用のアンプに接続します。

ビデオ出力（MULTI OUT）端子は、マルチルーム用のモニター出力端子に接続します。
（マルチビデオ出力はマルチルームのソースセレクターに連動します。）

メインルームでサラウンドバックスピーカーまたは、SPEAKER C（詳細は15ページを参照）をご使用になられない場合は、サラウンドバック用のアンプを使用した、マルチスピーカーシステムを使用することができます。

SR7001はソース・セレクター、OSDメニューシステム、スリープ・タイマー、リモートコントロールなどのマルチルームシステム機能に対応しています。

マルチルーム出力端子を使用したマルチルーム再生



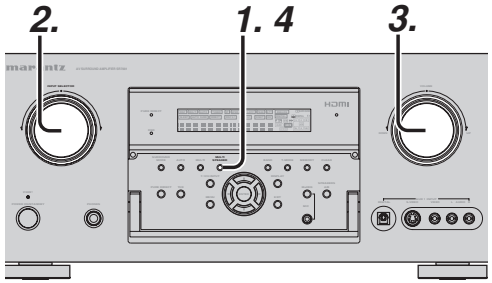
1. **SR7001の*MULTI*ボタンを押すとマルチルームのソースとボリュームの設定画面になり、表示部の「MULTI」インジケーターが点灯します。**
2. **INPUT SERECTORつまみで入力ソースを選択します。**
3. **ボリュームつまみを回してマルチルームの音量をお好みに応じて調整します。**
4. **マルチルーム機能をOFFしたいときは、*MULTI*ボタンを押します。**

アドバイス

- OSDメニューシステムを使用して設定を行うことも可能です。（32ページ参照）

MULTI SPK端子を使用したマルチルーム再生

SR7001はスピーカーをもう1セット接続して、音楽視聴用の別の部屋や独立した場所に配置することができます。



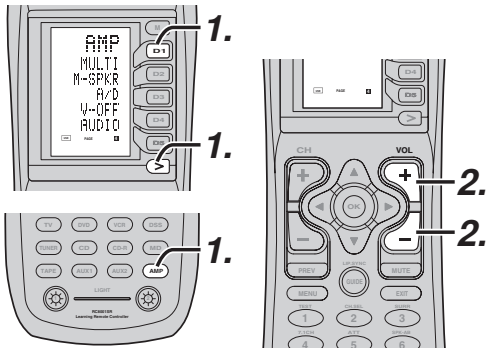
1. **SR7001の*MULTI SPEAKER*ボタンを押すと表示部に「M-ROOM SPKR」と表示されマルチルームスピーカーのソースとボリュームの設定画面になります。**
   このとき表示部の「MULTI」インジケーターも点灯します。
2. **INPUT SERECTORつまみで入力ソースを選択します。**
3. **ボリュームつまみを回してマルチルームの音量をお好みに応じて調整します。**
4. **マルチルームスピーカー機能をOFFしたいときは、*MULTI SPEAKER*ボタンを押します。**

マルチルーム・スピーカーについて

- SPEAKER SETUPメニューで「SURR. B」（サラウンドバックスピーカー）が「NONE」に設定されているときは、サラウンドバック用のパワーアンプをマルチスピーカー用に使用することができます。（26ページ、SPEAKERSETUP参照）
- SPEAKER SETUPメニューで「SURR. B」（サラウンドバックスピーカー）が「NONE」に設定されていない場合は、MULTI SPEAKERボタンを押すと「The Surr. Back Speakers are in use」（サラウンドバックスピーカーを使用中です）と表示されます。（26ページ、SPEAKER SETUP参照）
- マルチスピーカー・モードは、SPEAKER Cと同時にはご使用いただけません。マルチルーム用の接続をする場合は、リアパネルのSPEAKER Cスイッチを OFFにしてください。

別室からの
マルチルーム出力の操作

マルチルームの操作は本機のない別室からも行なうことが出来ます。その場合、別売りの赤外線受光装置が必要になります。（接続図 15 ページ参照）



1. **別室でリモコンの*MULTI*ボタンを押します。**
（リモコンの**AMP**ボタンを押してから**>**ボタンをPAGE4が表示されるまで押します。それから**MULTI（D1）**を押します。）MULTIが本体のディスプレーに表示されマルチルームモードになります。マルチルームのビデオ出力のOSDインフォメーションにマルチルームのセットアップ状態が表示されます。

```
        MULTI ROOM
VIDEO   :DSS
AUDIO   :DSS
SLEEP   :90 min
MONO/ST:STEREO

MULTI:ON       MSPKR:OFF
VOL   :VARI    VOL   :VARI
LEVEL:-20dB    LEVEL:-90dB

--- MAIN ROOM STATUS ---
VIDEO:DVD    AUDIO:DVD
```

2. **再生音量はリモコンのボリュームボタン（VOL＋/－）を押して調整します。**
マルチルームモードにおいてリモコンは以下の機能を操作することが出来ます。
音量調整、スリープタイマー、ミュート、入力ファンクションの選択。

ご注意

- 別室からの操作は別売りのリモコン受光装置が必要になります。
- マルチルーム出力はアナログのみです。デジタル入力の信号には対応しません。

リモコン操作

マランツ製機器のリモコン操作

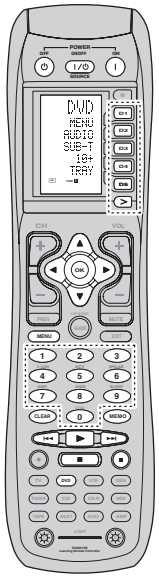
本リモコンは、初期設定状態にてマランツ製品の基本操作ができるようになっています。

1. **希望する機器のファンクションボタンを押してリモコンの動作モードを決定します。**

2. **希望する操作ボタンを押します。**

- 各機器の操作の詳細は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては、本機のリモコンにて操作できないものもあります。

DVDモード



SOURCE ON/OFF	DVDプレーヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	DVDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	DVDプレーヤーのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
Cursor/OK	メニュー等でのカーソルの移動および、選択の確定
MENU	DVDディスクメニュー呼び出し
0-9	数字の入力
MEMO	プログラムの呼び出し
CLEAR	各種入力の取消し
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
■	停止
II	一時停止

CDモード

SOURCE ON/OFF	CDプレーヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	CDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	CDプレーヤーのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
0-9	数字の入力
MEMO	プログラムの呼び出し
CLEAR	各種入力の取消し
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のトラックへの移動
■	停止
II	一時停止
■	停止
II	一時停止

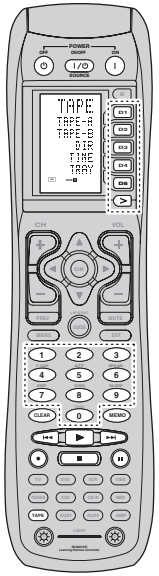
CDRモード

SOURCE ON/OFF	CDRプレーヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	CDRプレーヤーの電源オン
POWER OFF	CDRプレーヤーのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
MENU	CDテキスト等のスクロール
0-9	数字の入力
MEMO	プログラムの呼び出し
CLEAR	各種入力の取消し
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のトラックへの移動
■	停止
II	一時停止
●	録音

MDモード

SOURCE ON/OFF	MDプレーヤーの電源オン/スタンバイ
POWER ON	MDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	MDプレーヤーのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
MENU	テキスト等のスクロール
0-9	数字の入力
MEMO	プログラムの呼び出し
CLEAR	各種入力の取消し
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のトラックへの移動
■	停止
II	一時停止
●	録音

テープモード



SOURCE ON/OFF	カセットデッキの電源オン/スタンバイ
POWER ON	カセットデッキの電源オン
POWER OFF	カセットデッキのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
0-9	数字の入力
MEMO	プログラムの呼び出し
CLEAR	各種入力の取消し
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のトラックへの移動
■	停止
II	一時停止
●	録音
II	一時停止

AUX1モード（マランツユニバーサルドックのコントロール）

SOURCE ON/OFF	ユニバーサルドックの電源オン/スタンバイ
POWER ON	ユニバーサルドックの電源オン
POWER OFF	ユニバーサルドックのスタンバイ
D1～D5/＞(Page)	(巻末のviページをご覧ください。)
MENU	メニューの呼び出し
Cursor Up	カーソルのアップ
Cursor Down	カーソルのダウン
OK	メニューの選択
▶	再生
I◀◀ / ▶▶I	前方または後方のコンテンツへの移動
■	停止
II	一時停止

基本動作説明

USEモード

（通常の使用状態）

本機リモコンには、マランツ製のTV（テレビ）、DVD、VCR（ビデオデッキ）、DSS（衛星放送チューナー）、TUNER（チューナー）、CD、CD-R、MD、TAPE（テープデッキ）、AUX1、AUX2、AMP（アンプ）の計12種類のリモコンコードがプリセットされています。
マランツ製品をご使用の場合、学習は不要です。そのままご使用いただけます。

1. **ソースボタンを押します。**
   ここでは例としてDVDを押します。
   表示部にDVDが表示され、リモコンがDVD用に設定されます。ソースボタンを1回押すことでリモコンが押されたソース用の設定に変わります。
   アンプ等のソースを変えるときは、ソースボタンを2回押し（ダブルクリック）します。コードが送信されてアンプのソースがDVDに変わります。
2. **各ボタンを押して、DVDを操作します。**
   リモコンコードが送信されている間は表示部に が表示されます。コードが記憶されていないボタンを押したときには表示しません。
3. **ダイレクトボタンでDVD、TV、AMPなど12のソース毎に最大20通りの操作ができます。**
   ボタンはD1～D5まであり、表示部画面の表示に対応するボタンを押して機器の操作をします。
   ページは4ページあり、選択をするには、>ボタンを押します。今のページの位置は表示部に表示されます。

PRESETモード

（マランツ製品以外のAV機器を操作する）

本機リモコンには他社製のAV機器のリモコンコードがプリセットされています。
プリセットコードは、TV、VCR、LD、CABLE、DSS、DVD、TAPE、TUNER、CD、CD-R、MD、AMPがあり、設定には2通りの方法があります。
プリセットコードを設定した場合、本機リモコンのソースボタンには、次の表のコードが入ります。

プリセットされているメーカー、機器、プリセット番号などは巻末のメーカー番号一覧表をご覧ください。

ご注意

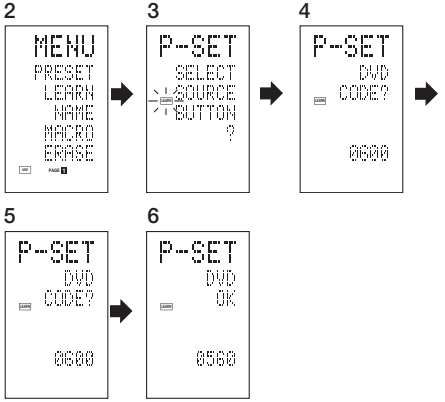
- お持ちの機器によっては本機のリモコンのセットアップコードが合わないことがあります。その場合、本機のリモコンではお持ちの機器を操作できません。

リモコンのソース名	対応するプリセットコード	機器名
TV	TV	テレビ
DVD	DVD	DVDプレーヤー
VCR	VCR	ビデオデッキ
DSS	SATELLITE	衛星放送チューナー等
TUNER	RECEIVER/TUNER	AM FMチューナー
CD	CD/CD-R PLAYER	CDプレーヤー
CD-R	CD/CD-R PLAYER	CDレコーダー等
MD	CD/CD-R PLAYER	MDデッキ
TAPE	TAPE DECK	カセットデッキ
AUX1	CABLE	ケーブルテレビ等
AUX2	LASER DISC	レーザーディスクプレーヤー
AMP	AMPLIFIER	アンプ・レシーバー等
	RECEIVER/TUNER	

■マランツ製品をご使用の場合、お客様の使用状態に合わせてTVとDVDはそれぞれTV1（TV/VDP：プロジェクター）、TV2（PDP：プラズマディスプレー）、DVD1（1台目のDVDプレーヤー）、DVD2（2台目のDVDプレーヤー）の設定ができます。設定はプリセットモードで行います。
工場出荷状態はそれぞれTV1、DVD1に設定されています。プリセットの仕方は以下の「メーカー番号を直接入力して設定する」の項を参照し以下の番号を入力してください。
TV 1 ：0001、 TV2 ：0002
DVD1：0001、 DVD2：0002

メーカー番号を直接入力して設定する

メーカー番号一覧表をご覧ください。
例としてSAMSUNGのDVDプレーヤーを設定する。



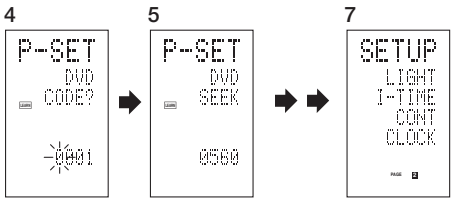
1. **巻末のメーカー番号一覧表を見て、操作するメーカーの番号を探します。**
2. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
3. ***ダイレクトボタンのD1（PRESET）*ボタンを押します。**
   プリセット設定（P-SET）表示になります。
4. ***ソース*ボタンの*DVD*を押します。**
5. ***数字*ボタンを押して4桁のメーカー番号を入力します。**
   例：メーカー番号一覧表から0600と入力する。
   入力した番号を修正する場合はカーソルボタンの◀か▶を押し、正しい番号を入力します。
   - 設定操作の途中で1分以上ボタンが押されなかった場合、その時点で入力途中の設定が解除されます。
6. ***カーソル*ボタンの*OK*を押します。**
7. **OKが表示され、プリセット設定（P-SET）表示に戻ることを確認します。**
   メーカー番号が正しく設定されると、表示部にOKが表示されます。
   - メーカー番号一覧にない番号を入力した場合は、表示部にWRONG CODEが表示され た後に、プリセット設定表示に戻ります。

     メーカー番号一覧を確認して別の番号を設定するか、シーケンス機能を使って設定します。
8. **続けて他のソース機器のメーカー番号を設定するには、4～6の操作を繰り返します。**
9. **設定を終わるときには、*M*ボタンを押します。**
10. **本機リモコンのボタンを押しDVDの操作が正しくできる事を確認してください。**

メーカー番号一覧表にない機器を設定する

メーカー番号一覧表にない機器については、シーケンス機能を使って設定できます。シーケンス機能を使っても、一部の機器では設定できない場合があります。このような場合は個別にコードを学習させて使用してください。
シーケンス機能では、本機リモコンのボタンを順に押してゆくことで電源ON・OFFのコードが送信されます。
相手側の機器の電源をONにしておき、OFFになったところでボタンを押すのをやめれば設定が完了します。

例：DVDプレーヤーを設定する。



1. **相手側のDVDプレーヤーの電源をONにします。**
2. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
3. ***ダイレクトボタンのD1（PRESET）*ボタンを押します。**
   プリセット設定（P-SET）表示になります。
4. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
5. ***CH＋*ボタンまたは*CH－*ボタンを1秒以上押します。**
6. ***CH＋*ボタンを約1秒間隔で押します。**
   信号が送信され、表示部のコード番号表示が順次変わります。
   CH－ボタンを押すと、番号表示が戻ります。
7. **相手側のDVDプレーヤーの電源がOFFになったら押すのを止めます。**
8. ***カーソル*ボタンの*OK*を押します。**
9. **OKが表示され、プリセット設定（P-SET）表示に戻ることを確認します。**
10. **続けて他のソース機器のメーカー番号を設定するには、4～8の操作を繰り返します。**
11. **設定を終わるときには、*M*ボタンを押します。**
12. **本機リモコンのボタンを押しDVDの操作が正しくできる事を確認してください。**

設定した機器がうまく動作しない時は、次の事を確認してください。
- メーカー番号一覧表に複数の番号がある場合は、別の番号を設定してみてください。
- 全てのボタンが使用できない場合があります。必要なボタンにコードを学習させてください。

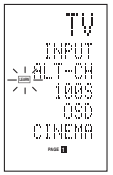
LEARNモード

▶(PLAY)などのコントロールボタンや数字ボタンなどへの学習

本機リモコンは、お手持ちのリモコンのコードを学習・記憶させることができます。
学習しなかった部分は初期設定のマランツのプリセットコードか、お客様が設定した他社製のAV機器のリモコンコードが送信されます。リモコン信号の受光部は頭部にあります。

DVDプレーヤー用のリモコンの学習を例にします。

1

2


4

6(OK時)

(学習失敗時)

(コードが一杯)

1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD2(LEARN)*ボタンを押します。**
   LEARN設定(LEARN)表示になります。また、LEARN が点滅します。
3. ***ソース*ボタンの*DVD*を押します。**
4. **▶(PLAY)を押します。**
   LEARN が点滅から点灯に変わり学習が可能な状態になります。
5. **本機リモコンの受光部(頭部)とDVDリモコンの送信部(頭部)を約5cm離してまっすぐに置きます。**
6. **送り側DVDリモコンの▶(PLAY)ボタンを押し続け、表示部にOKが出ることを確認します。**
   OKの表示が出たら学習が完了です。
   表示部にERRORが出た場合は、何らかの原因で学習ができなかったときです。もう一度4～5の操作を行ってください。
   学習時、まれに表示部にERRORが何度も表示される場合があります。このときは、送り側のリモコン信号コードが特殊であることが考えられます。このようなリモコンコードは、本機リモコンでは学習できません。
7. **同様にして他のボタンも学習させてください。**
8. **TVやCDなどの他の機器を学習させる場合は3～6の操作を行ってください。**
   - 学習操作中ボタンが押されずに放置されたときは、約1分でUSEモードに戻ります。
   - ソースボタンに学習させる場合は、3の操作でソースを切り替えた後、もう一度そのソースボタンを押します。
9. **各ボタンにコードを学習させ終わったら、*M*ボタンを押します。**
   表示部に USE が点灯し、新しく記憶させたコードの送信ができます。
   - 表示部にFULLの表示がされた場合、LEARNモードで学習したコードが一杯になって入り切らないときです。
     何度学習操作を行ってもFULLが表示されるときは、学習したコードを消去しないと新しく学習させることはできません。学習済みのボタンをソースごとに消去してください。

ご注意

- 本機リモコンに学習させる際には、必ず本機リモコンの表示部にOKが表示されるまで、送り側リモコンのボタンを押し続けてください。
  学習するコードのタイプにより、OKが表示されるまでに5秒程度かかる場合があります。

Mボタン、>ボタンは、学習できません。

LIGHTボタン1、2はソースに関わらず、各1コードのみ学習できます。

ダイレクトボタンへの学習と名前の書き換え

例として、DVDのMENUボタン(D1)に他社製品のコードを学習させ、表示をOSDに変更する場合で説明します。

6

7

8

1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD2(LEARN)*ボタンを押します。**
   LEARN設定(LEARN)表示になります。また、LEARN が点滅します。
3. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
   ダイレクトボタン表示の1ページ目が表示されます。ページは4ページ分あり、>ボタンを押すごとにページが、1 → 2 → 3 → 4 → 1と切り替わります。
4. ***ダイレクトボタンのD1(MENU)*ボタンを押します。**
   LEARN が点滅から点灯に変わり、学習が可能な状態になります。
5. **本機リモコンの受光部(頭部)とDVDリモコンの送信部(頭部)を約5cm離してまっすぐに置きます。**
6. **送り側DVDリモコンのOSDボタンを押し続け、表示部にOKがでることを確認します。**
   OK表示が出たら学習が完了です。
   表示部にERRORが出た場合は、何らかの原因で学習ができなかったときです。もう一度4～5の操作を行ってください。
   - 学習が完了すると自動的に名前の変更モードになります。MENUの左端に「::」表示が点滅し、点滅部分の書き換えができるようになります。
   - 書き換えをしない時には、カーソルボタンのOKボタンを押します。OKボタンを押すと学習の待機状態に戻ります。
7. **名前の書き換えをする場合は、*数字*ボタンを押して文字を入力してください。**
   - 書き換えをする表示部分は、カーソルボタンの◀▶で移動できます。
   - MENUをOSDに変更するので、数字ボタンの5を押します。
     M → N → O → 5 → Mのようにボタンを押す毎に表示が変化します。
8. **文字の書き換えが完了したら*カーソル*ボタンのOKボタンを押します。**
   既にある文字を消すときには、0ボタンを押して、スペースを入れてください。
   - ここでは、「MENU」から、「O S D(スペース)(スペース)」と入力します。OKボタンが押されると、「OSD」が右側に表示されます。

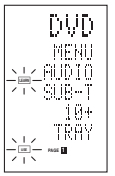
   詳しくは次の「名前の書き換え」項を参照してください
9. **同様にして>ボタンでページを選び、*ダイレクトボタン*を押して学習させてください。**
10. **各ボタンにコードを学習させ終わったら、*M*ボタンを押します。**
    表示部に USE が点灯し新しく記憶させたコードの送信ができます。

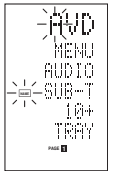
名前の書き換え

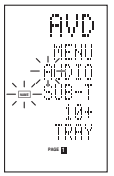
このリモコンでは、ソース名やダイレクトボタン部の名前を書き換える事ができます。この操作はソース毎に行います。

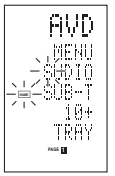
例としてソース表示のDVDをAVDに、AUDIOをSOUNDに変更します。

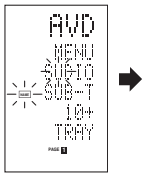
3

4


5


7


8


9


1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD3(NAME)*ボタンを押します。**
3. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
   NAME が点滅します。
   左端に「::」表示が点滅し、書き換えができるようになります。
4. ***カーソル*ボタンの▶を2度押します。**
   「D」が点滅し、書き換えができるようになります。
5. ***数字*ボタンの1を押しAを選びます。**
   数字ボタンは、次のようにボタンを押す毎に変化します。
   1：A → B → C →1 → A
   2：D → E → F →2 → D
   3：G → H → I →3 → G
   4：J → K → L →4 → J
   5：M → N → O →5 → M
   6：P → Q → R →6 → P
   7：S → T → U →7 → S
   8：V → W → X →8 → V
   9：Y → Z → ／ →9 → Y
   0：スペース(::)→ ＋ → － → 、→ ' → ＜ → ＞ → ？→ 0 → スペース(::)
6. ***カーソル*ボタンの◀か▶を押します。**
   Aの文字に書き換えできました。
   - カーソルボタンの▲か▼を押すことで、書き換える場所の点滅表示を移動できます。

7. ***カーソル*ボタンの▲か▼を押してダイレクト表示部のAUDIOを選ぶとAが点滅表示 となり、名前の書き換えが可能な状態になります。**

8. ***数字*ボタンの7を押しSを選びます。**
ボタンを押す毎に、S → T → U → 7 → Sのように表示が変化します。

9. ***カーソル*ボタンの▶を押し点滅部分を移動します。**

10. ***数字*ボタンの5を押しOを選びます。**

11. **同様にしてU、N、Dと入力します。**

12. **文字の書き換えが完了したら*カーソル*ボタンのOKボタンを押します。**

13. ***M*ボタンを押します。**
表示部に USE が点灯し、新しく記憶させた名前での操作ができるようになります。
入力は上書きになるので現在表示されている文字は消去されます。
ダイレクト表示部は6文字まで入力できます。

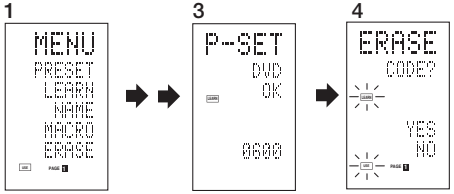
学習したコードの消去(初期状態に戻す)

消去は、次の5つの方法があります。
ボタン毎の消去、ダイレクトボタン部の消去、ダイレクトボタン部ページ毎の消去、ソース毎の消去、全消去。

ボタン毎の消去とダイレクトボタン部の消去

例としてDVDプレーヤに学習済のPLAYボタンのコード、AMPのダイレクトボタン部AUTOのコードを消去します。

ボタン毎の消去



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクトボタンのD5 (ERASE)* ボタンを押します。**

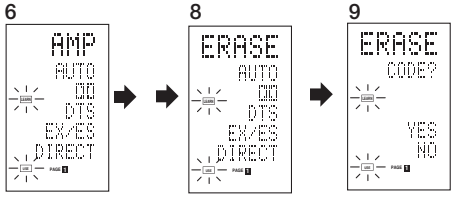
3. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
USE と LEARN が点滅します。

4. ***CLEAR*ボタンを押しながら、消去したいボタン(▶: PLAY)を押します。**
表示部にメッセージが出ます。

5. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)* を押し、消去します。**
(▶: PLAY) ボタンに学習したコードが消去されます。
消去されると、そのボタンは工場出荷状態に戻ります。
・ 消去をやめるときはD5 (NO) を押すと、前の画面に戻ります。

CLEARボタンの消去は、CLEARボタンだけを2回押します。
SOURCEボタンの消去は、SOURCEボタンだけを2回押します。

ダイレクトボタン部の消去



6. ***ソース*ボタンの*AMP*を押します。**

7. **>ボタンを押して、AMPの1ページ目を表示させます。**

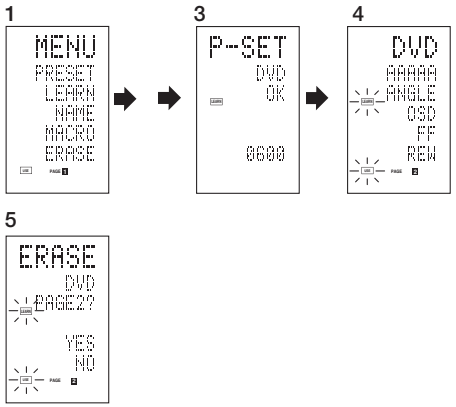
8. ***CLEAR*ボタンを押しながら、消去したい*ダイレクトボタンのD 1* ボタン*(AUTO)*を押します。**

9. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)*を押し、消去します。**
AUTOボタンのコードが消去されます。
消去されると、そのボタンは工場出荷状態に戻ります。書き換えした名前も元の名前に戻ります。
・ 消去をやめるときは、D5 (NO) を押すと、前の画面に戻ります。

10. **消去の操作を終了するときは、*M*ボタンを押します。**
USE が点灯し、操作ができるようになります。

ダイレクトボタン部ページ毎の消去

例としてDVDプレーヤに学習済のダイレクトボタン部2ページ目の全てを消去します。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクトボタンのD5 (ERASE)* ボタンを押します。**

3. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
USE と LEARN が点滅します。

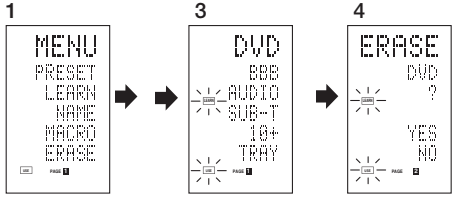
4. ***CLEAR*ボタンを押しながら、*ソース*ボタンの*DVD*を押します。**

5. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)* を押し、消去します。**
DVDソースに学習した全てのコードと名前が消去されます。消去されると、工場出荷状態に戻ります。書き換えした名前も元の名前に戻ります。
・ 消去をやめるときは、D5 (NO) を押すと、前の画面に戻ります。

6. **消去の操作を終了するときは、*M*ボタンを押します。**
USE が点灯し、操作ができるようになります。

ソース毎の消去

DVD、TVなどのソース毎に学習されている全てのコードと名前を消去します。ダイレクトボタン部の4ページの全てのコードと名前も消去されます。
例としてDVDプレーヤに学習済のコードと名前を消去します。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクトボタンのD5 (ERASE)* ボタンを押します。**

3. ***ソース*ボタンのDVDを押します。**
USE と LEARN が点滅します。

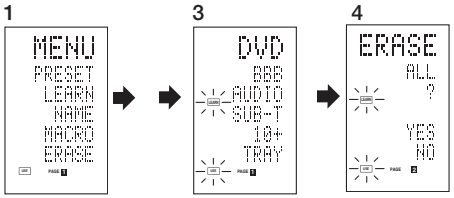
4. ***CLEAR*ボタンを押しながら、*ソース*ボタンの*DVD*を押します。**

5. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)* を押し、消去します。**
DVDソースに学習した全てのコードと名前が消去されます。消去されると、工場出荷状態に戻ります。書き換えした名前も元の名前に戻ります。
・ 消去をやめるときは、D5 (NO) を押すと、前の画面に戻ります。

6. **消去の操作を終了するときは、*M*ボタンを押します。**
USE が点灯し、操作ができるようになります。

全消去

学習した全てのコードと名前を消去(リセット)します。 消去後は工場出荷状態に戻ります。
プログラムしたマクロも消去されます。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクトボタンのD5 (ERASE)* ボタンを押します。**
USE 表示と LEARN が点滅します。

3. ***POWER*ボタンの*ON*と*OFF*を同時に押しながら、*CLEAR*ボタンを押します。**

4. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)* を押し、消去します。**
学習した全てのコードと名前が消去され、工場出荷状態に戻ります。
・ 消去をやめるときはD5 (NO) を押すと一つ前の画面に戻ります。
・ 全消去は、D4 (YES) ボタンを押してから数秒かかります。

マクロのプログラム

本機リモコンでは一連の連続したボタン操作をプログラムすることができます。
マクロとは複数のボタン操作を１回で連続的に行うための機能で、１つのボタンに最大20通りの操作を学習できます。
マクロのプログラムができるボタンは計20個あります。

・例えば次のように連続動作させることができます。
アンプをDVDソースに切り替える→アンプのモードをAUTOにする→DVDプレーヤをプレイにする→TVをビデオ入力に切り替える。

マクロの送信動作の間隔（時間）は工場出荷状態では、1秒に設定されています。セットアップモードでは全体の信号送信間隔を約0.5秒から５秒の間隔で設定できます。マクロのプログラム中や修正中では各々の送信間隔が個別に調整できます。

■注意：

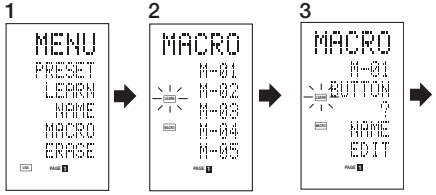
後述のセットアップモードで信号の送信間隔（インターバルタイム）を変更した場合は、全てのマクロプログラムでこの送信間隔が適用されます。個々の信号送信間隔を変更する場合は、本章のマクロのプログラムやプログラムの修正で設定してください。

・マクロのプログラム中は信号は送信されません。
・Mボタン、＞ボタン、カーソル、MEMOボタン、CLEARボタン、VOLボタンはプログラムできません。
・プログラム中ボタンが押されずに放置されたときは、約１分でマクロモードの前の状態に戻ります。この時のマクロのプログラムは記憶されません。
・マクロモードを実行する場合、ソース切り替え操作の２回目以降からは、リモコンのモードが変わるだけで、信号は送信されません。（アンプのソースセレクタの切り替えは1回だけ有効になります）

マクロプログラム

例としてM-01ボタンに以下をプログラムします。
（例に示した表示は工場出荷状態のものであり、ダイレクト表示部の名前を書き換えた場合は書き換えた名前が表示されます。）

アンプを DVDソースに切り替える→DVDプレーヤをプレイにする→次の信号送信までの間隔を２秒に設定する→TVをビデオ入力に切り替える→アンプのモードをAUTOにする

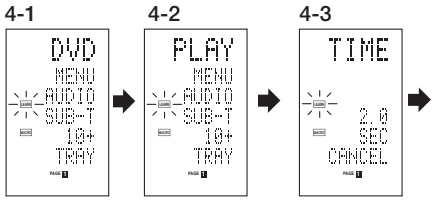


1. ***M*ボタンを３秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクトボタンのD4（MACRO）*ボタンを押します。**
マクロメニュー表示になります。
MACRO が点灯し、LEARN が点滅します。

3. ***ダイレクトボタンのD1（M-01）*ボタンを押します。**
メニューは４ページ分あるので他のボタンにプログラムするときには>ボタンで選びます。

4. **操作したい順にボタンを押します。**
ここから実際のプログラムを始めます。
ボタンを押すたびに押したボタンの名前が表示部に表示されます。



***4*-1 *ソース*ボタンのDVDを押します。**

***4*-2 ▶(PLAY)ボタンを押します。**

***4*-3 *カーソル*ボタンの▲か▼を押します。**
表示部にインターバルタイムが表示されます。

***4*-4 *カーソル*ボタンの▲か▼を押して2.0(秒)にします。**
・カーソルボタンの▲で時間が増加し、▼で減少します。インターバルタイムは0.5秒から５秒までの間で設定できます。
・時間調整をやめるときは、ダイレクトボタンのD5(CANCEL)ボタンを押します。

***4*-5 *カーソル*ボタンの*OK*を押します。**

***4*-6 *ソース*ボタンの*TV*を押します。**

***4*-7 ＞ボタンを押し１ページ目を出します。**

***4*-8 *ダイレクト*ボタンの*D1（INPUT）*ボタンを押します。**

***4*-9 *ソース*ボタンの*AMP*を押します。**

***4*-10 ＞ボタンを押し１ページ目を出します。**

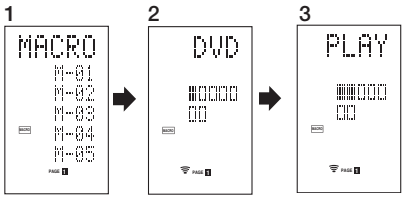
***4*-11 *ダイレクト*ボタンの*D1（AUTO）*ボタンを押します。**

***4*-12 *カーソル*ボタンの*OK*を押します。**
表示部にENDが表示されプログラムが終了します。

5. **続けて別のプログラムを行う場合は3～4-12の操作を繰り返します。**

6. **マクロプログラムの操作を終了するときは、*M*ボタンを押します。**
USE が点灯し、操作ができるようになります。
20通り以上をプログラムした場合は、マクロメニューに戻ります。20通り以下になるようにプログラムの修正をしてください。

マクロプログラムの実行



1. ***M*ボタンを短く押します。**
マクロメニュー表示になります。

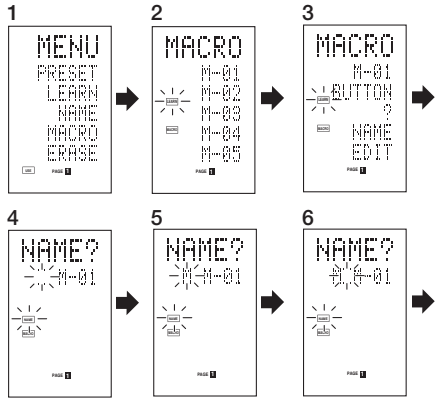
2. ***ダイレクト*ボタンの*D1（M-01）*ボタンを押します。**

3. **プログラムが順次送信されることを確認します。**
表示部には操作ボタンの名前が順に表示されます。
・プログラムされている部分は、□で表示されます。プログラムの進行に従ってバー表示が動いていきます。

DVDソース選択→PLAY送信→インターバルタイム２秒→TVを選択→TV INPUT送信→AMPを選択→AUTO送信→終了
・プログラムの送信を途中で中止するときは、どれかのボタンを押します。

マクロプログラムの名前変更

工場出荷状態ではマクロプログラムの名前はM-01からM-20で設定されていますが、それぞれお好きな名前に変更できます。
文字は６文字分で、数字ボタンを使って入力します。
例としてM-01の名前をMOVIEに変更します。



1. ***M*ボタンを３秒以上押します。**
メニュー表示になります。

2. ***ダイレクト*ボタンの*D4（MACRO）*ボタンを押します。**
マクロメニュー表示になります。
MACRO が点灯し、LEARN が点滅します。

3. ***ダイレクト*ボタンの*D1（M-01）*ボタンを押します。**
RENAME（名前変更）表示になります。

4. ***ダイレクト*ボタンの*D4（RENAME）*ボタンを押します。**
左端に「::」表示が点滅し、書き換えができるようになります。

5. ***数字*ボタンの５を押しMを選びます。**

6. ***カーソル*ボタン▶を押し、点滅個所を次に移動します。**

7. ***数字*ボタンの５を押しOを選びます。**

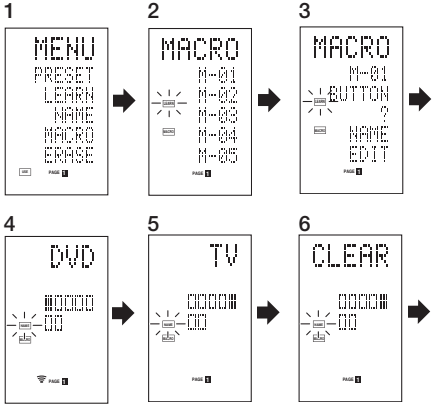
8. **6、7の操作を繰り返し、V、I、E、「::」を入力します。**
・入力している途中で文字を変更する場合はカーソルボタンの◀か▶を押し、点滅個所を移動します。

9. **完了後は*カーソル*ボタンのOKを押します。**
・別のマクロプログラムの名前を変更する時には、3～9の操作を繰り返します。

10. **終了するときは、*M*ボタン押します。**

マクロプログラムのステップを削除する

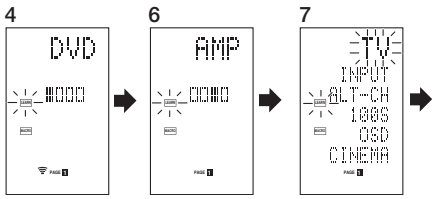
例としてM-01にプログラムされている以下のプログラムからTV、INPUTのステップを削除します。
DVD→PLAY→TIME→TV→INPUT→AMP→AUTOのプログラムを
DVD→PLAY→TIME→AMP→AUTOにします。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD4 (MACRO)* ボタンを押します。**
   マクロメニュー表示になります。
   MACRO が点灯し、LEARN が点滅します。
3. ***ダイレクトボタンのD1 (M-01)* ボタンを押します。**
4. ***ダイレクトボタンのD5 (EDIT)* ボタンを押します。**
   表示部にDVDが表示され、ステップの位置が■で表示されます。
   プログラムされている部分は□で表示されます。
5. ***カーソル*ボタンの▶を押し、*AMP*を表示させます。**
6. ***ソース*ボタンのTVを押します。**
   TVが0.5秒間点滅します。
7. ***ダイレクトボタンのD1 (INPUT)* ボタンを押します。**
   INPUTが0.5秒間点滅します。
   TVとINPUTが上書きされます。
   変更したステップを確認するときには、カーソルボタンの◀か▶を押します。
8. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**
   完了後、別のマクロプログラムを変更する時には、カーソルボタンのOKを押しメニューに戻り、3～7の操作を繰り返します。

マクロプログラムのステップを上書追加

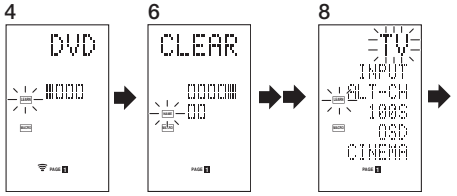
例としてM-01にプログラムされている
DVD→PLAY→AMP→AUTOのプログラムを
DVD→PLAY→TV→INPUTにします。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD4 (MACRO)* ボタンを押します。**
   マクロメニュー表示になります。
   MACRO が点灯し、LEARN が点滅します。
3. ***ダイレクトボタンのD1 (M-01)* ボタンを押します。**
4. ***ダイレクトボタンのD5 (EDIT)* ボタンを押します。**
   表示部にDVDが表示され、ステップの位置が■で表示されます。
   プログラムされている部分は□で表示されます。
5. ***カーソル*ボタンの▶を押し、*AMP*を表示させます。**
6. ***ソース*ボタンのTVを押します。**
   TVが0.5秒間点滅します。
7. ***ダイレクトボタンのD1 (INPUT)* ボタンを押します。**
   INPUTが0.5秒間点滅します。
   TVとINPUTが上書きされます。
   変更したステップを確認するときには、カーソルボタンの◀か▶を押します。
8. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**
   完了後、別のマクロプログラムを変更する時には、カーソルボタンのOKを押しメニューに戻り、3～7の操作を繰り返します。

マクロプログラムのステップを挿入

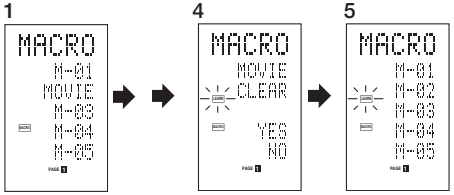
例としてM-01にプログラムされている
DVD→PLAY→AMP→AUTOのプログラムを
DVD→PLAY→TV→INPUT→AMP→AUTOにします。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD4 (MACRO)* ボタンを押します。**
   マクロメニュー表示になります。
   MACRO が点灯し、LEARN が点滅します。
3. ***ダイレクトボタンのD1 (M-01)* ボタンを押します。**
4. ***ダイレクトボタンのD5 (EDIT)* ボタンを押します。**
   表示部にDVDが表示し、ステップの位置が■で表示されます。
   プログラムされている部分は□で表示されます。
5. ***カーソル*ボタンの▶を押し、*AMP*を表示させます。**
6. ***MEMO*ボタンを押します。**
7. ***ソース*ボタンのTVを押します。**
   TVが0.5秒間点滅します。
8. ***ダイレクトボタンのD1 (INPUT)* ボタンを押します。**
   INPUTが0.5秒間点滅します。
9. ***カーソル*ボタンのOKを押します。**
   TVとINPUTが挿入されます。
   変更したステップを確認するときには、カーソルボタンの◀か▶を押します。
10. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**
    完了後、別のマクロプログラムを変更する時には、カーソルボタンのOKを押しメニューに戻り、3～9の操作を繰り返します。

マクロプログラムを消去

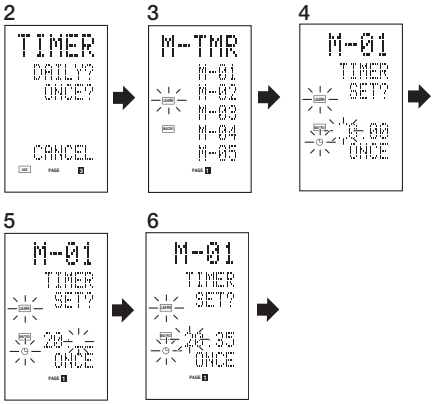
消去した場合は、そのボタンにプログラムされていたプログラムは消去されます。また、変更したマクロの名前も工場出荷状態に戻ります。
例としてM-02にプログラムされているMOVIEの名前のマクロを消去します。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   マクロメニュー表示になります。
2. ***ダイレクトボタンのD4 (MACRO)* ボタンを押します。**
   マクロメニュー表示になります。
3. ***CLEAR*ボタンを押しながら、*ダイレクトボタンのD2 (MOVIE)* ボタンを押します。**
4. ***ダイレクトボタンのD4 (YES)* ボタンを押し、消去します。**
   ・消去をやめるときはNO(D5ボタン)を押す。
5. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**
   完了後、別のマクロプログラムを変更する時には、カーソルボタンのOKを押しメニューに戻り、2～4の操作を繰り返します。

マクロタイマーの設定をする

タイマーの設定をすることにより、マクロプログラムで機器の電源ON/OFFなどが自動的にできます。設定ではマクロタイマーを1回だけ実行するか、毎日実行するかを選べます。
はじめる前に、あらかじめ時計を設定しておいてください。マクロタイマーは1日1プログラムだけ設定できます。
例として、M-01にプログラムしたマクロをタイマーを使って20：35分に1回だけ実行します。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. **＞ボタンを押し、3ページ目のTIMERのメニューにします。**
3. ***ダイレクト*ボタンの*D2 (ONCE?)*ボタンを押します。**
   表示部にM-TMRのメニューが表示されます。
   · タイマー設定をやめるときはCANCELを押す。
4. ***ダイレクト*ボタンの*D1 (M-01)*ボタンを押します。**
   表示部には、前回設定した時刻が表示されます。
5. ***数字*ボタンの2と0を押し、時刻表示を20にします。**
6. ***数字*ボタンの3と5を押し、分表示を35にします。**
7. ***カーソル*ボタンのOKを押します。**
   時刻が確定します。
8. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**
   マクロタイマーをキャンセルするときには、TIMERのメニューに戻してから、ダイレクトボタンのCANCEL (D5) を押し、さらにD1 (M-01) 押します。

マクロタイマーの実行

設定した時間がくるとマクロタイマーがスタートします。
マクロタイマーが有効になっている時は、TIMER表示 ◷ が点灯しています。

■注意：
マイクロタイマーを実行する時は、操作する機器の赤外線受光部に向けてリモコンを置いてください。位置が不完全な場合は、正常に操作出来ないことがあります。

クローンモード

クローンモードでコピー品を作る

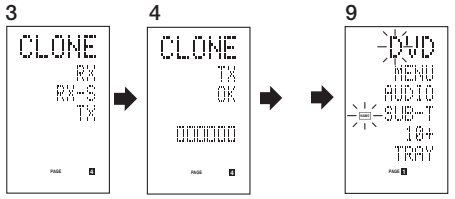
簡単な操作で、単品販売のRC1400またはRC8001SRへ全ての学習をさせたコードをコピーできます。
· リモコンの内容全体のコピーとソースボタン毎のコピーができます。
· 全体のコピーは学習させた全てのコード、変更した名前、プログラムしたマクロ、信号の送信間隔をコピーします。
  ソースボタン毎のコピーでは学習させたコード、変更した名前がコピーできます。

■注意：

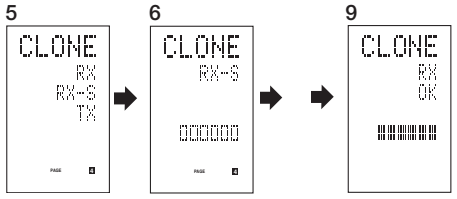
クローン機能を使うときは、送り側・受け側がRC1400またはRC8001SRでない場合にはコピーできません。

全体をコピーする

＜送り側＞



＜受け側＞

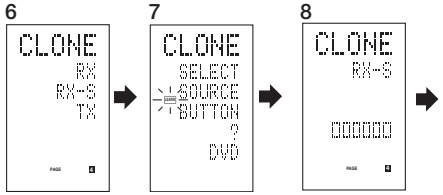


1. **受け側リモコンの受光部（頭部）と送り側リモコンの送信部（頭部）を約5cm離してまっすぐに置きます。**
2. **送り側リモコンの*M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
3. **＞ボタンを押し、4ページ目のCLONEのメニューにします。**
4. ***ダイレクト*ボタンの*D3 (TX)*ボタンを押します。**
   これで送り側の準備ができました。
5. **受け側リモコンの*M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
6. **＞ボタンを押し、4ページ目のCLONEのメニューにします。**
7. ***ダイレクト*ボタンの*D1 (RX)*ボタンを押します。**
   これで受け側の準備ができました。
8. **受け側リモコンの*カーソル*ボタンのOKを押します。**
9. **送り側リモコンの*カーソル*ボタンのOKを押します。**
   コピーが始まると両方の表示部のバー表示が左から右に動き始めます。
   · 送り側の表示がTX OKになり、受け側の表示がRX OKになったらコピーが完了します。
   · コピー動作中は、両方のリモコンには手をふれないでください。コピー失敗の原因になります。
   · コピーが途中で失敗したときは受け側にRX ERRORが表示されます。1～7の操作を確認して再度行ってください。
   · コピーの時間は、送り側の学習容量が100%の時に約3分程度かかります。
10. **コピーが完了したら、両リモコンの*M*ボタンを押します。**

ソース毎にコピーする

12種類あるソースをコピーできます。最大12種類のソースを選択できます。

＜受け側＞



1. **受け側リモコンの受光部（頭部）と送り側リモコンの送信部（頭部）を約5cm離してまっすぐに置きます。**
2. **送り側リモコンの*M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
3. **＞ボタンを押し、4ページ目のCLONEのメニューにします。**
4. ***ダイレクト*ボタンの*D3 (TX)*ボタンを押します。**
   これで送り側の準備ができました。
5. **受け側リモコンの*M*ボタンを3秒以上押します。**
6. **＞ボタンを押し、4ページ目のCLONEのメニューにします。**
7. ***ダイレクト*ボタンの*D2 (RX-S)*ボタンを押します。**
8. **コピーする*ソース*ボタンを押します。**
   これで受け側の準備ができました。
   表示部に押したソースの名前が表示されます。
   · ソースボタンを押すたびに名前が表示部に表示されます。
9. **受け側リモコンの*カーソル*ボタンのOKを押します。**
10. **送り側リモコンの*カーソル*ボタンのOKを押します。**
    コピーが始まると両方の表示部のバー表示が左から右に動き始めます。
    · 送り側の表示がTX OKになり、受け側の表示がRX OKになったらコピーが完了します。
    · コピー動作中は、両方のリモコンには手をふれないでください。コピー失敗の原因になります。
    · コピーが途中で失敗したときは、ERRORが表示されます。
      1～7の操作を確認して再度行ってください。
11. **コピーが完了したら、両リモコンの*M*ボタンを押します。**

セットアップ

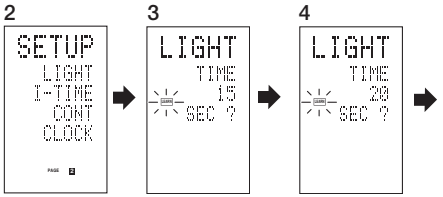
ライティング時間の設定

- LIGHTボタンを押すと表示部が照光します。ボタンを押している間は照光し、離すと消えます。
- 照光している間や照光が終了した後、2秒以内に他のボタンを押すと照光が継続します。
- 照光時間は、0～60秒まで1秒間隔にて設定できます。

LIGHTボタンには光を蓄える性質を持った蓄光ボタンを採用しています。周囲が暗くなったときにボタンが光らなくなったら、蛍光灯スタンド等で光を充分に当ててください。再び良く光るようになります。
- LIGHTボタンはLIGHT1とLIGHT2の2つのボタンがあり、どちらも同じ動作をします。

工場出荷状態の照光時間は15秒に設定されています。

例として照光時間を20秒に設定します。

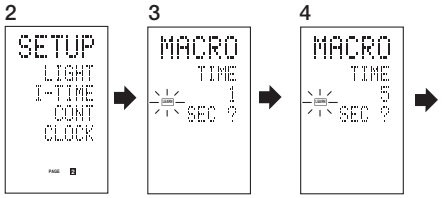


1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. **>ボタンを押し、2ページ目のSETUPのメニューにします。**
3. ***ダイレクトボタンのD1（LIGHT）*ボタンを押します。**
   LIGHT表示になります。
4. ***カーソル*ボタンの▲か▼を押して照光の時間を設定します。**
5. ***カーソル*ボタンのOKを押し、設定した時間を決定します。**
6. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**

マクロのインターバルタイムを設定

マクロプログラムを実行するときに、コントロールのための信号が順次送信されます。この送信間隔（インターバルタイム）は、0.5秒から5秒まで0.5秒間隔にて設定できます。
このセットアップモードでインターバルタイムの設定をした場合は、全てのプログラム済のマクロインターバルタイムが変更されます。必要な場合はマクロプログラムのEDIT（53ページ参照）で個々に変更を行ってください。
工場出荷状態は1秒に設定されています。

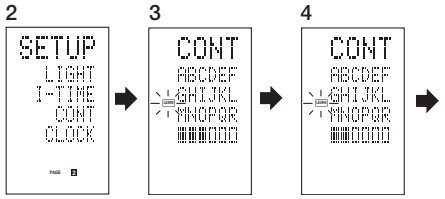
例としてインターバルタイムを5秒に設定します。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. **>ボタンを押し、2ページ目のSETUPのメニューにします。**
3. ***ダイレクトボタンのD2（I-TIME）*ボタンを押します。**
4. ***カーソル*ボタンの▲か▼押してインターバルタイムを設定します。**
5. ***カーソル*ボタンのOKを押し、設定したインターバルタイムを決定します。**
6. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**

表示部のコントラストを調整

表示部のコントラストが調整できます。周囲の環境に合わせて、見やすくなるように調整してください。



1. ***M*ボタンを3秒以上押します。**
   メニュー表示になります。
2. **>ボタンを押し、2ページ目のSETUPのメニューにします。**
3. ***ダイレクトボタンのD3（CONT）*ボタンを押します。**
4. ***カーソル*ボタンの▲か▼を押し表示の濃さが見やすくなるように設定します。**
   調整は10段階あります。
   工場出荷状態は5段階目に設定されています。
5. ***カーソル*ボタンのOKを押し、設定した表示の濃さを決定します。**
6. **終了するときは、*M*ボタンを押します。**

故障かな？と思ったときは

問題が発生した場合には、修理を依頼する前に以下を確認してください。

1. 接続は正しく行われていますか
2. ユーザーガイドにしたがって本機を正しく操作していますか
3. パワーアンプとスピーカーは正しく動作していますか

本機が正しく動作していない場合は、以下の表に示す項目を確認します。
以下の表に示す対処方法で問題を修復できない場合は、内部回路の動作不良が考えられます。直ちに電源ケーブルのプラグを抜き、購入店、お近くの Marantz 正規販売店、Marantz サービスセンター のいずれかにご連絡ください。

症　状	原　因	対処法
本機の電源が入らない。	電源プラグが接続されていない。	電源プラグをコンセントに挿し込んでください。
電源は入っているが、音声と画像が出力されない。	ミュートが ON になっている。	リモコンを使用してミュートをキャンセルしてください。
	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブル類を正しく接続してください。
	マスターボリュームが完全に絞られている。	マスターボリュームを調節してください。
	INPUT SELECTOR のポジションが間違っている。	正しいポジションを選択してください。
スピーカーから音が出ない。	ヘッドホンがヘッドホン端子に接続されている。	ヘッドホンを外してください。（ヘッドホンが接続されていると、スピーカーから音声が出力されません。）
音声もしくは映像が選択したソースと一致しない。	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。
チャンネルから出力される音声が正しくない。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。
センターチャンネル・スピーカーから音声が出力されない。	センタースピーカーのケーブル接続が不完全。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードに STEREO が選択されている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、センタースピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SETUP モードで Center = NONE が選択されている。	正しい設定を行ってください。
サラウンドスピーカーから音声が出力されない。	サラウンドスピーカーのケーブル接続が不完全。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードに STEREO が選択されている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、サラウンドスピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。
	SETUP モードで Surround = NONE が選択されている。	正しい設定を行ってください。
サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない。	サラウンドバックスピーカーのケーブル接続が不完全。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードが EX/ES モードになっていない。	サラウンドモード EX/ES を設定してください。
	SPEAKER SIZE メニューで Surround back = NONE が選択されている。	正しい設定を行ってください。
EX/ES モードも THX EX モードも選択できない。	SPEAKER SIZE メニューで Surround back = NONE が選択されている。	正しい設定を行ってください。
	入力信号に互換性がない。	5.1ch ソースを使用してください。
THX SELECT2 CINEMA/MUSIC/GAMES が選択できない。	SPEAKER SIZE メニューで Surround Back = 1ch または NONE が選択されている。	正しい設定を行ってください。
	入力信号に互換性がない。	5.1ch ソースを使用してください。
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
CSⅡ モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。
SUBWOOFER OUT への出力が出ない。	Setup モードで Subwoofer = NONE が選択されている。	Subwoofer = YES を選択してください。
DTS エンコードされた CD やレーザーディスクの再生中にノイズが発生する。	アナログ入力が選択されている。	確実にデジタル接続を実行し、デジタル入力を選択した上で再生してください。
特定のチャンネルで出力が行われない。	そのチャンネルに録音が存在しない。	ソース側のエンコードされたチャンネルを確認してください。
AM や FM が受信できない。	アンテナの接続が不完全。	屋内の AM アンテナと FM アンテナを、AM アンテナ端子と FM アンテナ端子に正しく接続してください。
AM 受信中にノイズが聞こえる。	受信が他の電界の影響を受けている。	AM 室内アンテナの設置場所変えてください。
FM 受信中にノイズが聞こえる。	放送局からの電波が微弱。	FM 屋外アンテナを設置してください。
リモコンによる制御ができない。	電池が切れている。	電池をすべて新しいものに取り替えてください。
	リモコンのファンクションキーの設定が違う。	装置を制御する別のファンクションキー設定を選択してください。
	本機とリモコン間の距離が遠過ぎる。	本機に近づき、操作範囲内で操作してください。
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。
AAC 信号が再生できない	デジタルチューナーのデジタル出力設定が誤っている。	デジタルチューナーの取扱説明書を参照してください。
トランスからうなり（ノイズ）が出る。	家庭内の電源事情により、多少目立つことがあります。	電熱器、コタツなどの使用を止めてみてください。

症　状	原　因	対処法
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用のDSPを搭載しておりますので、多少目立つことがあります。	2chソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、S（Source）-Directモードでお聞きください。
DVDプレーヤーでCD再生時に、トラックスキップなどを行うと、曲の頭が少し欠けて再生される。	DVDプレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れるものがあります。サラウンドシステムを適切に合わせるための判別時間が必要なため、少しだけ曲の頭が途切れる場合があります。	この様なDVDプレーヤーを接続する場合、アナログ接続して頂くと問題なく再生することができます。
音が出ないでSTANDBYモードになる。	接続されているスピーカーケーブルに、ヒゲなどが出てショートしている。	スピーカーケーブルの裸部分をしっかりよじって、他の端子やリアパネルなどに接触しないように接続してください。
音楽再生時、音像が定位しない。	スピーカーの極性が正しく接続されていない。	スピーカーの極性を確認してください。

ご注意

- 本機の表示部に「PROTECT」と表示された後で、スタンバイ・インジケーターが点滅を開始する場合があります。その場合は本機か接続に問題があります。リモコンから電源を入れてもこの問題が再発する場合は、修理を依頼してください。

HDMI

症　状	原　因	対処法
HDMI 接続で画面が映らない。	接続しているモニター、プロジェクターがHDCP に対応していない。	HDCPに対応したモニターを接続してください。
	TV 側のHDMI 入力設定が有効になっていない。	TV の取り扱い説明書を参照の上、HDMI入力を有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI出力を有効になるよう設定してください。
	本機のHDMI 入力設定が正しく設定されていない。	20ページを参照の上、Setup 画面にてHDMI入力設定を行ってください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 出力用のVideo解像度設定がTV 側の仕様と合致しない。	双方の機器の取り扱い説明書を参照の上、合致する解像度設定をしてください。
	規格外のHDMI ケーブルで接続している。	より安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5m以下のケーブルの使用を推奨いたします。
	本機の電源が切られている。（本機がスタンバイ状態ではHDMI接続は有効になりません）	本機の電源を入れてください。
	HDMI 搭載機器間の接続認証がされない	本機、あるいはTV、ソース機器の電源を入れ直してください。
HDMI 接続で映像が映るまで時間がかかる。	HDMI 搭載機器間の接続認証をおこなっている。	接続される機器によっては認証に時間がかかる場合があります、故障ではありません。
HDMI 接続で音声が再生されない。	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 音声出力設定が有効になっていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力を有効になるよう設定してください。
	ソース機器（DVD、デジタルチューナー等）側のHDMI 音声設定にて信号フォーマットの設定が本機の対応信号に設定されていない。	ソース機器の取り扱い説明書を参照の上、HDMI 音声出力設定を本機との接続に適切になるよう設定してください。
	HDMI AUDIO THROUGHモードになっている。	THROUGHモードの時は本機からは音がでません。ENABLEに設定してください。（31ページ参照）
HDMI 接続でDVD - Audioの音声が再生されない。	DVDプレイヤーがHDMI のCPPM対応していないため、Audio 出力をしていない。	· CPPM 対応のDVDオーディオプレイヤーを使用してください。 · DVDプレイヤーのPCMダウンサンプリングをON に設定してください。 · アナログ接続でご使用ください。
HDMI 接続でスーパーオーディオCD の音声が再生されない。	接続しているソース機器がスーパーオーディオCDの出力に対応していない。	· スーパーオーディオCD出力に対応した（HDMI:Version 1.2）機器を接続してください。 · アナログでご使用ください。

異常動作のときは

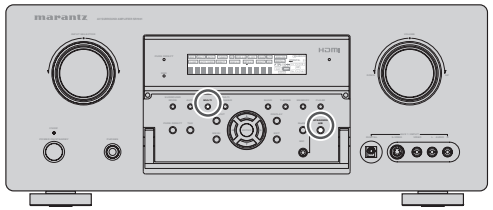
本機の前面表示部に異常な表示や誤動作表示などをしている場合、すぐに主電源を切ってください。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな？と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試してみてください。
但しリセット行うと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。



1. **電源が入っていることを確認します。**
2. **本体の*MULTI*ボタンを押しながら、SPEAKERS A/Bボタンを3秒以上押します。**
   本機は一度スタンバイ状態になった後、再度POWER－ON状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービス

1. **この商品には保証書を別途添付してあります。**
   保証書は「販売店・お買い上げ日」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. **保証期間はお買い上げ日より1年間です。**
   お買い上げ販売店、または弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無料修理」いたします。
3. **保証期間経過後の修理。**
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. **弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。**
5. **補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。**
6. **修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度「故障と思ったときは」をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。**

ご連絡いただきたい内容

1）　品 名　AV サラウンドアンプ

2）　品 番　SR7001

3）　お買上げ日　　年　月　日

4）　故障の状況（できるだけ具体的に）

5）　ご住所

6）　お名前

7）　電話番号

仕　様

FMチューナー部

周波数範囲 ..... 76.0－90.0 MHz
実用感度..... IHF 1.8 μV/16.4 dBf
S/N比..... モノラル/ステレオ 75/70 dB
歪み..... モノラル/ステレオ 0.2/0.3 %
ステレオセパレーション ..... 1 kHz 45 dB
実効選択度 ..... ±300 kHz 60dB
イメージ妨害比..... 83 MHz 50dB
チューナー出力レベル
..... 1kHz, ±75 kHz Dev 800mV

AMチューナー部

周波数範囲 ..... 531－1602 kHz
実用感度..... Loop 400 μV
S/N比..... 50 dB
歪み..... 400Hz, 30% Mod. 0.5%
実効選択度 ..... ±20 kHz 70dB

オーディオ パワーアンプ部

定格出力(20 Hz－20 kHz/THD＝0.08%)
フロントL/R..... 110 W/CH 8Ω
センター..... 110 W/CH 8Ω
サラウンドL/R ..... 110 W/CH 8Ω
サラウンドバックL/R..... 110 W/CH 8Ω
フロントL/R ..... 140 W/CH 6Ω
センター..... 140 W/CH 6Ω
サラウンドL/R ..... 140 W/CH 6Ω
サラウンドバックL/R..... 140 W/CH 6Ω
実用最大出力(1kHz/JEITA)
フロントL/R..... 170 W/CH 6Ω
センター..... 170 W/CH 6Ω
サラウンドL/R ..... 170 W/CH 6Ω
サラウンドバックL/R..... 170 W/CH 6Ω

出力帯域幅(50W / 0.09%)
(ダイレクト 入力)..... 6 Hz－50 kHz
周波数特性(ダイレクト 入力)
..... 5 Hz -100 kHz(＋/－3 dB)
S/N比(ダイレクト 入力) ..... 105 dB
ダンピングファクター 100
入力感度/インピーダンス..... 168mV / 47 kΩ

デコーダー＆プリアンプ部

再生対応信号フォーマット
..... PCMオーディオ
DOLBY DIGITAL、DOLBY DIGITAL EX.、
DTS、DTS-ES、DTS96/24、AAC、HDCD
周波数特性X
(アナログ入力：ソースダイレクトモード)
..... 5 Hz －100 kH z (＋/－3 dB)
(デジタル入力：PCM 96 kHz)
..... 5 Hz－45 kH z (＋/－3 dB)
S/N比
(ソースダイレクトモード：20kLPF & A-weight)
..... 104 dB

ビデオ部

信号方式..... NTSC
入力・出力インピーダンス..... 75 Ω
入出力レベル(100%)..... 1 Vp-p
S/N比 ..... 60 dB
周波数特性(Video、S-Video)
..... 5 Hz－8 MHz(－1dB)
周波数特性(コンポーネントVideo)
..... 5 Hz－80 MHz(－1dB)

HDMI

バージョン ..... 1.2 [INPUT]
..... 1.1 [OUTPUT]

付属品

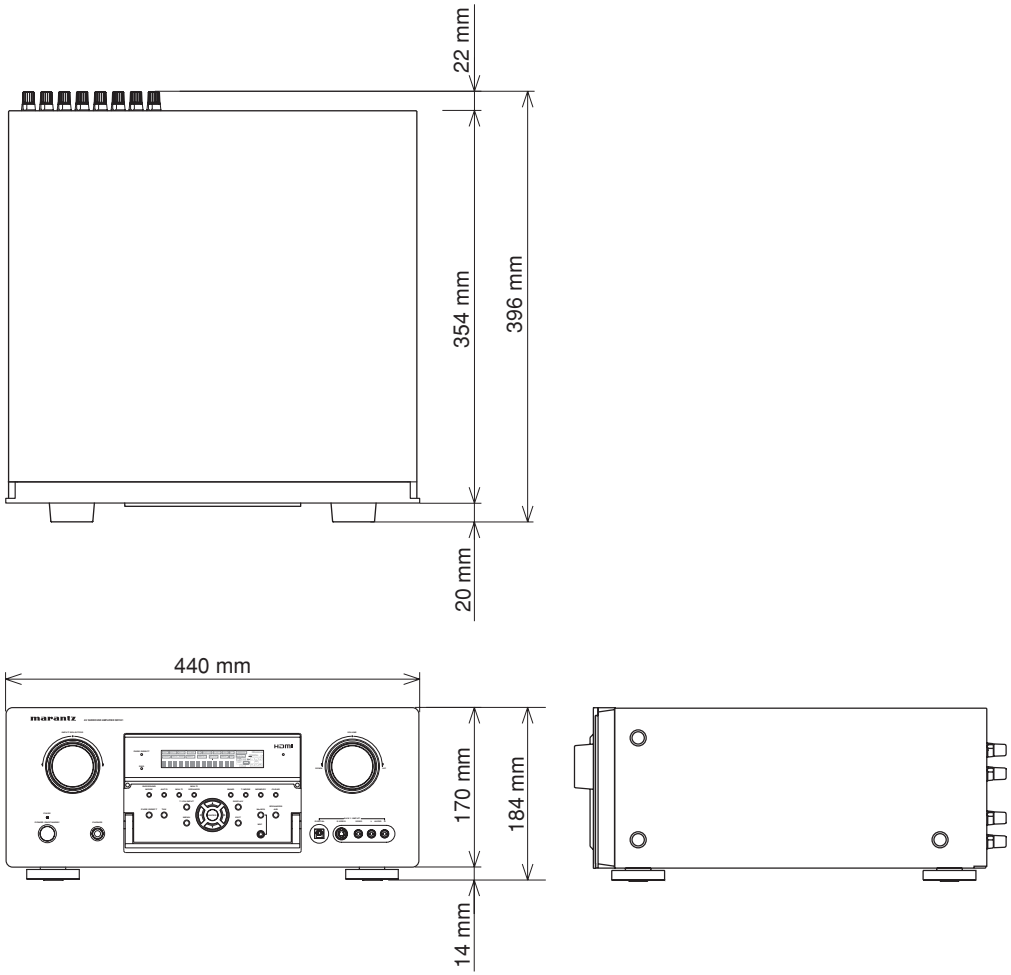
リモコン(RC8001SR)..... 1
マイク..... 1
単4形乾電池..... 3
FM アンテナ..... 1
AM ループアンテナ..... 1
フロントAUXジャック・カバー..... 1
電源ケーブル..... 1

総合

電源電圧..... AC 100 V 50/60 Hz
消費電力..... 740 W
スタンバイ消費電力..... 0.9 W
重量 ..... 15 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

外観寸法図



セットアップコード

アンプ

ソースボタン名 : AMP

Brand name	Setup code
Amstrad	0105
Arcam	0296
Audiolab	0296
Carver	0296
GE	0105
Genexxa	0422
Grundig	0296
Harman/Kardon	0919
JVC	0358
Left Coast	0919
Linn	0296
Magnavox	0296
Marantz	0919, 0296
Micromega	0296
Myryad	0296
Optimus	0422
Panasonic	0335
Philips	0919, 0296
Pioneer	0040
Polk Audio	0919, 0296
Realistic	0422
Revox	0296
Sony	0247
Soundesign	0105
Technics	0335
Thorens	0296
Victor	0358
Wards	0105, 0040
Yamaha	0381

レシーバー / チューナー

ソースボタン名 : AMP, TUNER

Brand name	Setup code
ADC	0558
Aiwa	1432, 0185, 1116, 1415, 1668
Alco	1417
Anam	1636
Apex Digital	1284
Audiolab	1216
Audiotronic	1216
Audiovox	1417
Bose	1256
Cambridge Soundworks	1397
Capetronic	0558
Carver	1216, 1116
Centrex	1284
Denon	1387
Ferguson	0558
Fine Arts	1216
Grundig	1216

レシーバー / チューナー

ソースボタン名 : AMP, TUNER

Brand name	Setup code
Harman/ Kardon	0137, 1331
Integra	0162, 1325
JBL	0137, 1333
JVC	0101, 0558, 1401, 1522
KLH	1417, 1439
Kenwood	1340, 1054
MCS	0066
Magnavox	1216, 1296, 0558, 1116
Marantz	1216, 0066, 1116, 1316
Micromega	1216
Musicmagic	1116
Myryad	1216
NAD	0347
Norcent	1416
Onkyo	0162, 0869, 1325
Optimus	1050, 0558
Panasonic	1545, 0066, 1315, 1790
Philips	1216, 1296, 1116, 1293, 1295, 1310, 1316
Pioneer	1050, 0041, 0558, 1411
Polk Audio	1316
Proscan	1281
Quasar	0066
RCA	1050, 1636, 1281, 0558, 1417
Saba	0558
Sansui	1116
Schneider	0558
Sony	1085, 0185, 1185, 1685, 1785
Stereophonics	1050
Sunfire	1340
Teac	1417
Technics	1335, 1545, 0066, 1336
Telefunken	0558
Thomson	1281
Thorens	1216
Uher	0558
Venturer	1417
Victor	0101
Wards	0185, 0041
Yamaha	0203, 1203, 1358

ケーブルテレビ

ソースボタン名 : AUX1

Brand name	Setup code
ABC	0030, 0035
Americast	0926
Bell South	0926
Birmingham Cable Communications	0303
British Telecom	0030
Cable & Wireless	1095
Daeryung	0904, 1904, 0504, 0035
Director	0503
Filmnet	0470
General	0503, 0837, 0303,

ケーブルテレビ

ソースボタン名 : AUX1

Brand name	Setup code
GoldStar	0171
Hamlin	0036, 0300
Instrument	0030
Jerrold	0503, 0837, 0303, 0030
LG	0171
MNet	0470
Memorex	0027
Motorola	0503, 0837, 0303, 1133
NTL	1095
Noos	0844
Ono	1095
PVP Stereo Visual Matrix	0030
Pace	0264, 1087, 1095
Panasonic	0027, 0035, 0134
Paragon	0027
Philips	0332, 0344
Pioneer	0904, 1904, 0171, 0560
Pulsar	0027
Quasar	0027
Regal	0306, 0300
Runco	0027
Sagem	0844
Samsung	0027, 0171
Scientific Atlanta	0904, 1904, 0504, 0035
Sony	1033
Starcom	0030
Supercable	0303
TS	0030
Tele+1	0470
Telewest	1095
Torx	0030
Toshiba	0027
Trans PX	0303
United Cable	0030
Zenith	0027, 0552, 0926

衛星放送チューナー

ソースボタン名 : DSS

Brand name	Setup code
@sat	1327
ABsat	0150
Alba	0482
AlphaStar	0799
Amstrad	0874
Aston	0169, 1156
Astro	0200
Atsat	1327
Avalon	0423
Blaupunkt	0200
British Sky Broadcasting	0874, 1202
Canal Digital	0880
Canal Satellite	0880

衛星放送チューナー

ソースボタン名 : DSS

Brand name	Setup code
Canal+	0880
Chaparral	0243
Citycom	1203
Connexions	0423
Crossdigital	1136
Cyrus	0227
D-box	0750, 1154
DMT	1102
DNT	0227, 0423
Daeryung	0423
Daewoo	1323
Digenius	0326
DirecTV	0419, 0593, 0666, 1169, 0274, 0776, 1776, 0751, 0846, 1883, 1103, 1136
Dish Network System	1032, 0802
DishPro	1032, 0802
Distratel	0111
Dream Multimedia	1264
Echostar	1032, 0802, 0194, 0423, 0637, 0880, 0898, 1113
Engel	1044
Expressvu	0802
FTE	0890
Finlux	0482
Fracarro	0898
Fuba	0423
GE	0593
GOI	0802
Galaxis	0890, 1138
General Instrument	0896
Gold Box	0880
Grundig	0200, 0874
HTS	0802
Hirschmann	0200, 0423
Hitachi	0846, 0482
Hughes Network Systems	1169, 0776, 1776
Humax	0890, 1203
InVideo	0898
JVC	0802
Kathrein	0150, 0200, 0227, 0276, 0685, 1248
Kreiselmeyer	0200
Labgear	1323
Logix	1044
Lorenzen	0326
Magnavox	0751, 0749
Manhattan	0482, 1044, 1110
Marantz	0227
MediaSat	0880
Memorex	0751
Metronic	0111
Mitsubishi	0776
Motorola	0896
Myryad	0227
Next Level	0896

衛星放送チューナー

ソースボタン名： DSS

Brand name	Setup code
Nokia	0482, 0750, 0778, 1154, 1250, 1750
OctalTV	1032
Orbitech	1127
Pace	0482, 0874, 1202, 1350
Panasonic	0274, 0728, 0874, 1347
Panda	0482
Paysat	0751
Philips	1169, 0776, 1776, 0751, 1103, 0749, 0160, 0227, 0482, 0880
Pioneer	0880
Promax	0482
Proscan	0419, 0593
RCA	0419, 0593, 0882, 0170
RFT	0227
RadioShack	0896
Radiola	0227
Radix	0423
SKY	0883, 0874, 1202
SM Electronic	1227
Sabre	0482
Sagem	0847, 1141, 1280
Samsung	1303, 1136, 1044, 1319
Sat Control	1327
Satstation	1110
Schwaiger	1138
Seemann	0423
Siemens	0200
Sony	0666, 1666, 0874
Star Choice	0896
Strong	1327
TPS	0847, 1280
Tantec	0482
TechniSat	1126, 1127
Telestar	1127
Thomson	0482, 0880, 1073, 1318
Topfield	1233
Toshiba	0776, 1776, 0817
UltimateTV	0419, 0666
Uniden	0751, 0749
Universum	0200
Ventana	0227
Wisi	0200, 0423, 0482
XSat	0150
Zehnder	1102
Zenith	0883, 1883

テープデッキ

ソースボタン名 : TAPE

Brand name	Setup code
Aiwa	0056
Carver	0056
Grundig	0056
Harman/Kardon	0056
Magnavox	0056
Marantz	0056
Myryad	0056
Optimus	0054
Philips	0056
Pioneer	0054
Polk Audio	0056
RCA	0054
Revox	0056
Sansui	0056
Sony	0270
Thorens	0056
Wards	0054

レーザーディスク

ソースボタン名 : AUX2

Brand name	Setup code
Carver	0091
Denon	0086
Marantz	0091
Mitsubishi	0086
NAD	0086
Nagsmi	0086
Optimus	0086
Philips	0091
Pioneer	0086
Salora	0091
Sony	0228
Telefunken	0086

CD/CD-R/MD プレーヤー

ソースボタン名： CD, CDR, MD

Brand name	Setup code
Aiwa	0184
Arcam	0184
Audio Research	0184
AudioTon	0184
Audiolab	0184
Audiomeca	0184
Cairn	0184
California Audio Labs	0056
Carver	0184, 0206
Cyrus	0184
DKK	0027
DMX Electronics	0184
Denon	0900
Dynamic Bass	0206
Emerson	0332
Fisher	0206

CD/CD-R/MD プレーヤー

ソースボタン名： CD, CDR, MD

Brand name	Setup code
Genexxa	0059, 0332
Goodmans	0332
Grundig	0184
Harman/ Kardon	0184, 0200
Hitachi	0059
JVC	0099
Kenwood	0708, 0653, 0055, 0064
Krell	0184
LXI	0332
Linn	0184
MCS	0056
Magnavox	0184, 0332
Marantz	0653, 0056, 0184
Matsui	0184
Memorex	0332
Meridian	0184
Micromega	0184
Miro	0027
Mission	0184
Myryad	0184
NAD	0027
NSM	0184
Naim	0184
Onkyo	0895
Optimus	0027, 0059, 0064, 0206, 0332
Panasonic	0056
Philips	0653, 0184
Pioneer	0059, 0332
Polk Audio	0184
Proton	0184
QED	0184
Quad	0184
Quasar	0056
RCA	0059, 0206, 0332
Realistic	0206
Revox	0184
Rotel	0184
SAE	0184
Sansui	0184, 0332
Sanyo	0206
Scott	0332
Sears	0332
Sharp	0888, 0064
Simaudio	0184
Sonic Frontiers	0184
Sony	0517, 0027
Symphonic	0332
TAG McLaren	0184
Tandy	0059
Technics	0056
Thorens	0184
Thule	0184
Universum	0184
Victor	0099
Wards	0184

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
MARANTZ 0001 TV1 TV, VDP	
MARANTZ 0002 TV2 Plasma	
AGB	0543
AOC	0478, 0120, 0207, 0087, 0057, 0205, 0036, 0119, 0135
ASA	0131
AWA	0036
Acura	0036
Addison	0119, 0135, 0680
Admiral	0120, 0490, 0190
Advent	0788
Aiko	0119
Akai	0839, 0729, 0057, 0036, 0235, 0388, 0543
Akura	0291
Alba	0036, 0064, 0398, 0695
America Action	0207
Ampro	0778
Amstrad	0198, 0036, 0064, 0398, 0439, 0460, 0543
Anam	0277, 0207, 0036
Anam National	0277, 0677
Anitech	0036
Apex Digital	0775, 0792, 0794
Audiosonic	0064, 0136
Audiovox	0478, 0207, 0119, 0650
Bang & Olufsen	0592
Basic Line	0036
Baur	0064, 0388, 0539
Baysonic	0207
Beaumark	0205
Beko	0397, 0513, 0741, 0742
Bell & Howell	0181
Beon	0064
Blaupunkt	0222
Blue Sky	0695, 1064
Bondstec	0274
Bradford	0207
Brandt	0136, 0362
Broksonic	0263, 0490
Bush	0036, 0064, 0398, 0401, 0695, 1064
CCE	0064
CGE	0274
CTC	0274
CXC	0207
Candle	0057
Carnivale	0057
Carver	0081, 0197
Cascade	0036
Cathay	0064
Celebrity	0027
Celera	0792
Centurion	0064
Changhong	0792
Ching Tai	0036, 0119

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
Chun Yun	0027, 0207, 0036, 0119
Chung Hsin	0207, 0080, 0135
Cimline	0036
Cineral	0478, 0119
Citizen	0087, 0057, 0119
Clarion	0207
Clarivox	0064
Clatronic	0274, 0397
Condor	0347, 0397
Conrac	0835
Contec	0207, 0036
Craig	0207
Crosley	0081
Crown	0207, 0036, 0064, 0397, 0445
Curtis Mathes	0074, 0081, 0181, 0478, 0120, 0087, 0729, 0057, 0172, 0193, 1174, 1374
Daewoo	0181, 0478, 0207, 0057, 0205, 1688, 0036, 0064, 0119, 0135, 0197, 0401, 0650, 0661
Dansai	0064
Dayton	0036
De Graaf	0235, 0575
Decca	0064, 0543
Denon	0172
Digatron	0064
Dixi	0036, 0064
Dumont	0044
Dwin	0747, 0801
ECE	0064
Elbe	0286
Electroband	0027
Elin	0064, 0575
Elite	0347
Elta	0036
Emerson	0181, 0263, 0490, 0207, 0205, 0388, 0650
Envision	0057, 0840
Epson	0860
Erres	0064
Ether	0057, 0036
Etron	0036
Europhon	0543
Ferguson	0064, 0100, 0136, 0265, 0314, 0362, 0587
Fidelity	0388
Finlandia	0235, 0373
Finlux	0064, 0131, 0132, 0373, 0543
Firstar	0263, 0036
Firstline	0036, 0274, 0695
Fisher	0181, 0131, 0235, 0397
Flint	0482
Formenti	0064, 0347
Fortress	0120
Frontech	0190, 0274, 0291
Fujitsu	0710, 0836
Funai	0207, 0198, 0291
Futuretech	0207

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
GE	0074, 0078, 0478, 0207, 0057, 0205, 1481, 0119, 0587, 1174, 1374
GEC	0064, 0543
Gateway	1782, 1783
Geloso	0036
Genexxa	0190
Gibralter	0044, 0057
GoldStar	0181, 0057, 0205, 0064, 0136, 0404
Goodmans	0064, 0398, 0401, 0661
Gorenje	0397
Gradiente	0080, 0197
Graetz	0190, 0388
Granada	0064, 0235, 0366, 0543
Grandin	0637
Grundig	0064, 0222, 0514, 0583, 0614
Grunpy	0207
HCM	0036, 0439
Hallmark	0205
Hankook	0207, 0057, 0205
Hanseatic	0064, 0347, 0388, 0455, 0583
Hantarex	0543
Harman/Kardon	0081
Harvard	0207
Havermy	0120
Hello Kitty	0478
Hinari	0036, 0064
Hisawa	0482
Hitachi	0057, 0205, 1172, 0172, 1283, 0036, 0119, 0132,0136, 0190, 0252, 0383, 0508, 0575, 0605
Hua Tun	0036
Huanyu	0401
Hypson	0064, 0291
ICE	0291, 0398
ITS	0398
ITT	0190, 0388, 0575
Imperial	0274, 0397, 0445
Indiana	0064
Infinity	0081
Ingelen	0190
Inno Hit	0543
Innova	0064
Inteq	0044
Interfunk	0064, 0190, 0274, 0388, 0539
Intervision	0064, 0291, 0404
JBL	0081
JCB	0027
JVC	0490, 0080, 0398, 0680, 0710
Jean	0183, 0078, 0263, 0036, 0119
Jensen	0788
KEC	0207
KTV	0207, 0057
Kaisui	0036
Kapsch	0190
Karcher	0637

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
Kathrein	0583
Kendo	0064
Kenwood	0057
Kneissel	0286, 0462
Kolin	0207, 0080, 0135
Korpel	0064
Koyoda	0036
L&S Electronic	0835
LG	0087, 0057, 0205, 0064, 0135, 0741
LXI	0074, 0081, 0181, 0183, 0205
Leyco	0064, 0291
Liesenk & Tter	0064
Loewe	0539
Luxor	0383, 0388
M Electronic	0036, 0064, 0131, 0132, 0136, 0190, 0314, 0373, 0401, 0507
MGA	0177, 0057, 0205
MTC	0087, 0057, 0539
Magnadyne	0274, 0543
Magnafon	0543
Magnavox	0081, 0057, 1481, 1281
Manesth	0291, 0347
Mark	0064
Matsui	0036, 0064, 0235, 0398, 0514, 0543
Matsushita	0277, 0677
Mediator	0064
Medion	0695, 0835, 1064
Megatron	0205, 0172
Memorex	0181, 0277, 0490, 0177, 0205, 0036, 1064
Metz	0474
Micromaxx	0835
Microstar	0835
Midland	0074, 0044, 0078
Minerva	0514
Minoka	0439
Mitsubishi	0181, 0277, 0120, 0263, 0207, 0177, 1277, 0057, 0205, 0135, 0539, 0863
Mivar	0318, 0319, 0543, 0636
Motorola	0120
Multitech	0207, 0036
Myryad	0583
NAD	0183, 0205, 0388, 0893
NEC	0181, 0183, 0078, 0057, 0205, 0036, 0197, 0482, 0524, 1731
NEI	0064
NTC	0119
Neckermann	0064, 0583
Netsat	0064
Newave	0120, 0205, 0036, 0119
Nikkai	0064, 0291
Nikko	0057, 0205, 0119
Nokia	0388, 0500, 0507, 0575, 0658
Norcent	0775, 0851
Nordmende	0136, 0314, 0587
Oceanic	0190, 0388

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
Onwa	0207, 0460
Optimus	0181, 0277, 0193, 0677
Optonica	0120
Orion	0263, 0490, 0064, 0347, 0543
Osaki	0291, 0439
Otto Versand	0064, 0347, 0539, 0583
Palladium	0397, 0445
Panama	0291
Panasonic	0081, 0277, 0078, 0064, 0190, 0677, 1437
Pathe Cinema	0265, 0347
Pausa	0036
Penney	0074, 0183, 0078, 0087, 0057, 0205, 1374
Perdio	0347
Philco	0081, 0490, 0207, 0057, 0205, 0172, 1688, 0064, 0274
Philips	0081, 0027, 0078, 0057, 0205, 1481, 0064, 0119, 0135, 0401, 0583, 0717
Phonola	0064
Pilot	0057
Pioneer	0193, 0136, 0190, 0314, 0706, 0787, 0893
Portland	0119
Prandoni-Prince	0543
Prima	0788
Prism	0078
Profex	0036, 0388
Proscan	0074
Protech	0036, 0064, 0274, 0291, 0445, 0695
Proton	0057, 0205, 0036
Pulsar	0044
Quasar	0277, 0078, 0677
Quelle	0064, 0131, 0388, 0539
R-Line	0064
RCA	0074, 0027, 0057, 0205, 1474, 1481, 0117, 0119, 0706, 1074, 1174, 1274, 1374, 1574
RFT	0455
RadioShack	0074, 0181, 0207, 0057, 0205
Radiola	0064
Radiomarelli	0543
Realistic	0181, 0207, 0057, 0205
Rediffusion	0388
Reoc	0741
Revox	0064
Rex	0190, 0286, 0291
Roadstar	0036, 0291, 0445
Runco	0044, 0057, 0524, 0630
SBR	0064
SEG	0291, 0695
SEI	0543
SKY	0064
SSS	0207
Saba	0136, 0190, 0314, 0362
Saccs	0265
Sagem	0637
Saisho	0036, 0291, 0543
Salora	0190, 0383, 0388, 0575

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
Sambers	0543
Sampo	0181, 0120, 0057, 0205, 0198, 0036, 0119, 0677, 1782
Samsung	0181, 0087, 0839, 0729, 0057, 0205, 0036, 0064, 0117, 0119, 0291, 0397, 0583, 0614, 0645, 0793, 0841
Sansei	0478
Sansui	0490
Sanyo	0181, 0207, 0131, 0235, 0366, 0826
Schaub Lorenz	0388
Schneider	0064, 0274, 0398, 0695
Scotch	0205
Scott	0263, 0207, 0205
Sears	0074, 0081, 0181, 0183, 0205, 0198
Seleco	0190, 0286
Semivox	0207
Semp	0183
Sharp	0120, 0057, 0677
Shen Ying	0036, 0119
Sheng Chia	0120, 0263, 0036
Siarem	0543
Siemens	0064, 0222
Sinudyne	0543
Skantic	0383
Skygiant	0207
Skyworth	0064
Solavox	0190
Sonitron	0235
Sonoko	0036, 0064
Sonolor	0190, 0235
Sontec	0064
Sony	1127, 0027, 0677, 0861, 1532, 1678
Soundesign	0207, 0205
Soundwave	0064, 0445
Sowa	0183, 0078, 0087, 0205, 0119
Squareview	0198
Standard	0036
Starlite	0207
Stern	0190, 0286
Supreme	0027
Sylvania	0081, 0057, 0198
Symphonic	0207, 0198
Synco	0027, 0478, 0120, 0087, 0205, 0119
Sysline	0064
T + A	0474
TCM	0835
TMK	0205
TNCi	0044
TVS	0490
Tacico	0205, 0036, 0119
Tai Yi	0036
Tandy	0120, 0190
Tashiko	0119, 0677
Tatung	0081, 0181, 0183, 0078, 0087, 0036, 0064, 0543

テレビ

ソースボタン名 : TV

Brand name	Setup code
Teac	0036, 0064, 0291, 0439, 0445, 0482, 0695, 1064
Tec	0274
Technema	0347
Technics	0277, 0078, 0677
Techwood	0078
Teco	0078, 0120, 0205, 0036, 0119, 0291, 0680
Teknika	0081, 0207, 0177, 0087, 0119
Telefunken	0729, 0136, 0289, 0362, 0652
Telemeister	0347
Teletech	0036
Tensai	0347
Tera	0057
Thomson	1474, 0136, 0314, 0587, 0652
Thorn	0064, 0131, 0388, 0539
Toshiba	0181, 0183, 0087, 1283, 0535, 0645, 0677, 0859, 1383, 1683, 1731
Triumph	0543
Tuntex	0057, 0036, 0119
Uher	0347
Universum	0064, 0131, 0132, 0291, 0373, 0397, 0519
Vector Research	0057
Vestel	0064
Victor	0277, 0080, 0677, 0680
Videosat	0274
Vidikron	0081
Vidtech	0205
ViewSonic	1782
Vision	0347
Voxson	0190
Waltham	0383
Wards	0081, 0057, 0205, 0893
Watson	0064, 0347
Waycon	0183
White Westinghouse	0490, 0064, 0347,0650
Yamaha	0057, 0796, 0860
Yapshe	0277
Yoko	0064, 0291
Zenith	0044, 0490, 0205, 0119

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
ASA	0064, 0108
Admiral	0075
Adventura	0027
Aiko	0305
Aiwa	0064, 0027, 0334, 0375, 0379
Akai	0068, 0342
Akiba	0099
Alba	0099, 0305, 0342, 0379
America Action	0305
American High	0062
Amstrad	0027

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
Anam	0064, 0267, 0305, 0253, 0507
Anam National	0253, 1589
Anitech	0099
Asha	0267
Asuka	0064
Audiovox	0064, 0305
Baird	0027, 0131, 0068
Basic Line	0099, 0305
Beaumark	0267
Bell & Howell	0131
Blaupunkt	0253
Brandt	0347
Brandt Electronic	0068
Broksonic	0211, 0375, 1506
Bush	0099, 0305, 0379
CCE	0099, 0305
CGE	0027
Calix	0064
Canon	0062
Carver	0108
Cimline	0099
Cineral	0305
Citizen	0064, 0305, 1305
Colt	0099
Combitech	0379
Craig	0064, 0074, 0267, 0099
Crown	0099, 0305
Curtis Mathes	0087, 0062, 0068, 1062
Cybernex	0267
Cyrus	0108
Daewoo	0072, 0131, 0305, 0669, 1305
Dansai	0099
De Graaf	0069
Decca	0108, 0027
Denon	0069
Dual	0068
Dumont	0108, 0027, 0131
Dynatech	0027
ESC	0267, 0305
Elcatech	0099
Electrohome	0064
Electrophonic	0064
Emerex	0059
Emerson	0062, 0064, 0211, 0267, 0072, 0027, 0070, 0305, 1305, 1506
Ferguson	0068, 0347
Fidelity	0027
Finlandia	0108, 0131
Finlux	0108, 0027, 0069, 0131
Firstline	0064, 0072, 0070, 0099
Fisher	0074, 0131
Fuji	0062, 0060
Fujitsu	0072, 0027
Funai	0027
GE	0087, 0062, 0267, 0834, 1062, 1087

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
GEC	0108
Garrard	0027
General	0072
Go Video	0459
GoldHand	0099
GoldStar	0064, 0252, 0507, 1264
Goodmans	0064, 0027, 0099, 0305
Gradiente	0027
Graetz	0267, 0131, 0068
Granada	0108, 0131
Grandin	0064, 0027, 0099
Grundig	0108, 0099, 0253, 0374
HCM	0099
HI-Q	0074
Hanseatic	0064
Harley Davidson	0027
Harman/Kardon	0108
Harwood	0099
Hinari	0267, 0099, 0379
Hitachi	0064, 0267, 0027, 0069, 0068
Hughes Network Systems	0069
Hypson	0099
ITT	0267, 0131, 0068
ITV	0064, 0305
Imperial	0027
Interfunk	0108
JVC	0072, 0094, 0068
Jensen	0068
KEC	0064, 0305
KLH	0099
Kaisui	0099
Kenwood	0094, 0068
Kodak	0062, 0064
Kolin	0070, 0068
Korpel	0099
LG	0064, 0072, 0069, 0507
LXI	0064
Lenco	0305
Leyco	0099
Lloyd's	0027
Loewe	0064, 0108, 1589
Logik	0267, 0099
Luxor	0075, 0131, 0070
M Electronic	0027
MEI	0062
MGA	0267, 0070
MGN Technology	0267
MTC	0267, 0027
Magnasonic	1305
Magnavox	0062, 0066, 0108, 0027, 1808
Magnin	0267
Manesth	0072, 0099
Marantz	0062, 0108
Marta	0064

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
Matsui	0375, 0379
Matsushita	0062
Medion	0375
Memorex	0062, 0064, 0075, 0066, 0074, 0267, 0027, 0131, 0334, 0375, 1264
Memphis	0099
Metz	0064, 0374, 1589
Minolta	0069
Mitsubishi	0108, 0094, 0070, 0068, 0834
Motorola	0062, 0075
Multitech	0027, 0099
Murphy	0027
Myryad	0108
NAD	0131
NEC	0062, 0064, 0075, 0131, 0094, 0068
National	0253
Neckermann	0108
Nesco	0099
Newave	0064
Nikko	0064
Noblex	0267
Nokia	0267, 0131, 0068
Nordmende	0068, 0347
Oceanic	0027, 0068
Okano	0342, 0375
Olympus	0062, 0253
Optimus	0064, 0075, 0131, 0459
Orion	0211, 0375, 0379, 1506
Osaki	0064, 0027, 0099
Otto Versand	0108
Palladium	0064, 0068, 0099
Panasonic	0062, 0252, 0253, 0643, 1062, 1589
Pathe Marconi	0068
Penney	0062, 0064, 0267, 0069, 1062, 1264
Pentax	0069
Perdio	0027
Philco	0062
Philips	0062, 0108, 0645, 1108, 1208
Phonola	0108
Pilot	0064
Pioneer	0108, 0069, 0094
Polk Audio	0108
Profitronic	0267
Proline	0027
Proscan	0087, 1087
Protec	0099
Pulsar	0066
Pye	0108
Quasar	0062, 1062
Quelle	0108
RCA	0087, 0062, 0267, 0069, 0834, 1062, 1087
RadioShack	0027
Radiola	0108
Radix	0064
Randex	0064

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
Realistic	0062, 0064, 0075, 0074, 0027, 0131
Reoc	0375
ReplayTV	0641, 0643
Rex	0068
Roadstar	0064, 0267, 0099, 0305
Runco	0066
SBR	0108
SEG	0267
SEI	0108
STS	0069
Saba	0068, 0347
Salora	0070
Sampo	0064, 0075
Samsung	0267, 0072, 0459
Sanky	0075, 0066
Sansui	0027, 0094, 0068, 1506
Sanyo	0074, 0267, 0131
Saville	0379
Schaub Lorenz	0027, 0131, 0068
Schneider	0108, 0027, 0099
Scott	0211, 0072, 0070
Sears	0062, 0064, 0074, 0027, 0069, 0131, 1264
Seleco	0068
Semp	0072
Sharp	0075, 0834
Shintom	0131, 0099
Shogun	0267
Siemens	0064, 0108, 0131
Silva	0064
Singer	0072, 0099
Sinudyne	0108
Sonic Blue	0641, 0643
Sontec	0064
Sony	0062, 0059, 0060, 0027, 0663, 1259
Sunkai	0375
Sunstar	0027
Suntronic	0027
Sylvania	0062, 0108, 0027, 0070, 1808
Symphonic	0027
TMK	0267
Tandy	0027, 0131
Tashiko	0064, 0027
Diamond	0795
Digitrex	0699
Emerson	0618
Tatung	0108, 0072, 0027, 0094, 0068
Teac	0027, 0068, 0305, 0334, 0669
Technics	0062, 0253
Teco	0062, 0064, 0075, 0068
Teknika	0062, 0064, 0027
Teleavia	0068
Telefunken	0068, 0347
Tenosal	0099
Tensai	0027
Thomas	0027

ビデオデッキ

ソースボタン名 : VCR

Brand name	Setup code
Thomson	0087, 0094, 0068, 0347
Thorn	0131, 0068
Tivo	0645, 0663
Toshiba	0108, 0072, 0094, 0070, 0068, 0872
Totevision	0064, 0267
Uher	0267
Unitech	0267
Universum	0064, 0108, 0267, 0027
Vector	0072
Victor	0094, 0068
Video Concepts	0072
Videomagic	0064
Videosonic	0267
Villain	0027
Wards	0087, 0062, 0075, 0074, 0108, 0267, 0027, 0069, 0099
White Westinghouse	0099
XR-1000	0062, 0027, 0099
Yamaha	0068
Yamishi	0099
Yokan	0099
Yoko	0267
Zenith	0066, 0060, 0027, 1506

DVD プレーヤー

ソースボタン名 : DVD

Brand name	Setup code
MARANTZ DVD1	0001
MARANTZ DVD2	0002
Acoustic Solutions	0757
Alba	0744
Amstrad	0740
Apex Digital	0699, 0744, 0782, 0821, 0823, 0857, 1127
Blaupunkt	0744
Blue Parade	0598
Bush	0740
Centrex	0699
Clatronic	0815
CyberHome	0741
DVD2000	0548
Daewoo	0811, 0797
Dansai	0797
Decca	0797
Denon	0517
Enterprise	0618
Fisher	0697
GE	0549, 0744
Go Video	0742
GoldStar	0768
Gradiente	0678
Greenhill	0744
Grundig	0566
Hitachi	0600, 0691
Hiteker	0699

DVD プレーヤー

ソースボタン名 : DVD

Brand name	Setup code
JVC	0585, 0650
KLH	0744
Kenwood	0517, 0561
Koss	0678
LG	0768
Limit	0795
Magnavox	0530, 0702
Memorex	0858
MiCO	0750
Microsoft	0549
Mintek	0744
Mitsubishi	0548
Mustek	0757
Nesa	0744
Onkyo	0530
Oritron	0678
Palsonic	0699
Panasonic	0517, 0659, 1389
Philips	0530, 0566, 0673, 0881
Pioneer	0552, 0598, 0658, 0659
Polk Audio	0566
Proscan	0549
Qwestar	0678
RCA	0549, 0598, 0744
Rotel	0650
SM Electronic	0757
Samsung	0600
Sanyo	0697
Sharp	0657
Sherwood	0797
Shinsonic	0560
Slim Art	0811
Sony	0560, 0891
Sylvania	0702
Tatung	0797
Teac	0598, 0744
Technics	0517
Theta Digital	0598
Thomson	0549
Toshiba	0530
Urban Concepts	0530
XBox	0549
Yamaha	0517, 0566, 0572
Zenith	0530, 0618, 0768
Zeus	0811

ダイレクトボタン機能

ソースボタン名: AMP

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 AUTO	SELECT AUTO SURROUND
	2 DD	SELECT DOLBY MODE
	3 DTS	SELECT DTS MODE
	4 EX/ES	SELECT EX/ES
	5 DIRECT	SELECT PURE DIRECT
PAGE 2	1 MCH-ST	SELECT MULTI CHANNEL (MOVIE, MUSIC)
	2 STEREO	SELECT STEREO MODE
	3 VIRTUA	SELECT VIRTUAL MODE
	4 CS-II	SELECT CS-II MODE
	5 HT-EQ	SELECT RE-EQ MODE
PAGE 3	1 NIGHT	NIGHT MODE ON/OFF
	2 BASS +	BASS +
	3 BASS -	BASS -
	4 TREB +	TREBLE +
	5TREB -	TREBLE -
PAGE 4	1 MULTI	MULTI ROOM ON/OFF
	2 M-SPKR	MULTI SPEAKER ON/OFF
	3 A/D	SELECT ANALOG/DIGITAL
	4 V-OFF	VIDEO OFF
	5 AUDIO	–

ソースボタン名 : TUNER

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 FM	SELECT FM
	2 AM	SELECT AM
	3 XM/DAB	
	4 T-MODE	SELECT MONO/STEREO
	5 BAND	SELECT RADIO BAND
PAGE 2	1 SCAN +	FREQUENCY SCAN UP
	2 SCAN -	FREQUENCY SCAN DOWN
	3 T-MODE	SELECT MONO/STEREO
	4 P-SCAN	SELECT PRESET SCAN
	5 P-INFO	SHOW PRESET INFORMATION
PAGE 3 European model only	1 DISP	
	2 PTY	
	3 AF	
	4 STM	
	5 DWR	
PAGE 4	1 SCAN +	FREQUENCY SCAN UP
	2 SCAN -	FREQUENCY SCAN DOWN
	3 DISP	
	4 CAT +	
	5 CAT -	

ソースボタン名 : DVD

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 MENU	SELECTS MAIN MENU
	2 AUDIO	SELECT LANGUAGES
	3 SUB-T	SELECT SUB TITLE
	4 10+	DIGIT ENTRY +10
	5 TRAY	TRAY OPEN/CLOSE
PAGE 2	1 SETUP	SELECTS SETUP MENU
	2 ANGLE	SELECTS ANGLE
	3 OSD	ACTIVATES ON SCREEN DISPLAY
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 SLOW	SLOW FORWARD
	2 L-PLAY	LAST PLAY
	3 SHUFLE	SHUFFLE PLAY
	4 REPEAT	REPEAT MODE
	5 A/B	REPEAT A TO B
PAGE 4	1 RETURN	RETURN TO MENU
	2 T/C	TITLE AND CHAPTER
	3 3-D	SURROUND ON/OFF
	4 TITLE	SELECTS TITLE MENU
	5 ZOOM	ZOOM MODE ON/OFF

ソースボタン名 : CD

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 DISC +	CD CHANGER NEXT DISC
	2 DISC -	CD CHANGER PREVIOUS DISC
	3 SHUFLE	SHUFFLE PLAY
	4 REPEAT	REPEAT
	5 TRAY	TRAY OPEN/CLOSE
PAGE 2	1 TEXT	ACTIVATE TEXT FUNCTION
	2 AMS	AUTO MUSIC SCAN
	3 SCROLL	SCROLL/RECALL
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 DISC 1	CD CHANGER DISC 1
	2 DISC 2	CD CHANGER DISC 2
	3 DISC 3	CD CHANGER DISC 3
	4 DISC 4	CD CHANGER DISC 4
	5 DISC 5	CD CHANGER DISC 5
PAGE 4	1 UNIT	SELECT UNIT No.
	2 TITL-S	SELECT TITLE SEARCH
	3 TRACK	SELECT TRACK No.
	4 CATGRY	SELECT CATEGORY
	5 P-MODE	SELECT PLAY MODE

ソースボタン名 : VCR

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 TV/VCR	SELECT TV/VCR
	2 2XPLAY	TWICE NORMAL PLAYBACK SPEED
	3 SLOW	SLOW PLAYBACK SPEED
	4 STILL	STILL FRAME
	5 EJECT	EJECT
PAGE 2	1 OTR	ONE TOUCH RECORDING
	2 AUDIO	SELECT AUDIO MODE
	3 SKIP	SKIP TO NEXT PROG. MARKER
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 VIS +	VHS INDEX SERCH NEXT
	2 VIS-	VHS INDEX SERCH PREVIOUS
	3	
	4	
	5	
PAGE 4	1 RETURN	RETURN TO MENU
	2 T/C	TITLE AND CHAPTER
	3 3-D	SURROUND ON/OFF
	4 TITLE	SELECTS TITLE MENU
	5 ZOOM	ZOOM MODE ON/OFF

ソースボタン名 : CDR

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 INPUT	SELECT INPUT SOURCE
	2 INCR	INCREMENTS TRACK No.
	3 SYNC-R	ACTIVATE SYNCRO RECORDING
	4 PROG	ACTIVATE PROGRAM MODE
	5 TRAY	TRAY OPEN/CLOSE
PAGE 2	1 SCROLL	SCROLL/RECALL
	2 FINAL	FINALIZES WRITES TOC
	3 BLANK	RECORDS BLANK
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 BLANK	RECORDS BLANK
	2 REPEAT	ACTIVATE REPEAT MODE
	3	
	4	
	5	
PAGE 4	1 RETURN	RETURN TO MENU
	2 T/C	TITLE AND CHAPTER
	3 3-D	SURROUND ON/OFF
	4 TITLE	SELECTS TITLE MENU
	5 ZOOM	ZOOM MODE ON/OFF

ソースボタン名: TAPE

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 TAPE-A	SELECT TAPE DECK A
	2 TAPE-B	SELECT TAPE DECK B
	3 DIR	AUTO REVERSE DIRECTION
	4 TIME	TIME DISPLAY
	5 TRAY	TRAY OPEN/CLOSE
PAGE 2	1 AMS	AUTO MUSIC SCAN
	2	
	3	
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 SLOW	SLOW FORWARD
	2 L-PLAY	LAST PLAY
	3 SHUFLE	SHUFFLE PLAY
	4 REPEAT	REPEAT MODE
	5 A/B	REPEAT A TO B
PAGE 4	1 RETURN	RETURN TO MENU
	2 T/C	TITLE AND CHAPTER
	3 3-D	SURROUND ON/OFF
	4 TITLE	SELECTS TITLE MENU
	5 ZOOM	ZOOM MODE ON/OFF

ソースボタン名 : MD

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 REPEAT	SELECTS REPEAT MODE
	2 SHUFLE	SELECTS SHUFFLE PLAY
	3 DISP	SELECTS DISPLAY MODE
	4 EDIT	SELECT EDIT MODE
	5 EJECT	EJECT
PAGE 2	1 SP/LP	SELECTS SP/LP MODE
	2 DELETE	SELECTS DELETE
	3 ENTER	SELECTS ENTER
	4 FF	FAST FORWARD
	5 REW	REWIND
PAGE 3	1 MARKER	SELECTS AUTO MARKER
	2 PROG	SELECTS PROGRAM MODE
	3 SYNC-R	SYNCRO REC
	4 CHAR	SELECTS CHARACTER MODE

ソースボタン名： AUX 1

PAGE	Command	Note
PAGE 1	1 SHUFFL	SELECT SHUFFLE PLAY
	2 REPEAT	SELECT REPEAT PLAY
	3 MODE	CHANGE USER INTERFACE MODE
	4 SORT	SORT DATA BASE
	5 MUTE	MUTE ON/OFF (TOGGLE)
PAGE 2	1 ALBUM+	NEXT ALBUM
	2 ALBUM-	PREVIOUS ALBUM
	3 LIST+	NEXT PLAY LIST
	4 LIST-	PREVIOUS PLAY LIST
	5	
PAGE 3	1 ARTIST	SORT ORDER (ARTIST)
	2 ALBUM	SORT ORDER (ALBUM)
	3 SONG	SORT ORDER (SONG)
	4 GENRE	SORT ORDER (GENRE)
	5 P-LIST	SORT ORDER (PLAY LIST)
PAGE 4	1 INPUT+	INPUT SELECTOR FORWARD
	2 INPUT-	INPUT SELECTOR REVERSE
	3	
	4	
	5	

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間
9：30ー12：00　13：00ー17：00
（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「**製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内**」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.jp

Printed in China　10/2006　00M05CW851110　ecmf-d